

事業用自動車の交通事故統計（令和6年版）
[第1分冊]



令和8年3月
国土交通省 物流・自動車局

目 次

1. 事故全体の傾向	1
1-1. 交通事故全体の推移	1
1-2. 自動車事故件数の推移	4
1-3. 自動車事故死者数の推移	8
1-4. 自動車死亡事故件数の推移	13
1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故の推移	17
1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故	18
1-7. 業態別危険認知速度別の交通事故	20
1-8. 業態別時間帯別の交通事故	22
1-9. 交通事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数	24
2. バスの事故	26
2-1. 乗合バスの交通事故	30
2-2. 貸切バスの交通事故	46
3. タクシーの交通事故	58
4. トラックの交通事故	73
5. まとめ	95

【凡 例】

1. 「交通事故」とは、道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路において、車両等及び列車の交通によって起こされた事故で、人の死亡又は負傷を伴うもの（人身事故）をいう。物損事故については計上していない。
2. 「自動車事故」とは、交通事故のうち、自動車及び軽自動車の交通によって起された事故をいう。
3. 「自動車事故」は、「事業用自動車」の事故と、「自家用自動車」の事故に分けられる。うち、「自家用自動車」とは、乗用車（バス、マイクロ、普通乗用車、軽乗用車）及び、貨物車（大型貨物、中型貨物、準中型貨物、普通貨物、軽貨物、トレーラー）を合わせたものをいう。
4. 「死亡」（「死者」）とは、交通事故によって、発生から24時間以内に亡くなった場合（人）をいう。
5. 「重傷」（「重傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）以上の治療を要する場合（人）をいう。
6. 「軽傷」（「軽傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）未満の治療を要する場合（人）をいう。
7. 「負傷」（「負傷者」）とは、「重傷」（「重傷者」）と「軽傷」（「軽傷者」）の合計をいう。
8. 「貨物自動車」の分類は道路交通法に基づくものとする。
 - 大型　：車両総重量11トン以上、または最大積載量6.5トン以上
 - 中型　：車両総重量7.5トン以上11トン未満、または最大積載量4.5トン以上6.5トン未満
 - 準中型：車両総重量3.5トン以上7.5トン未満、または最大積載量2トン以上4.5トン未満
 - 普通　：車両総重量3.5トン未満、または最大積載量2トン未満
 - 軽　　：貨物自動車のうち、軽自動車であるもの

1. 事故全体の傾向

1-1. 交通事故全体の推移

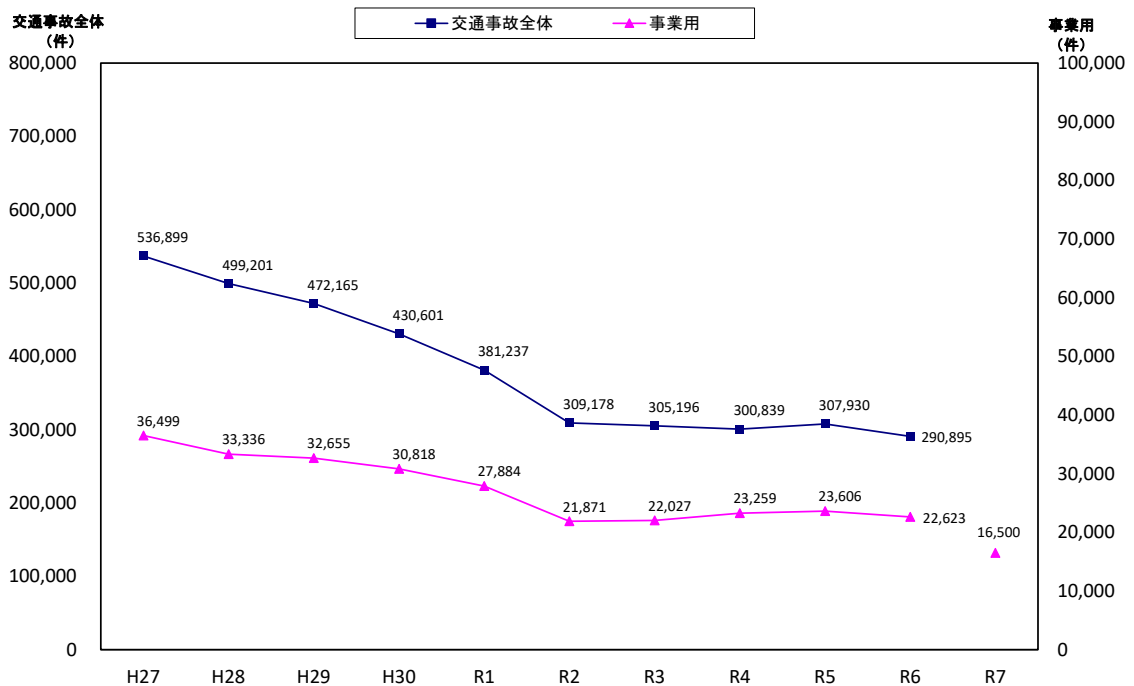
自動車に加え、二輪車や自転車等を含む「交通事故全体」と、「事業用自動車」の交通事故の推移を、「交通事故件数」、「交通事故死者数」、「交通死亡事故件数」の3つを比較した。

(1) 交通事故件数の推移

令和6年中に全国で発生した交通事故全体の件数は290,895件であり、そのうち、事業用自動車は22,623件であった。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2025（令和3年3月）」において、令和7年までに人身事故件数を16,500件以下とする削減目標が示されている。

〔図 1〕 交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 1〕 交通事故件数の推移 (件)

年	区分	交通事故件数	
		交通事故全体	事業用
H27		536,899	36,499
H28		499,201	33,336
H29		472,165	32,655
H30		430,601	30,818
R1		381,237	27,884
R2		309,178	21,871
R3		305,196	22,027
R4		300,839	23,259
R5		307,930	23,606
R6		290,895	22,623

出典：警察庁「交通統計」

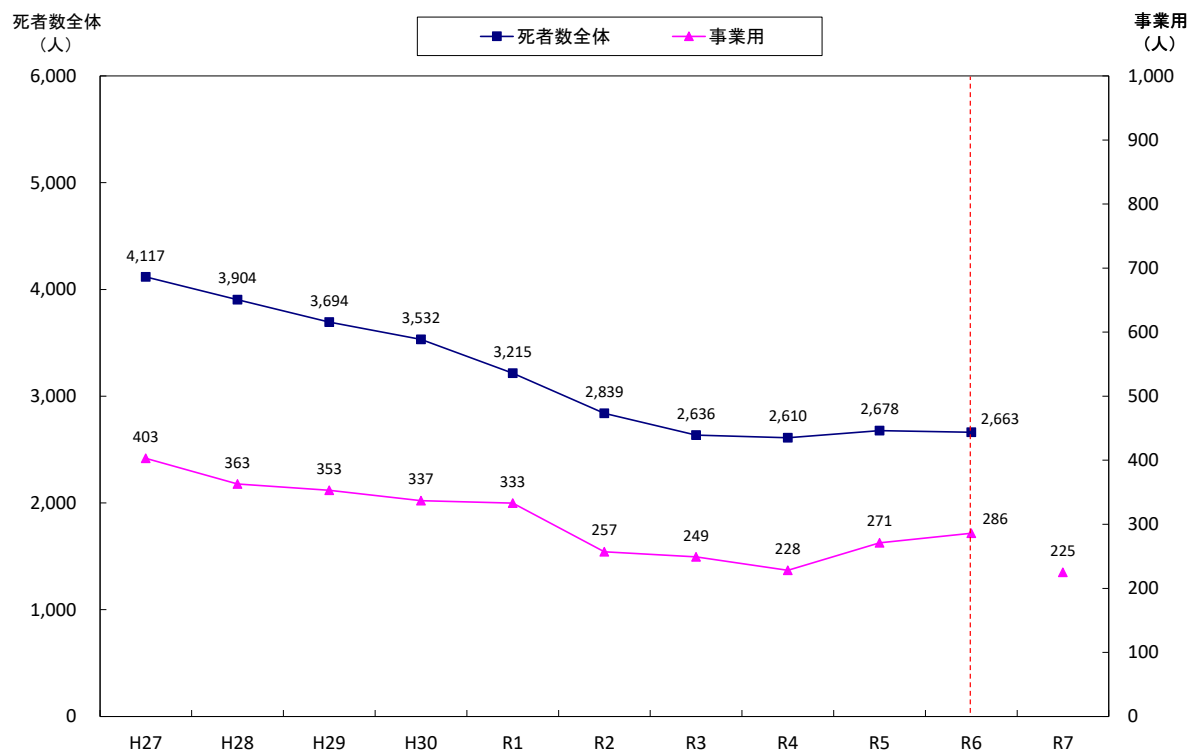
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 交通事故死者数の推移

令和6年中に全国で発生した交通事故全体における死者数は2,663人であり、そのうち、事業用自動車での交通事故死者数は286人となっている。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2025」において、令和7年までに事業用自動車での死者数を225人以下とする削減目標が示されている。

〔図 2〕 交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 2〕 交通事故死者数の推移 (人)

年	区分	死者数	
		死者数全体	事業用
H27		4,117	403
H28		3,904	363
H29		3,694	353
H30		3,532	337
R1		3,215	333
R2		2,839	257
R3		2,636	249
R4		2,610	228
R5		2,678	271
R6		2,663	286

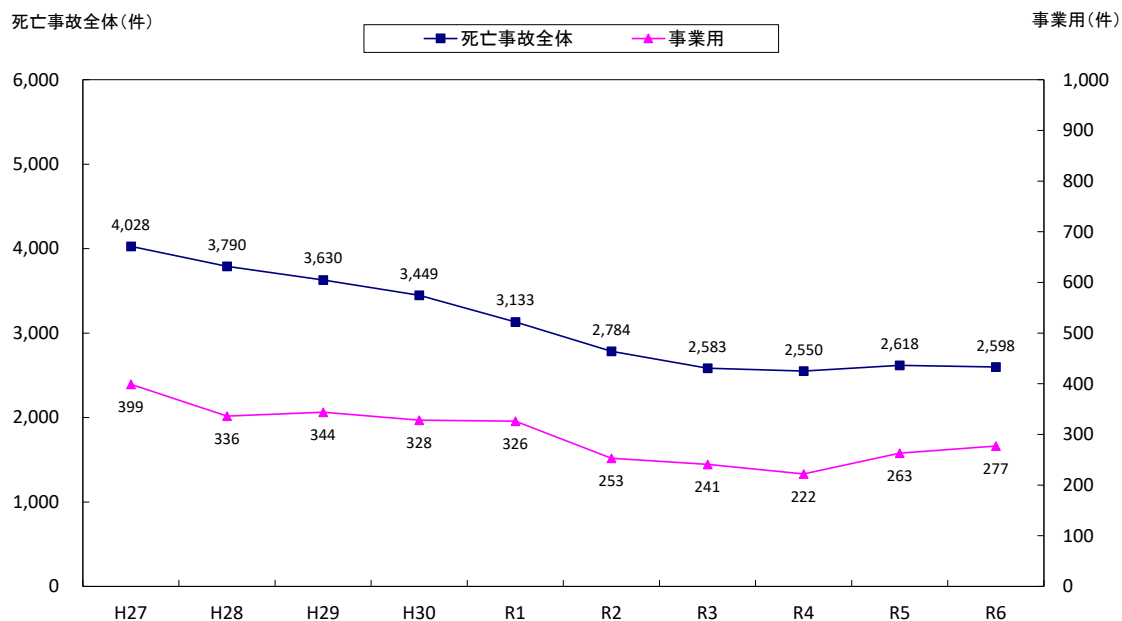
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 交通死亡事故件数の推移

令和6年中に全国で発生した交通死亡事故全体の件数は2,598件であり、前年と比べて20件減少している。そのうち、事業用自動車は277件であり、前年と比べて14件増加している。

〔図 3〕 交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 3〕 交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	死亡事故件数	
		死亡事故全体	事業用
H27		4,028	399
H28		3,790	336
H29		3,630	344
H30		3,449	328
R1		3,133	326
R2		2,784	253
R3		2,583	241
R4		2,550	222
R5		2,618	263
R6		2,598	277

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

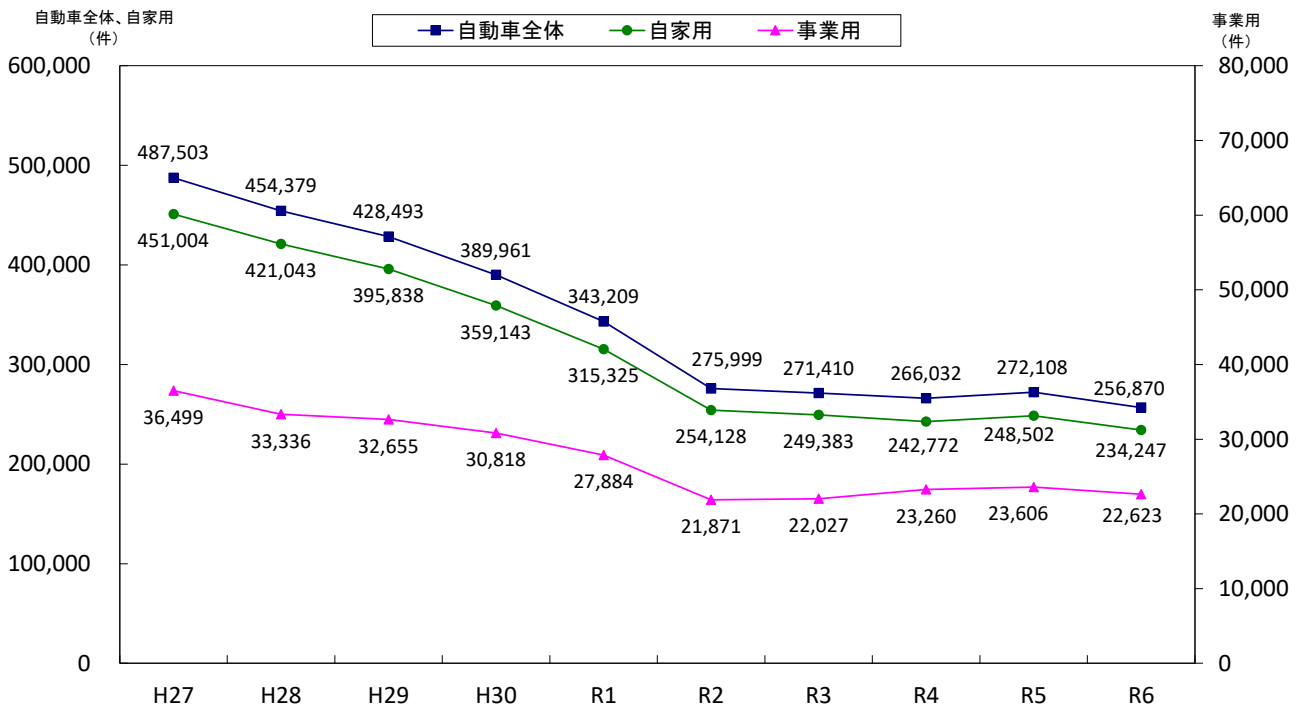
1-2. 自動車事故件数の推移

「事業用自動車」「自家用自動車（自家用のバス、乗用車及びトラックをいう。以下同じ）」及び「自動車全体（事業用自動車と自家用自動車を合わせたものをいう。以下同じ）」について、「交通事故件数」「交通事故死者数」「交通死亡事故件数」の3つを比較した。

(1) 自動車事故件数の推移

令和6年中に全国で発生した自動車全体の交通事故件数は256,870件であり、そのうち、自家用自動車は234,247件、事業用自動車は22,623件となっている。

〔図4〕 自動車事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表4〕 自動車事故件数の推移 (件)

年	区分	自動車全体	自家用	事業用
	H27	487,503	451,004	36,499
	H28	454,379	421,043	33,336
	H29	428,493	395,838	32,655
	H30	389,961	359,143	30,818
	R1	343,209	315,325	27,884
	R2	275,999	254,128	21,871
	R3	271,410	249,383	22,027
	R4	266,032	242,772	23,260
	R5	272,108	248,502	23,606
	R6	256,870	234,247	22,623

出典：警察庁「交通統計」

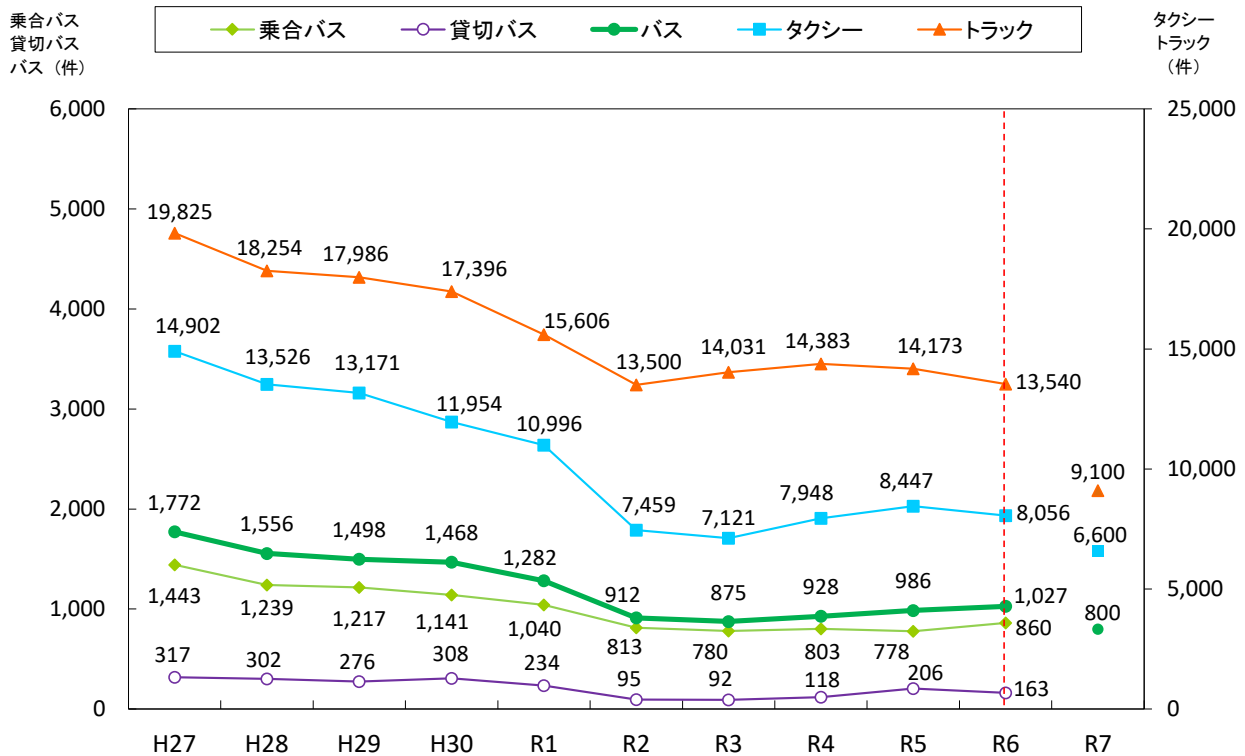
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

事業用自動車の交通事故件数を業態別にみると、令和6年は前年と比べて貸切バス、タクシー、トラックは減少、乗合バスは増加している。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2025」において、令和7年までに、バスの事故件数を800件以下、タクシーの事故件数を6,600件以下、トラックの事故件数を9,100件以下とする削減目標が示されている。

〔図 5〕 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 5〕 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移（件）

年	区分	バス				タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他			
H27		1,772	1,443	317	12	14,902	19,825
H28		1,556	1,239	302	15	13,526	18,254
H29		1,498	1,217	276	5	13,171	17,986
H30		1,468	1,141	308	19	11,954	17,396
R1		1,282	1,040	234	8	10,996	15,606
R2		912	813	95	4	7,459	13,500
R3		875	780	92	3	7,121	14,031
R4		928	803	118	7	7,948	14,383
R5		986	778	206	2	8,447	14,173
R6		1,027	860	163	4	8,056	13,540

※平成29年以降、乗車定員11人未満であり路線定期運行を行う業態は、乗合バスとして計上している。

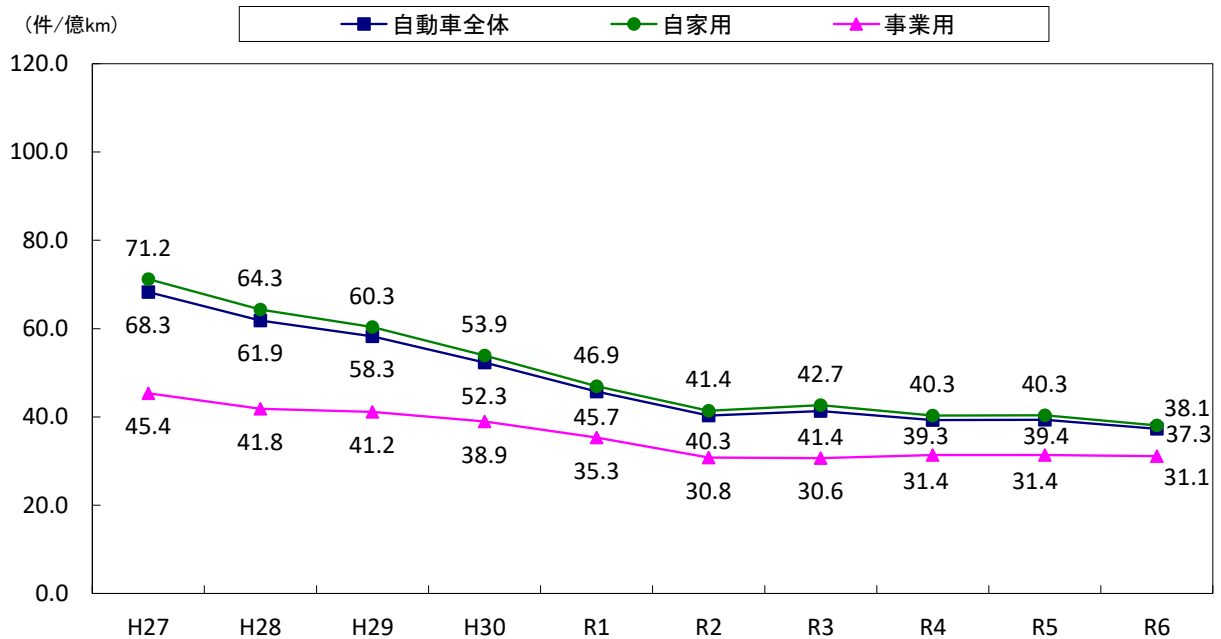
（業態別の統計については、以下同様）

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移

走行距離あたりの自動車事故件数は、自動車全体、自家用自動車、事業用自動車のいずれも減少傾向となっており、令和6年は前年より減少した。

〔図 6〕 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 6〕 走行距離と自動車事故件数の推移

年	区分	事故件数(件)			走行距離(億km)		
		自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H27		487,503	451,004	36,499	7,137.1	6,332.5	804.7
H28		454,379	421,043	33,336	7,345.8	6,548.7	797.1
H29		428,493	395,838	32,655	7,354.2	6,560.7	793.5
H30		389,961	359,143	30,818	7,451.7	6,660.2	791.5
R1		343,209	315,325	27,884	7,506.4	6,716.3	790.1
R2		275,999	254,128	21,871	6,846.8	6,137.2	709.7
R3		271,410	249,383	22,027	6,563.5	5,844.5	719.0
R4		266,032	242,773	23,259	6,767.2	6,025.7	741.5
R5		272,108	248,502	23,606	6,911.3	6,159.1	752.2
R6		256,870	234,247	22,623	6,881.2	6,153.9	727.4

出典：警察庁「交通統計」

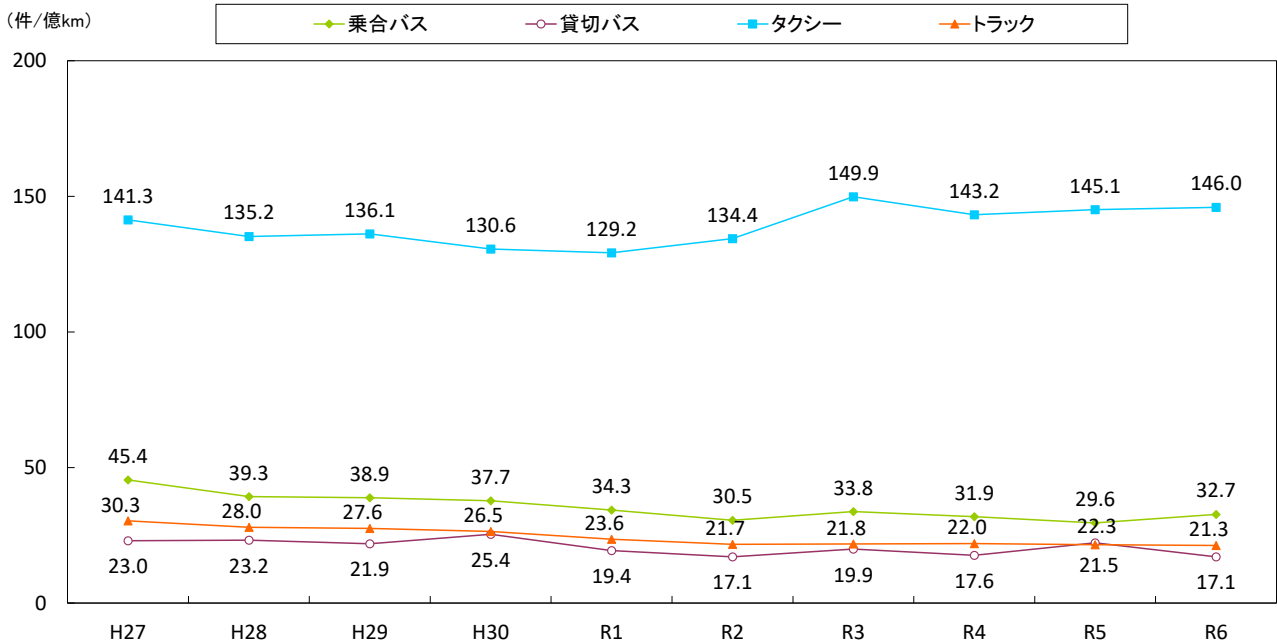
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

走行距離あたりの事業用自動車の交通事故件数は、令和6年は前年と比べて乗合バスとタクシーが増加した。

〔図 7〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 7〕 事業用自動車の業態別走行距離と交通事故件数の推移

区分 年	事故件数(件)							走行距離(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス	乗合	貸切	タクシー	トラック	自動車全体
H27	1,772	1,443	317	12	14,902	19,825	487,503	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7,137.1
H28	1,556	1,239	302	15	13,526	18,254	454,379	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7,345.8
H29	1,498	1,217	276	5	13,171	17,986	428,493	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8	7,354.2
H30	1,468	1,141	308	19	11,954	17,396	389,961	42.4	30.2	12.1	91.5	657.6	7,451.7
R1	1,282	1,040	234	8	10,996	15,606	343,209	42.4	30.3	12.1	85.1	662.5	7,506.4
R2	912	813	95	4	7,459	13,500	275,999	32.2	26.6	5.6	55.5	622.0	6,846.8
R3	875	780	92	3	7,121	14,031	271,410	27.7	23.1	4.6	47.5	643.8	6,563.5
R4	928	803	118	7	7,948	14,383	266,032	31.9	25.2	6.7	55.5	654.1	6,767.2
R5	986	778	206	2	8,447	14,173	272,108	35.5	26.3	9.3	58.2	658.5	6,911.3
R6	1,027	860	163	4	8,056	13,540	256,870	35.8	26.3	9.5	55.2	636.3	6,881.2

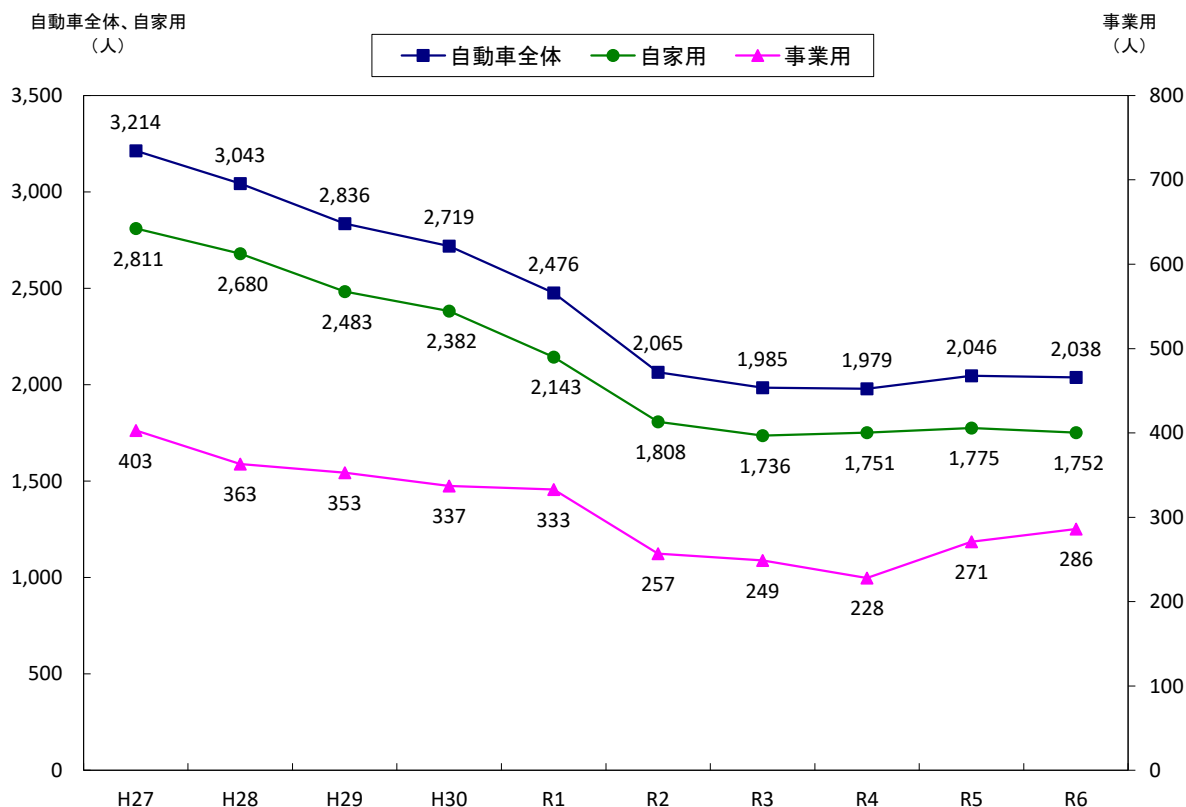
出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

1-3. 自動車事故死者数の推移

(1) 自動車事故死者数の推移

令和6年中に全国で発生した自動車全体の交通事故死者数は2,038人である。そのうち、事業用自動車は286人であり、令和6年は前年より15人増加している。

〔図 8〕 自動車事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 8〕 自動車事故死者数の推移 (人)

年 \ 区分	自動車全体	自家用	事業用
H27	3,214	2,811	403
H28	3,043	2,680	363
H29	2,836	2,483	353
H30	2,719	2,382	337
R1	2,476	2,143	333
R2	2,065	1,808	257
R3	1,985	1,736	249
R4	1,979	1,751	228
R5	2,046	1,775	271
R6	2,038	1,752	286

出典：警察庁「交通統計」

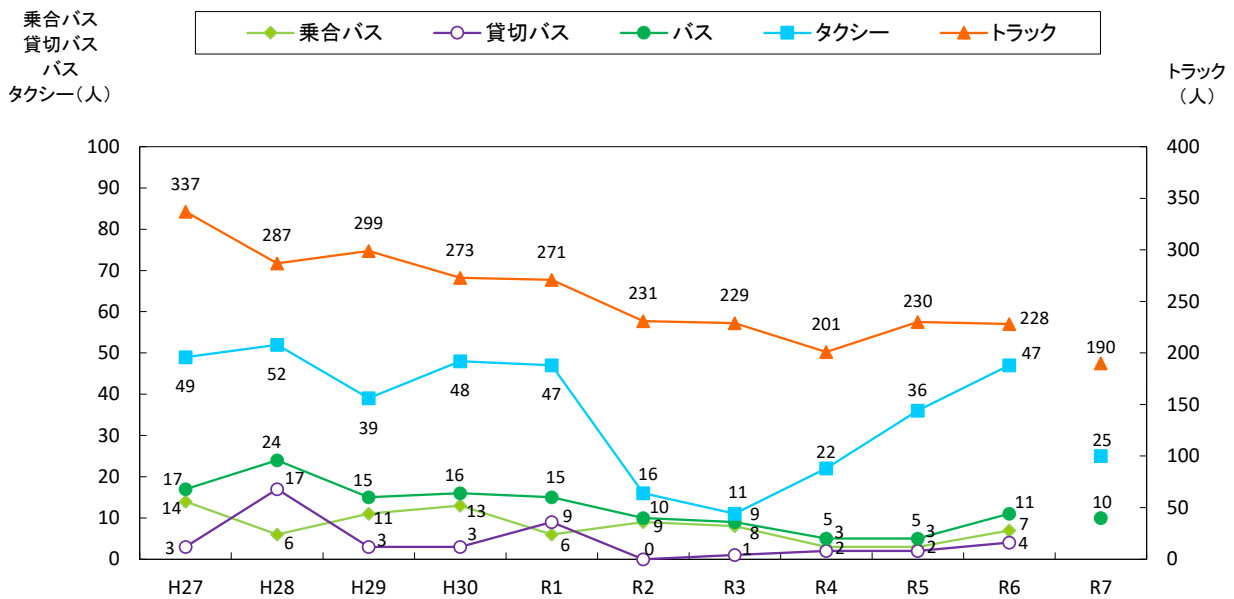
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

事業用自動車の交通事故死者数を業態別にみると、トラックが大半を占めている。令和6年は前年と比べて、乗合バス、貸切バス、タクシーが増加している。貸切バスは、軽井沢スキーバス事故があった平成28年に増加したものの、近年は横ばいとなっている。タクシーは令和4年から増加傾向にあり、令和6年は前年と比べて11人増加した。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2025」において、令和7年までに、バスの交通事故死者数を10人以下、タクシーの交通事故死者数を25人以下、トラックの交通事故死者数を190人以下とする削減目標が示されている。

〔図 9〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 9〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移 (人)

年	区分	バス			タクシー	トラック	
		乗合バス	貸切バス	その他			
H27		17	14	3	0	49	337
H28		24	6	17	1	52	287
H29		15	11	3	1	39	299
H30		16	13	3	0	48	273
R1		15	6	9	0	47	271
R2		10	9	0	1	16	231
R3		9	8	1	0	11	229
R4		5	3	2	0	22	201
R5		5	3	2	0	36	230
R6		11	7	4	0	47	228

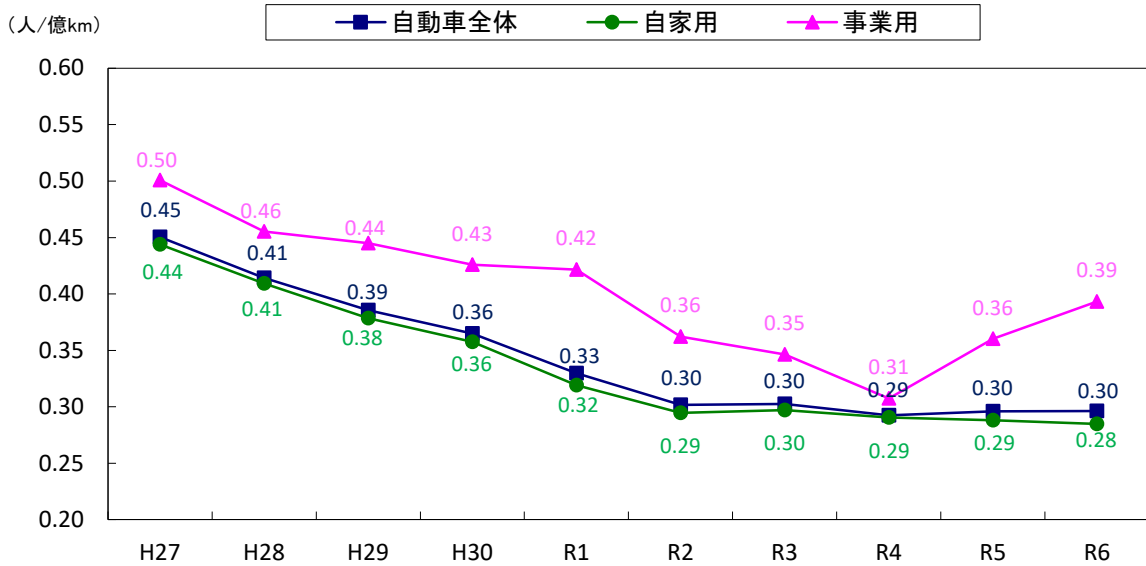
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移

走行距離あたりの自動車事故死者数は、自動車全体と自家用は近年横ばいとなっているが、事業用は令和4年より増加傾向となっている。

〔図 10〕 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 10〕 自動車事故死者数と走行距離の推移

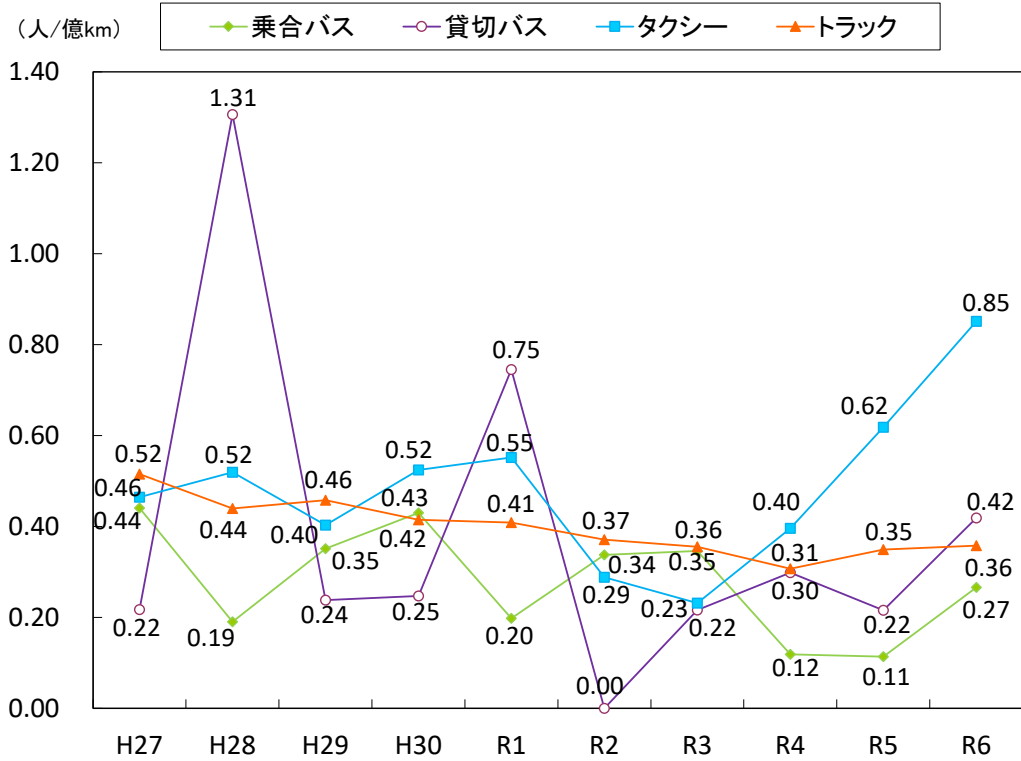
年	区分	死者数(人)			走行距離(億km)		
		自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H27		3,214	2,811	403	7,137.1	6,332.5	804.7
H28		3,043	2,680	363	7,345.8	6,548.7	797.1
H29		2,836	2,483	353	7,354.2	6,560.7	793.5
H30		2,719	2,382	337	7,451.7	6,660.2	791.5
R1		2,476	2,143	333	7,506.4	6,716.3	790.1
R2		2,065	1,808	257	6,846.8	6,137.2	709.7
R3		1,985	1,736	249	6,563.5	5,844.5	719.0
R4		1,979	1,751	228	6,767.2	6,025.7	741.5
R5		2,046	1,775	271	6,911.3	6,159.1	752.2
R6		2,038	1,752	286	6,881.2	6,153.9	727.4

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

走行距離あたりの事業用自動車の業態別交通事故死者数は、令和6年は前年と比べて、全ての業態で増加しており、特にタクシーは近年増加傾向となっている。なお、貸切バスが増加している平成28年は、軽井沢スキーバス事故の影響によるものである。

〔図 11〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 11〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数と走行距離の推移

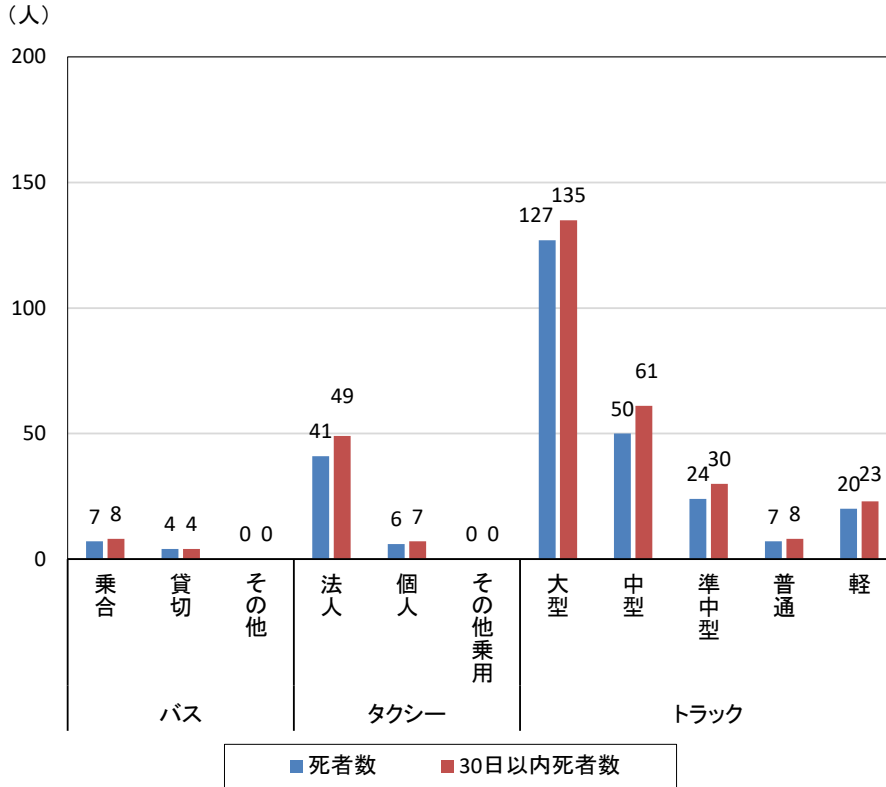
区分 年	死者数(人)					走行距離(億km)					
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	バス	乗合	貸切	タクシー	トラック
H27	17	14	3	0	49	337	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7
H28	24	6	17	1	52	287	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5
H29	15	11	3	1	39	299	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8
H30	16	13	3	0	48	273	42.4	30.2	12.1	91.5	657.6
R1	15	6	9	0	47	271	42.4	30.3	12.1	85.1	662.5
R2	10	9	0	1	16	231	32.2	26.6	5.6	55.5	622.0
R3	9	8	1	0	11	229	27.7	23.1	4.6	47.5	643.8
R4	5	3	2	0	22	201	31.9	25.2	6.7	55.5	654.1
R5	5	3	2	0	36	230	35.5	26.3	9.3	58.2	658.5
R6	11	7	4	0	47	228	35.8	26.3	9.5	55.2	636.3

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

(5) 事業用自動車の業態別交通事故死者数と30日以内死者数

死者数に対する30日以内死者数（交通事故によって、発生から30日以内に亡くなった人数）の増加率は、バスが9.1%、タクシーが19.1%、トラックが12.7%となっている。

〔図 12〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数と30日以内死者数（令和6年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 12〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数（人）と30日以内死者数（人）（令和6年）

		死者数	30日以内死者数
バス	乗合	7	8
	貸切	4	4
	その他	0	0
	計	11	12
タクシー	法人	41	49
	個人	6	7
	その他乗用	0	0
	計	47	56
トラック	大型	127	135
	中型	50	61
	準中型	24	30
	普通	7	8
	軽	20	23
	計	228	257

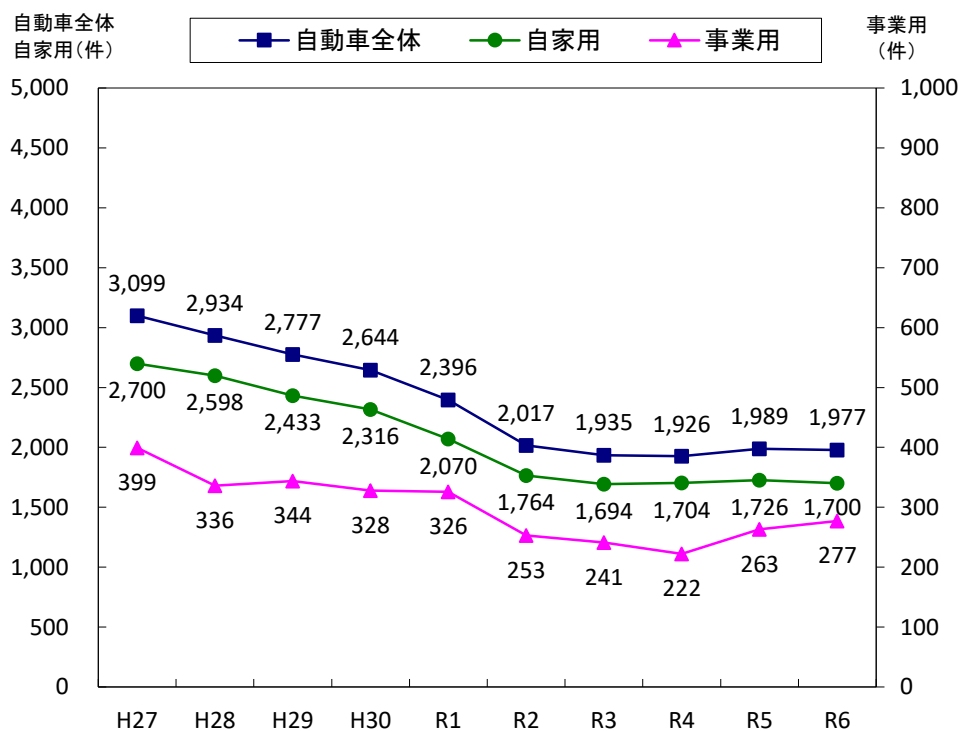
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-4. 自動車死亡事故件数の推移

(1) 自動車死亡事故件数の推移

令和6年中に全国で発生した自動車全体の交通死亡事故件数は1,977件であり、そのうち、自家用自動車は1,700件、事業用自動車は277件となっている。

〔図 13〕 自動車死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 13〕 自動車死亡事故件数の推移 (件)

区分 年	自動車全体	自家用	事業用
H27	3,099	2,700	399
H28	2,934	2,598	336
H29	2,777	2,433	344
H30	2,644	2,316	328
R1	2,396	2,070	326
R2	2,017	1,764	253
R3	1,935	1,694	241
R4	1,926	1,704	222
R5	1,989	1,726	263
R6	1,977	1,700	277

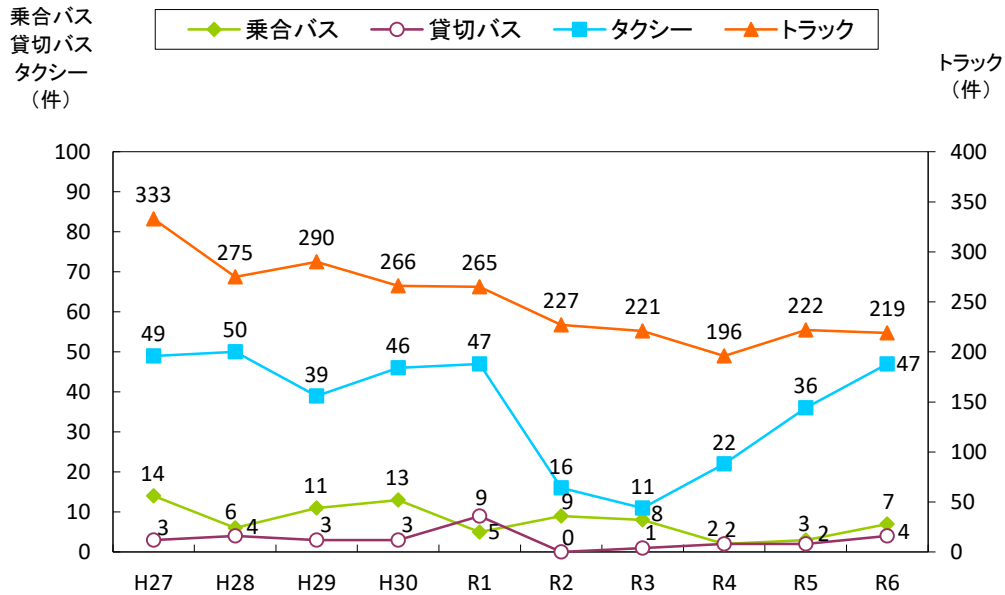
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

事業用自動車の交通死亡事故件数を業態別にみると、トラックが大半を占めている。令和6年は前年と比べてトラックは減少し、乗合バス、貸切バス、タクシーは増加している。タクシーは11件増加しており、近年増加傾向にある。

〔図 14〕 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 14〕 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	バス			タクシー	トラック	
		乗合バス	貸切バス	その他			
H27		17	14	3	0	49	333
H28		11	6	4	1	50	275
H29		15	11	3	1	39	290
H30		16	13	3	0	46	266
R1		14	5	9	0	47	265
R2		10	9	0	1	16	227
R3		9	8	1	0	11	221
R4		4	2	2	0	22	196
R5		5	3	2	0	36	222
R6		11	7	4	0	47	219

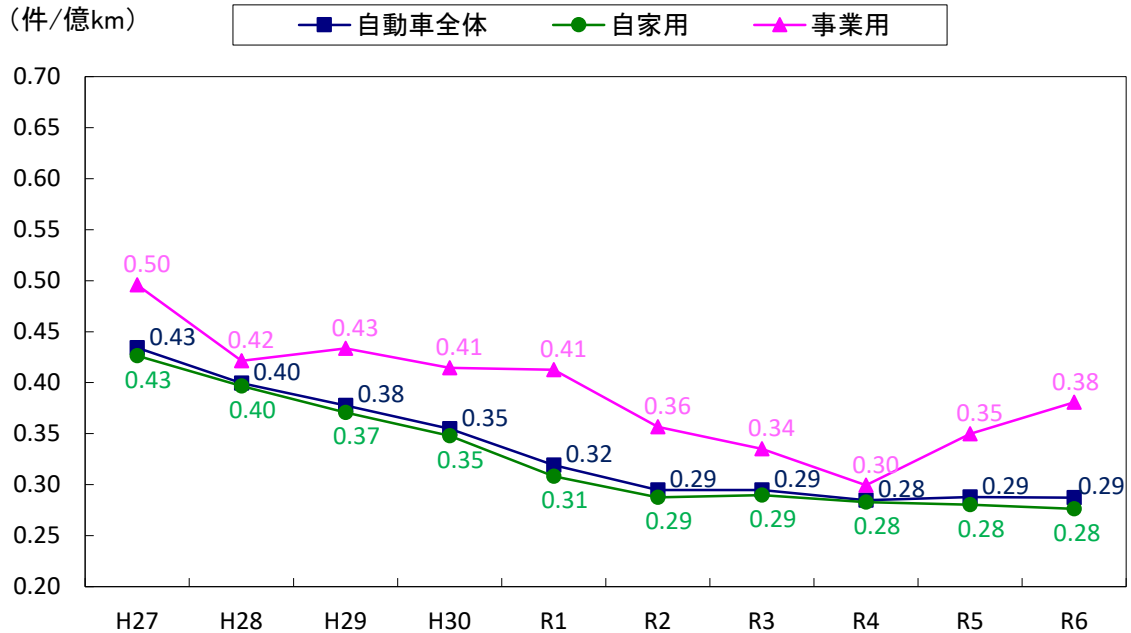
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移

走行距離あたりの自動車死亡事故件数は近年横ばいとなっているが、事業用は増加傾向となっている。

〔図 15〕 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移



(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 15〕 自動車死亡事故件数と走行距離の推移

年	死亡事故件数(件)			走行距離(億km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H27	3,099	2,700	399	7,137.1	6,332.5	804.7
H28	2,934	2,598	336	7,345.8	6,548.7	797.1
H29	2,777	2,433	344	7,354.2	6,560.7	793.5
H30	2,644	2,316	328	7,451.7	6,660.2	791.5
R1	2,396	2,070	326	7,506.4	6,716.3	790.1
R2	2,017	1,764	253	6,846.8	6,137.2	709.7
R3	1,935	1,694	241	6,563.5	5,844.5	719.0
R4	1,926	1,704	222	6,767.2	6,025.7	741.5
R5	1,989	1,726	263	6,911.3	6,159.1	752.2
R6	1,977	1,700	277	6,881.2	6,153.9	727.4

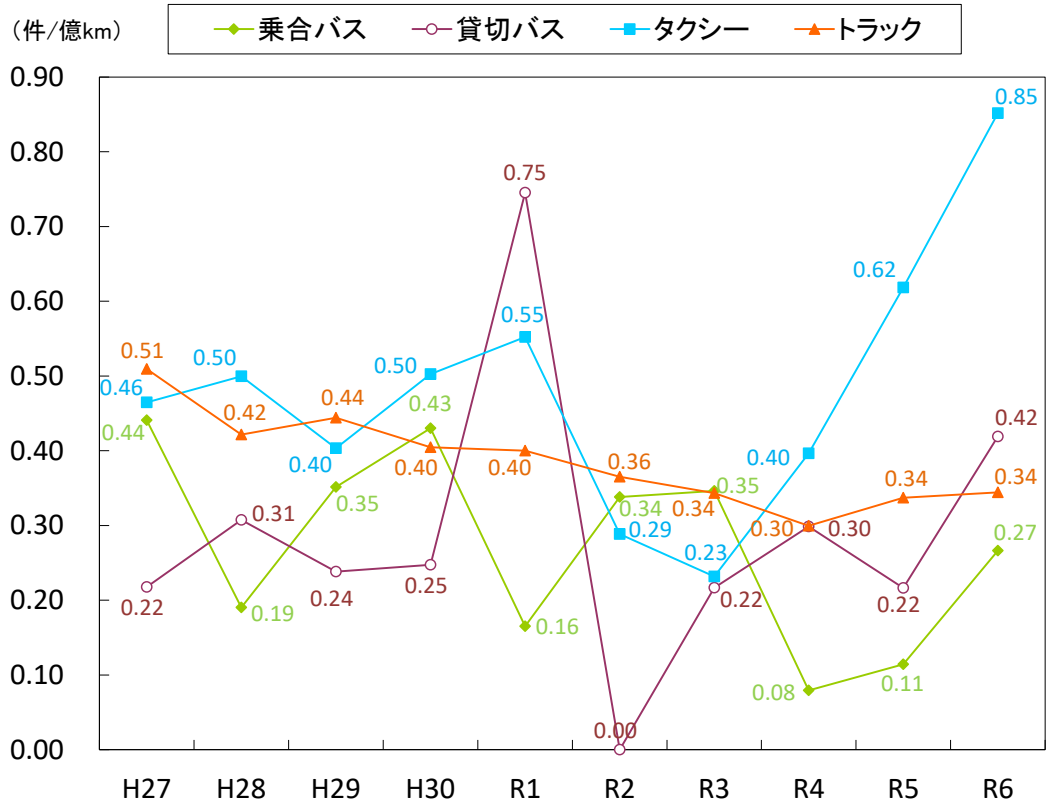
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

走行距離あたりの事業用自動車の交通死亡事故件数は、令和6年は前年と比べて、トラックは横ばい、乗合バス、貸切バス、タクシーは増加している。タクシーは令和4年から増加に転じ、大幅な増加傾向にある。

〔図 16〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 16〕 事業用自動車の業態別走行距離と交通死亡事故件数の推移

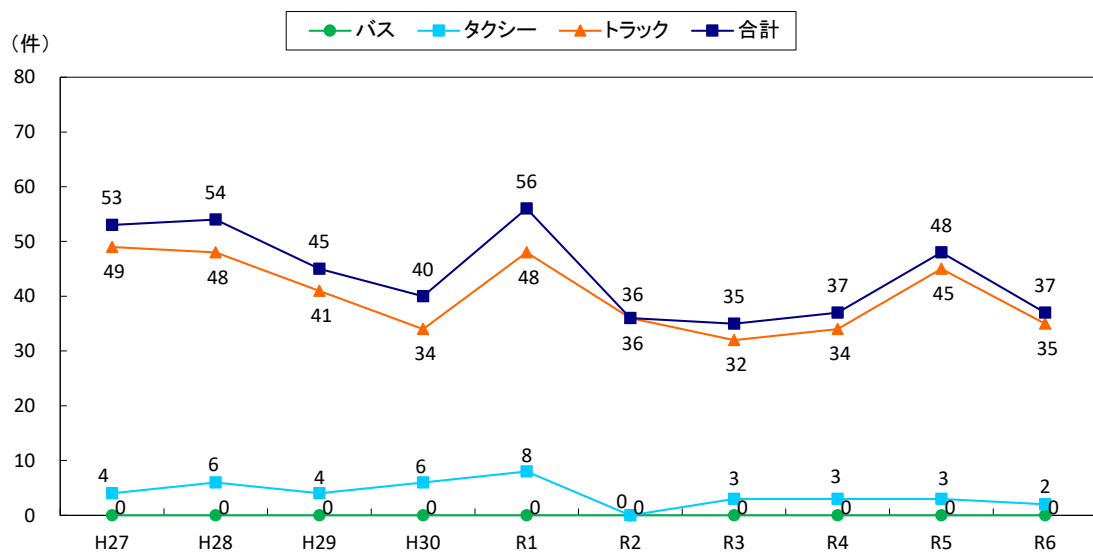
区分 年	死亡事故件数(件)				走行キロ(億km)						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	バス	乗合	貸切	タクシー	トラック
H27	17	14	3	0	49	333	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7
H28	11	6	4	1	50	275	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5
H29	15	11	3	1	39	290	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8
H30	16	13	3	0	46	266	42.4	30.2	12.1	91.5	657.6
R1	14	5	9	0	47	265	42.4	30.3	12.1	85.1	662.5
R2	10	9	0	1	16	227	32.2	26.6	5.6	55.5	622.0
R3	9	8	1	0	11	221	27.7	23.1	4.6	47.5	643.8
R4	4	2	2	0	22	196	31.9	25.2	6.7	55.5	654.1
R5	5	3	2	0	36	222	35.5	26.3	9.3	58.2	658.5
R6	11	7	4	0	47	219	35.8	26.3	9.5	55.2	636.3

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」

1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故の推移

飲酒運転による事業用自動車の交通事故は、令和5年に増加したが令和6年は減少した。なお、令和6年はトラックが35件、タクシーが2件となっている。

〔図 17〕 飲酒運転による事業用自動車の交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 17〕 業態別飲酒運転による交通事故件数の推移（件）

年	区分	交通事故件数						
		バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
H27		0	0	0	0	4	49	53
H28		0	0	0	0	6	48	54
H29		0	0	0	0	4	41	45
H30		0	0	0	0	6	34	40
R1		0	0	0	0	8	48	56
R2		0	0	0	0	0	36	36
R3		0	0	0	0	3	32	35
R4		0	0	0	0	3	34	37
R5		0	0	0	0	3	45	48
R6		0	0	0	0	2	35	37

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 18〕 業態別飲酒運転による交通死亡事故件数の推移（件）

年	区分	交通死亡事故件数						
		バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
H27		0	0	0	0	0	5	5
H28		0	0	0	0	0	1	1
H29		0	0	0	0	0	4	4
H30		0	0	0	0	0	2	2
R1		0	0	0	0	0	6	6
R2		0	0	0	0	0	4	4
R3		0	0	0	0	0	4	4
R4		0	0	0	0	0	0	0
R5		0	0	0	0	0	0	0
R6		0	0	0	0	0	2	2

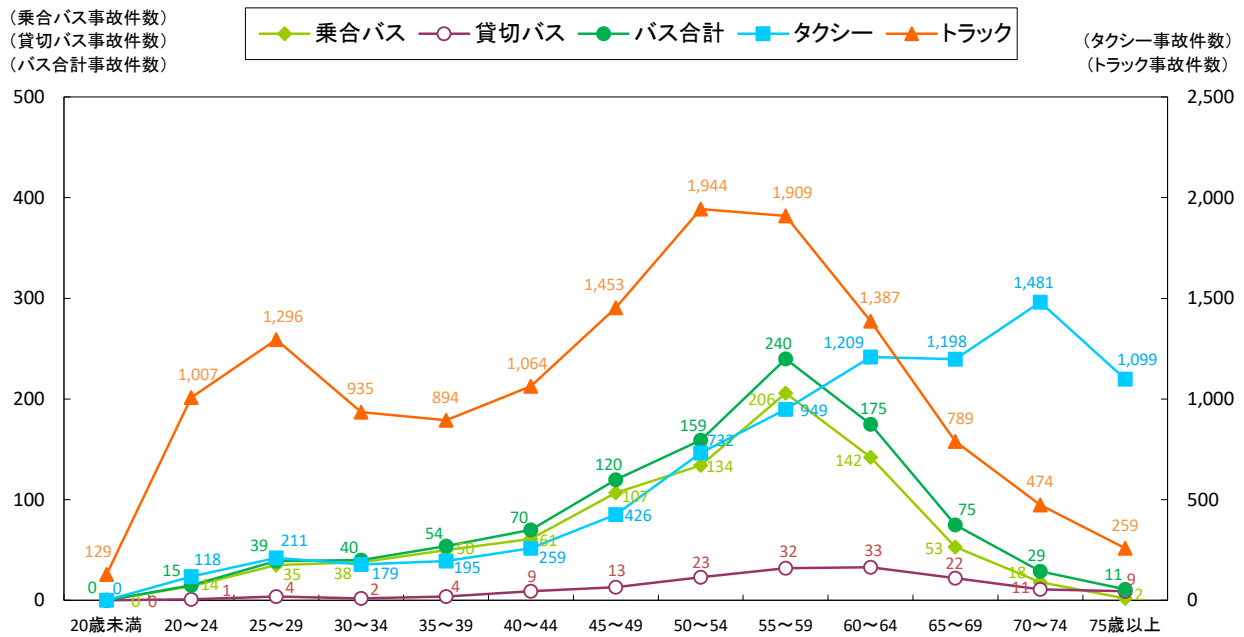
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故

(1) 業態別運転者年齢層別交通事故件数

交通事故第1当事者の年齢分布を業態別にみると、バスとトラックは50代が高く同様の傾向となっており、タクシーは60歳以上の比較的高齢側に分布している。

〔図 18〕 業態別運転者年齢層別交通事故件数（令和6年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 19〕 業態別運転者年齢層別交通事故件数（件）（令和6年）

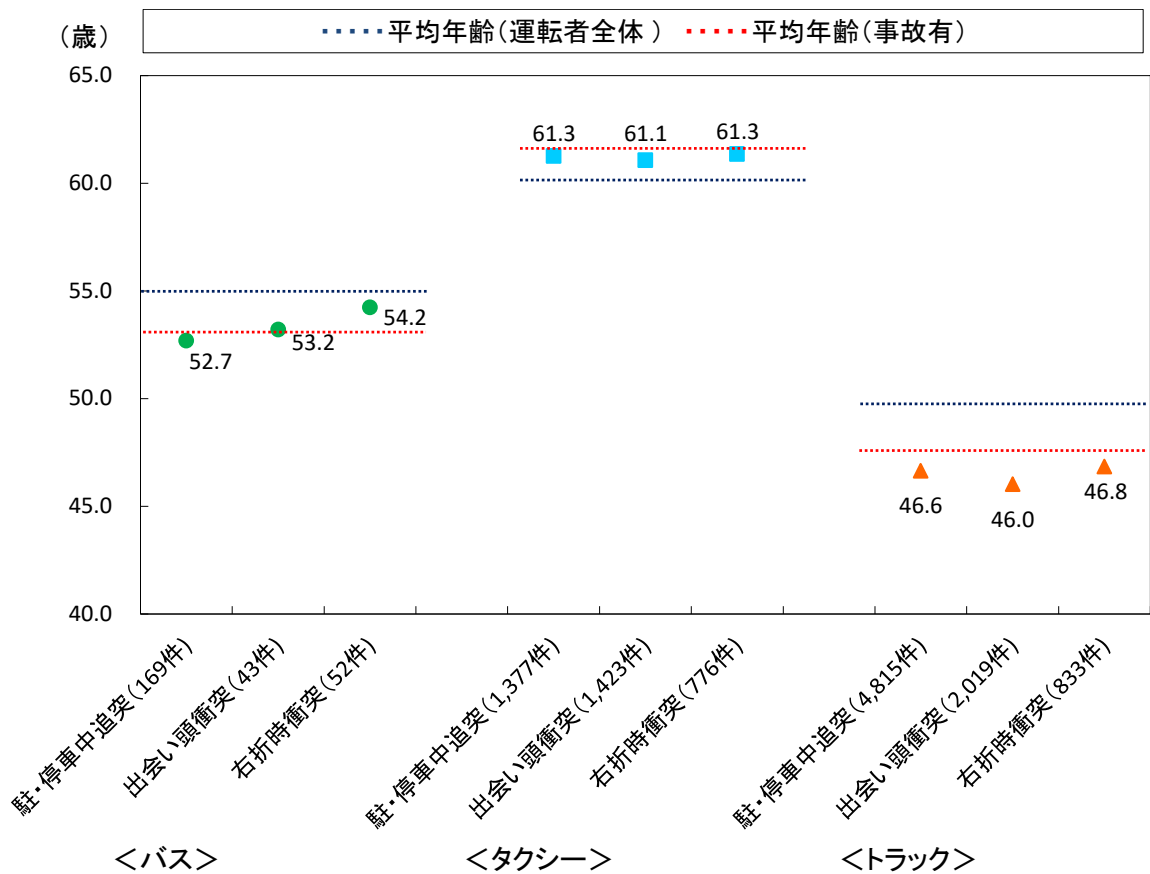
		20歳未満	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75歳以上	合計
バス	乗合	0	14	35	38	50	61	107	134	206	142	53	18	2	860
	貸切	0	1	4	2	4	9	13	23	32	33	22	11	9	163
	その他	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	4
	小計	0	15	39	40	54	70	120	159	240	175	75	29	11	1,027
タクシー	法人	0	110	194	163	176	239	397	666	886	1,104	1,096	1,339	975	7,345
	個人	0	2	4	6	8	11	19	51	48	97	90	134	119	589
その他乗用		0	6	13	10	11	9	10	15	15	8	12	8	5	122
小計		0	118	211	179	195	259	426	732	949	1,209	1,198	1,481	1,099	8,056
貨物自動車	大型	0	62	194	190	216	320	517	691	734	481	216	96	40	3,757
	中型	0	73	120	109	139	172	271	404	403	326	168	96	40	2,321
	準中型	27	153	182	143	137	176	209	323	283	208	118	68	28	2,055
	普通	6	41	60	35	26	24	48	65	72	50	32	18	9	486
	軽	96	678	740	458	376	372	408	461	417	322	255	196	142	4,921
	小計 (トレーラ)	129 (0)	1,007 (12)	1,296 (35)	935 (42)	894 (48)	1,064 (65)	1,453 (118)	1,944 (144)	1,909 (132)	1,387 (86)	789 (26)	474 (20)	259 (6)	13,540 (734)
合計		129	1,140	1,546	1,154	1,143	1,393	1,999	2,835	3,098	2,771	2,062	1,984	1,369	22,623

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別事故類型別事故第1当事者平均年齢

事故第1当事者の平均年齢と運転者全体の平均年齢及び事故有運転者の平均年齢を比較すると、バスとトラックは事故有運転者の平均年齢は運転者全体の平均年齢より2歳ほど低く、タクシーは事故有運転者の平均年齢は運転者全体の平均年齢より1歳ほど高い。事故類型別でみると、バスは右折時衝突事故において、事故有運転者の平均年齢より高い年齢になっている。タクシーは事故類型を問わず、事故有運転者の平均年齢とほぼ同水準となっている。トラックは事故類型を問わず、事故有運転者の平均年齢より低い年齢となっている。

〔図 19〕 業態別事故類型別事故第1当事者の運転者平均年齢（車両との事故）（令和6年）



※ () 内は事故件数

業態	バス	タクシー	トラック
平均年齢 (運転者全体)	55.0	60.2	49.8
平均年齢 (事故あり)	53.1	61.4	47.6

※事故第1当事者の運転者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出
 ※上記事故類型は「車両との事故」の事故類型から事故件数の多い3つを抽出

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 厚生労働省「令和6年賃金構造基本統計調査(全国)」

1-7. 業態別危険認知速度別の交通事故

(1) 業態別危険認知速度別交通事故件数

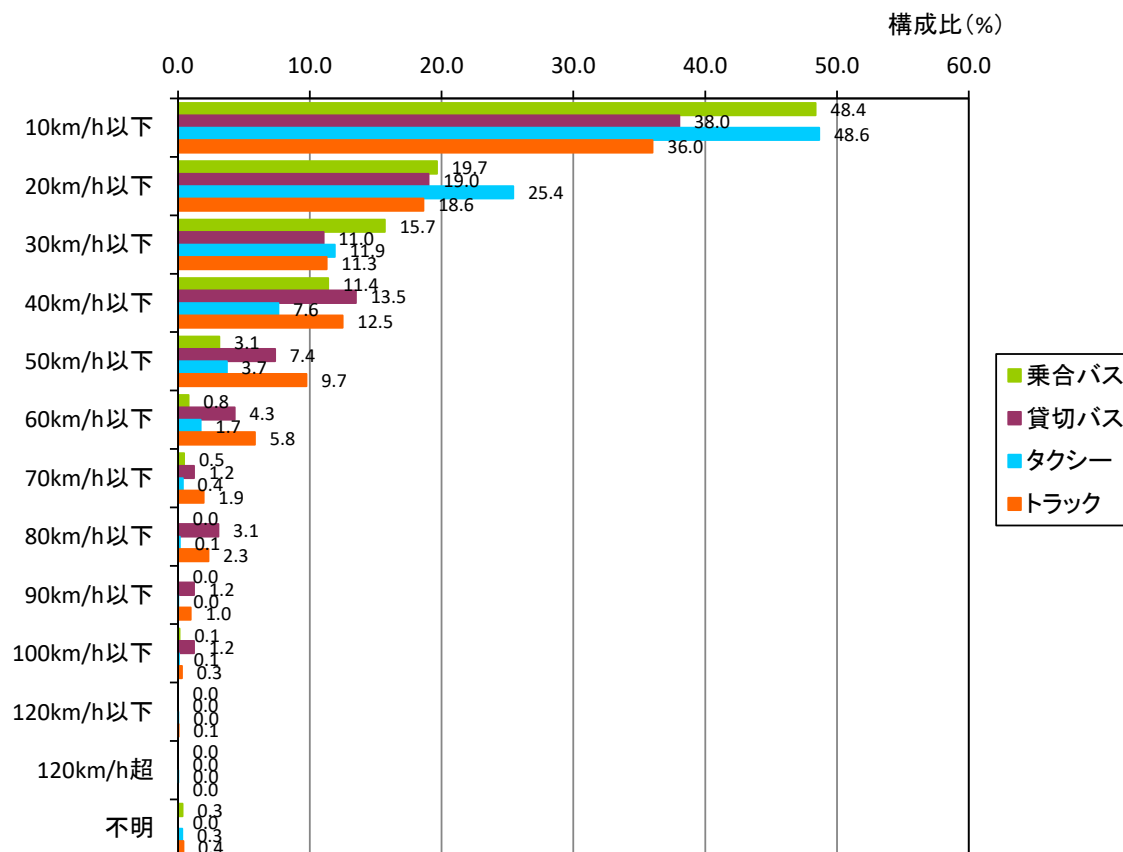
業態別の危険認知速度別交通事故件数をみると、いずれの業態も10km/h以下が最も多く、乗合バスとタクシーは全件数の約半数を占めている。

〔表 20〕 業態別危険認知速度別交通事故件数（件）（令和 6 年）

速度	交通事故件数						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
10km/h以下	479	416	62	1	3,919	4,876	9,753
20km/h以下	201	169	31	1	2,049	2,523	4,974
30km/h以下	154	135	18	1	959	1,526	2,793
40km/h以下	120	98	22	0	613	1,691	2,544
50km/h以下	39	27	12	0	298	1,320	1,696
60km/h以下	15	7	7	1	139	791	960
70km/h以下	6	4	2	0	29	264	305
80km/h以下	5	0	5	0	11	312	333
90km/h以下	2	0	2	0	3	132	139
100km/h以下	3	1	2	0	6	41	53
120km/h以下	0	0	0	0	3	8	11
120km/h超	0	0	0	0	1	0	1
不明	3	3	0	0	26	56	88
合計	1,027	860	163	4	8,056	13,540	22,623

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 20〕 業態別危険認知速度別交通事故件数の構成比（%）（令和 6 年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数

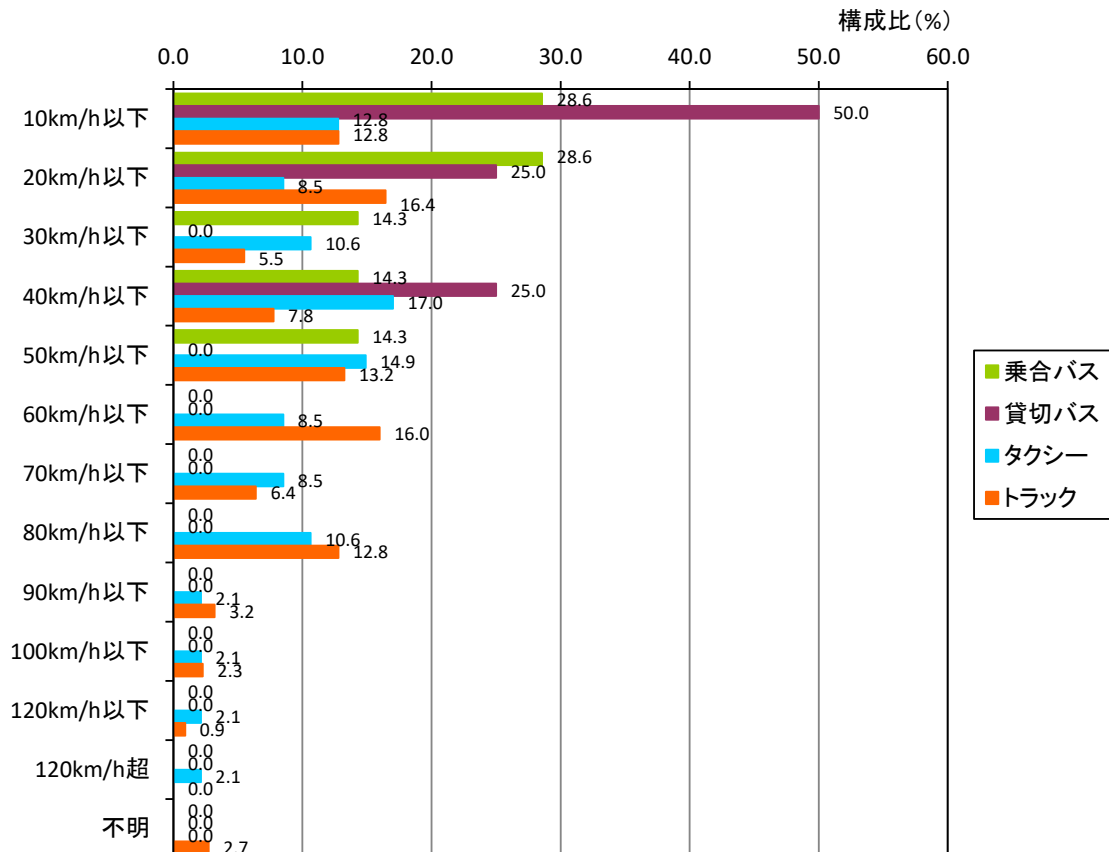
業態別危険認知速度別交通死亡事故件数をみると、業態別では、バスは0km/h～10km/h以下、タクシーは30km/h～40km/h以下、トラックは10km/h～20km/h以下が最も多くなっている。

〔表 21〕 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数（件）（令和6年）

速度	交通死亡事故件数						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
10km/h以下	4	2	2	0	6	28	38
20km/h以下	3	2	1	0	4	36	43
30km/h以下	1	1	0	0	5	12	18
40km/h以下	2	1	1	0	8	17	27
50km/h以下	1	1	0	0	7	29	37
60km/h以下	0	0	0	0	4	35	39
70km/h以下	0	0	0	0	4	14	18
80km/h以下	0	0	0	0	5	28	33
90km/h以下	0	0	0	0	1	7	8
100km/h以下	0	0	0	0	1	5	6
120km/h以下	0	0	0	0	1	2	3
120km/h超	0	0	0	0	1	0	1
不明	0	0	0	0	0	6	6
合計	11	7	4	0	47	219	277

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 21〕 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数の構成比（%）（令和6年）



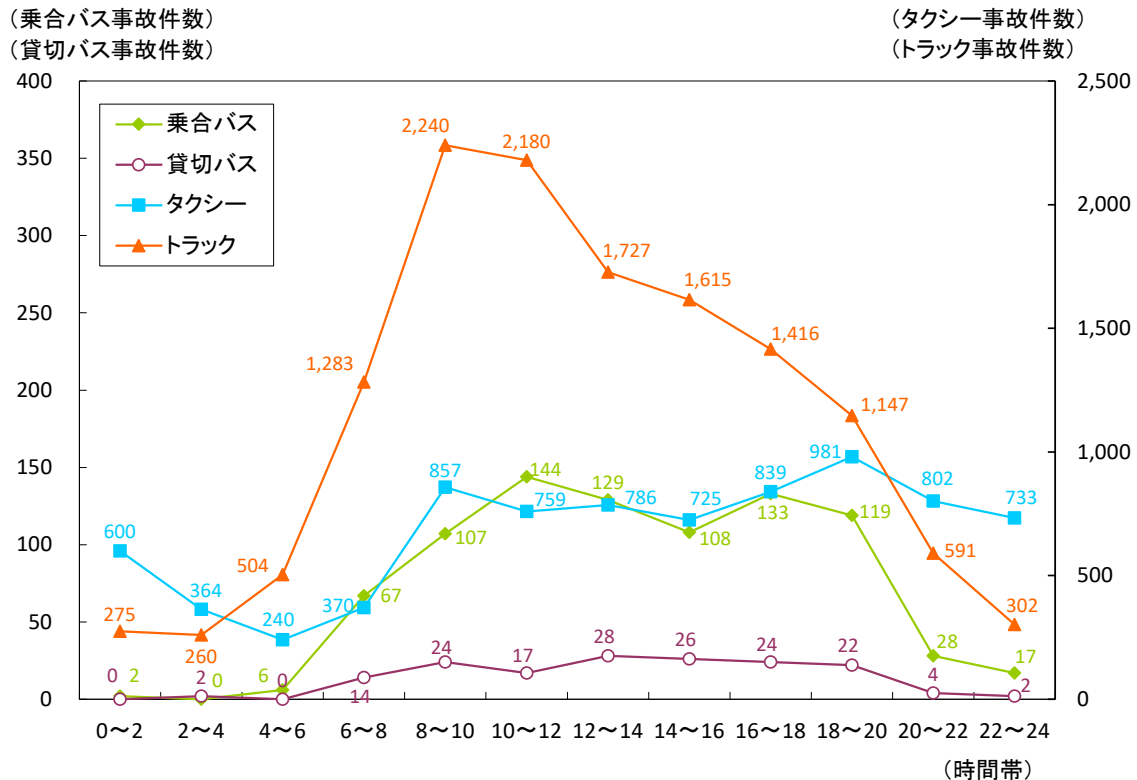
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-8. 業態別時間帯別の交通事故

(1) 業態別時間帯別交通事故件数

業態別の時間帯別交通事故件数をみると、乗合バスは10時～11時台、貸切バスは12時～13時台、タクシーは18時～19時台、トラックは8時～9時台が最も多い。

〔図 22〕 業態別時間帯別交通事故件数（令和6年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 22〕 業態別時間帯別交通事故件数（件）（令和6年）

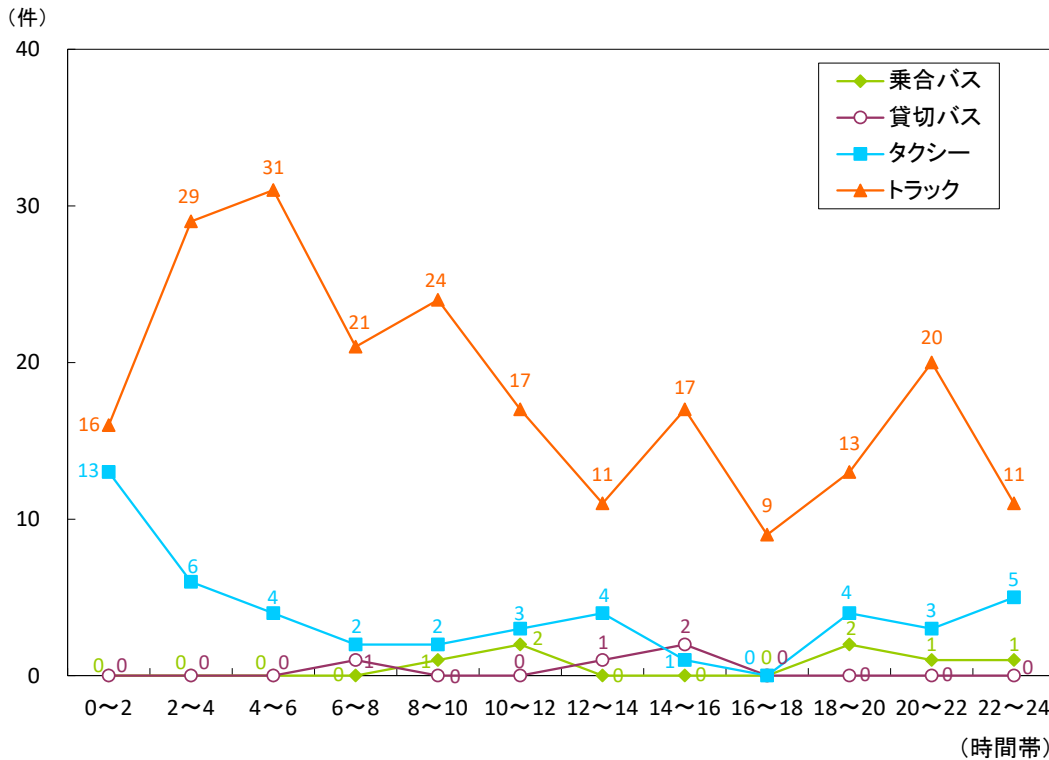
区分		時間帯	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	合計
バス	乗合		2	0	6	67	107	144	129	108	133	119	28	17	860
	貸切		0	2	0	14	24	17	28	26	24	22	4	2	163
	その他		0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
	小計		2	2	6	81	131	162	157	136	158	141	32	19	1,027
タクシー	法人		543	335	227	333	772	683	724	659	766	904	732	667	7,345
	個人		54	29	13	30	60	58	45	53	56	62	67	62	589
その他乗用		3	0	0	7	25	18	17	13	13	17	15	3	4	122
小計		600	364	240	370	857	759	786	725	839	981	802	733	8,056	
トラック	大型		93	104	211	397	626	577	488	446	332	230	148	105	3,757
	中型		69	76	135	292	434	356	272	231	202	114	69	71	2,321
	準中型		53	42	72	212	412	384	295	233	172	98	47	35	2,055
	普通		3	4	8	36	90	94	69	68	59	40	9	6	486
	軽		57	34	78	346	678	769	603	637	651	665	318	85	4,921
小計		275	260	504	1,283	2,240	2,180	1,727	1,615	1,416	1,147	591	302	13,540	
合計		877	626	750	1,734	3,228	3,101	2,670	2,476	2,413	2,269	1,425	1,054	22,623	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別時間帯別交通死亡事故件数

業態別の時間帯別交通死亡事故件数をみると、乗合バスは10時～11時台と18時～19時台、貸切バスは14時～15時台、タクシーは0時～1時台、トラックは4時～5時台が最も多い。

〔図 23〕 業態別時間帯別交通死亡事故件数（令和6年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 23〕 業態別時間帯別交通死亡事故件数（件）（令和6年）

時間帯		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	合計
バス	乗合	0	0	0	0	1	2	0	0	0	2	1	1	7
	貸切	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	4
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	1	1	2	1	2	0	2	1	1	11
タクシー	法人	12	6	4	2	1	1	2	1	0	4	3	5	41
	個人	1	0	0	0	1	2	2	0	0	0	0	0	6
その他乗用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		13	6	4	2	2	3	4	1	0	4	3	5	47
トラック	大型	5	18	16	14	17	12	8	10	3	4	12	3	122
	中型	4	9	6	2	2	2	3	5	3	1	3	7	47
	準中型	5	0	7	4	3	1	0	1	1	2	0	0	24
	普通	1	2	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	7
	軽	1	0	1	1	1	2	0	1	1	5	5	1	19
小計		16	29	31	21	24	17	11	17	9	13	20	11	219
合計		29	35	35	24	27	22	16	20	9	19	24	17	277

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-9. 交通事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数

(1) 交通事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数

〔表 24〕 交通事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数（件）（令和6年）

区分 都道府県	バス				タクシー	トラック	合計
	乗合	貸切	その他				
北海道	46 (8)	32 (9)	14 (4)	0 (4)	435 (5)	378 (10)	859 (9)
青森県	2 (43)	1 (44)	1 (23)	0 (4)	44 (18)	56 (37)	102 (33)
岩手県	3 (40)	2 (40)	1 (23)	0 (4)	19 (34)	34 (42)	56 (42)
宮城県	10 (17)	8 (17)	2 (16)	0 (4)	99 (14)	130 (18)	239 (16)
秋田県	5 (32)	4 (31)	1 (23)	0 (4)	10 (43)	30 (45)	45 (45)
山形県	3 (40)	3 (38)	0 (37)	0 (4)	14 (40)	41 (40)	58 (41)
福島県	6 (30)	6 (23)	0 (37)	0 (4)	19 (34)	113 (24)	138 (28)
茨城県	12 (14)	8 (17)	3 (12)	1 (2)	34 (25)	295 (11)	341 (13)
栃木県	7 (26)	6 (23)	1 (23)	0 (4)	23 (32)	133 (17)	163 (21)
群馬県	11 (15)	9 (15)	2 (16)	0 (4)	43 (19)	272 (12)	326 (14)
埼玉県	34 (10)	26 (10)	8 (7)	0 (4)	239 (8)	1,277 (3)	1,550 (4)
千葉県	66 (6)	50 (7)	16 (3)	0 (4)	226 (9)	720 (6)	1,012 (8)
東京都	171 (1)	151 (1)	18 (2)	2 (1)	2,306 (1)	1,429 (2)	3,906 (1)
神奈川県	122 (2)	110 (2)	11 (6)	1 (2)	652 (4)	1,193 (4)	1,967 (3)
新潟県	6 (30)	5 (27)	1 (23)	0 (4)	41 (20)	87 (26)	134 (29)
富山県	5 (32)	5 (27)	0 (37)	0 (4)	13 (41)	67 (33)	85 (38)
石川県	10 (17)	9 (15)	1 (23)	0 (4)	28 (29)	77 (29)	115 (32)
福井県	1 (45)	0 (45)	1 (23)	0 (4)	6 (46)	39 (41)	46 (44)
山梨県	5 (32)	4 (31)	1 (23)	0 (4)	18 (37)	74 (30)	97 (35)
長野県	7 (26)	4 (31)	3 (12)	0 (4)	38 (22)	124 (21)	169 (19)
岐阜県	9 (19)	7 (21)	2 (16)	0 (4)	12 (42)	120 (22)	141 (27)
静岡県	23 (11)	18 (12)	5 (9)	0 (4)	177 (11)	557 (9)	757 (10)
愛知県	59 (7)	53 (6)	6 (8)	0 (4)	401 (6)	1,015 (5)	1,475 (5)
三重県	4 (35)	2 (40)	2 (16)	0 (4)	17 (39)	154 (16)	175 (18)
滋賀県	8 (20)	8 (17)	0 (37)	0 (4)	28 (29)	114 (23)	150 (25)
京都府	67 (5)	66 (3)	1 (23)	0 (4)	178 (10)	253 (13)	498 (11)
大阪府	77 (3)	56 (5)	21 (1)	0 (4)	1,072 (2)	1,717 (1)	2,866 (2)
兵庫県	68 (4)	64 (4)	4 (10)	0 (4)	339 (7)	638 (8)	1,045 (7)
奈良県	3 (40)	2 (40)	1 (23)	0 (4)	28 (29)	126 (19)	157 (23)
和歌山県	4 (35)	3 (38)	1 (23)	0 (4)	10 (43)	64 (34)	78 (40)
鳥取県	2 (43)	2 (40)	0 (37)	0 (4)	5 (47)	24 (46)	31 (46)
島根県	0 (46)	0 (45)	0 (37)	0 (4)	7 (45)	14 (47)	21 (47)
岡山県	7 (26)	5 (27)	2 (16)	0 (4)	52 (17)	231 (14)	290 (15)
広島県	22 (12)	19 (11)	3 (12)	0 (4)	135 (13)	192 (15)	349 (12)
山口県	8 (20)	6 (23)	2 (16)	0 (4)	34 (25)	44 (39)	86 (36)
徳島県	4 (35)	4 (31)	0 (37)	0 (4)	18 (37)	60 (36)	82 (39)
香川県	8 (20)	5 (27)	3 (12)	0 (4)	34 (25)	125 (20)	167 (20)
愛媛県	4 (35)	4 (31)	0 (37)	0 (4)	35 (24)	85 (27)	124 (30)
高知県	0 (46)	0 (45)	0 (37)	0 (4)	19 (34)	33 (43)	52 (43)
福岡県	46 (8)	34 (8)	12 (5)	0 (4)	670 (3)	685 (7)	1,401 (6)
佐賀県	4 (35)	4 (31)	0 (37)	0 (4)	22 (33)	74 (30)	100 (34)
長崎県	17 (13)	15 (13)	2 (16)	0 (4)	71 (15)	64 (34)	152 (24)
熊本県	8 (20)	8 (17)	0 (37)	0 (4)	65 (16)	85 (27)	158 (22)
大分県	8 (20)	4 (31)	4 (10)	0 (4)	29 (28)	49 (38)	86 (36)
宮崎県	8 (20)	7 (21)	1 (23)	0 (4)	39 (21)	71 (32)	118 (31)
鹿児島県	11 (15)	10 (14)	1 (23)	0 (4)	38 (22)	93 (25)	142 (26)
沖縄県	7 (26)	6 (23)	1 (23)	0 (4)	157 (12)	32 (44)	196 (17)
計	1,027	860	163	4	8,056	13,540	22,623

注1：数値横のカッコ内は順位

注2：都道府県合計には、不明を含む

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 交通事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数

[表 25] 交通事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数（件）（令和6年）

区分 都道府県	バス				タクシー	トラック	合計
	乗合	貸切	その他				
北海道	1 (3)	0 (8)	1 (1)	0 (1)	4 (3)	6 (12)	11 (7)
青森県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	4 (20)	4 (22)
岩手県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	0 (41)	0 (42)
宮城県	1 (3)	0 (8)	1 (1)	0 (1)	1 (11)	7 (8)	9 (10)
秋田県	1 (3)	1 (1)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	1 (35)	2 (29)
山形県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	0 (41)	0 (42)
福島県	1 (3)	1 (1)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	4 (20)	5 (18)
茨城県	2 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (1)	0 (22)	5 (14)	7 (13)
栃木県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	1 (11)	2 (24)	3 (24)
群馬県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	5 (14)	5 (18)
埼玉県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	20 (2)	20 (3)
千葉県	1 (3)	1 (1)	0 (5)	0 (1)	2 (6)	13 (5)	16 (6)
東京都	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	9 (1)	12 (6)	21 (2)
神奈川県	1 (3)	1 (1)	0 (5)	0 (1)	1 (11)	22 (1)	24 (1)
新潟県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	2 (24)	2 (29)
富山県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	1 (35)	1 (41)
石川県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	5 (14)	5 (18)
福井県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	2 (24)	2 (29)
山梨県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	2 (24)	2 (29)
長野県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	2 (24)	2 (29)
岐阜県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	7 (8)	7 (13)
静岡県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	1 (11)	7 (8)	8 (11)
愛知県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	2 (6)	9 (7)	11 (7)
三重県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	5 (14)	5 (18)
滋賀県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	0 (41)	0 (42)
京都府	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	1 (11)	5 (14)	6 (15)
大阪府	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	4 (3)	14 (3)	18 (4)
兵庫県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	2 (6)	6 (12)	8 (11)
奈良県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	1 (11)	1 (35)	2 (29)
和歌山県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	0 (41)	0 (42)
鳥取県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	2 (24)	2 (29)
島根県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	0 (41)	0 (42)
岡山県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	1 (11)	5 (14)	6 (15)
広島県	2 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (1)	1 (11)	7 (8)	10 (9)
山口県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	2 (24)	2 (29)
徳島県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	0 (41)	0 (42)
香川県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	2 (24)	2 (29)
愛媛県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	1 (11)	1 (35)	2 (29)
高知県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	2 (24)	2 (29)
福岡県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	3 (5)	14 (3)	17 (5)
佐賀県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	1 (11)	2 (24)	3 (24)
長崎県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	2 (6)	0 (41)	2 (29)
熊本県	1 (3)	1 (1)	0 (5)	0 (1)	2 (6)	1 (35)	4 (22)
大分県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	3 (22)	3 (24)
宮崎県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	1 (11)	2 (24)	3 (24)
鹿児島県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	0 (22)	3 (22)	3 (24)
沖縄県	0 (10)	0 (8)	0 (5)	0 (1)	5 (2)	1 (35)	6 (15)
計	11	7	4	0	47	219	277

注1：数値横のカッコ内は順位

注2：都道府県合計には、不明を含む

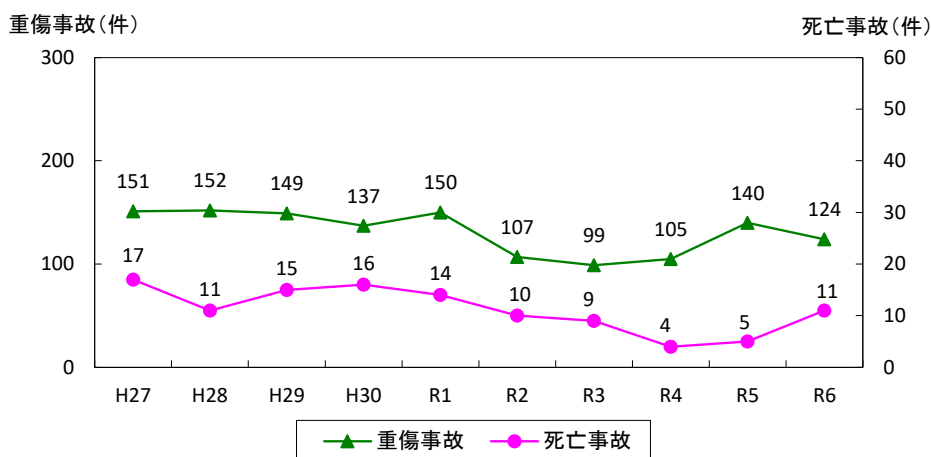
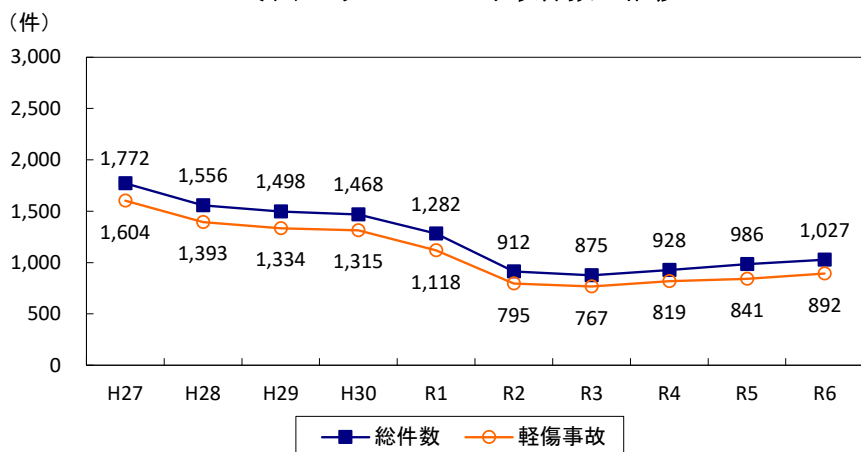
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2. バスの事故

(1) バスの事故件数、死傷事故件数の推移

バス（事業用）による交通事故について、総件数は令和4年から増加に転じ、令和6年は前年と比べて41件増加している。交通死亡事故件数は令和5年から増加に転じ、令和6年は前年と比べて6件増加している。

〔図 24〕 バスの事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 26〕 バスの事故件数の推移（件）

区分 年	総件数	軽傷事故	重傷事故	死亡事故
H27	1,772	1,604	151	17
H28	1,556	1,393	152	11
H29	1,498	1,334	149	15
H30	1,468	1,315	137	16
R1	1,282	1,118	150	14
R2	912	795	107	10
R3	875	767	99	9
R4	928	819	105	4
R5	986	841	140	5
R6	1,027	892	124	11

※バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) バス事故のうち、同乗者の死傷事故件数

運転者が第1当事者となったバス事故の業態別の同乗者の死傷事故件数は、以下の通りであった。

[表 27] バス事故のうち、同乗者の死傷事故件数（件）（令和6年）

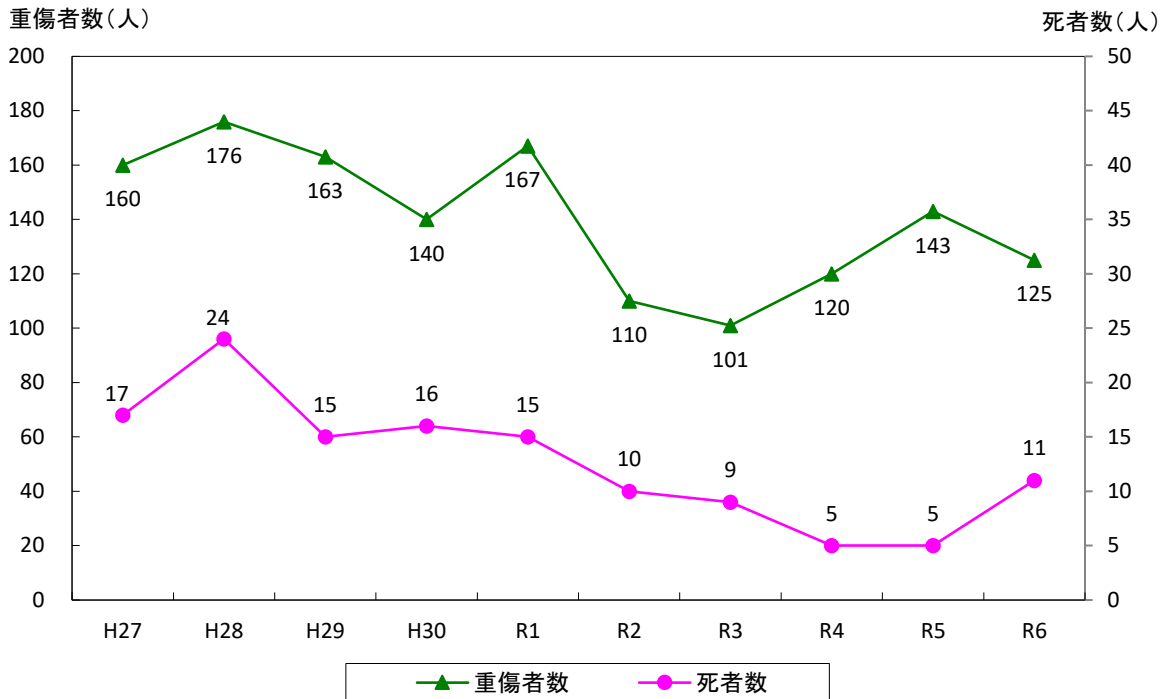
	死亡	重傷	軽傷	合計
乗合	0	49	339	388
貸切	0	4	17	21
その他	0	0	0	0
計	0	53	356	409

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) バス事故の死傷者数の推移

バス（事業用）による交通事故の重傷者数は近年増加傾向となっていたが、令和6年は前年と比べて18人減少した。死者数は、令和6年は前年と比べて6人増加した。

〔図 25〕 バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 28〕 バス事故の死傷者数の推移(人)

年	区分	死傷者合計	軽傷者数	重傷者数	死者数
H27		2,325	2,148	160	17
H28		2,123	1,923	176	24
H29		1,926	1,748	163	15
H30		1,890	1,734	140	16
R1		1,667	1,485	167	15
R2		1,071	951	110	10
R3		1,030	920	101	9
R4		1,160	1,035	120	5
R5		1,223	1,075	143	5
R6		1,251	1,115	125	11

※バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) バス事故のうち、同乗者の死傷者数

運転者が第1当事者となったバス事故の業態別の同乗者の死傷者数は、以下の通りであった。

[表 29] バス事故のうち、同乗者の死傷者数（人）（令和6年）

	死亡	重傷	軽傷	合計
乗合	0	49	395	444
貸切	0	4	35	39
その他	0	0	0	0
計	0	53	430	483

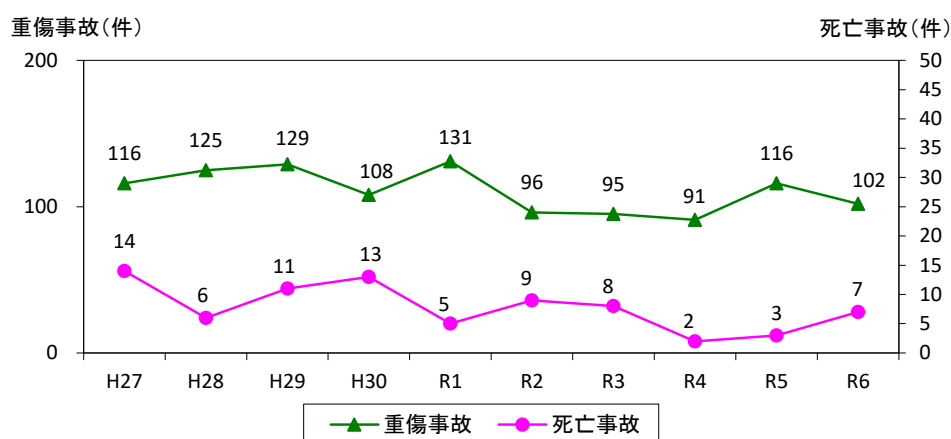
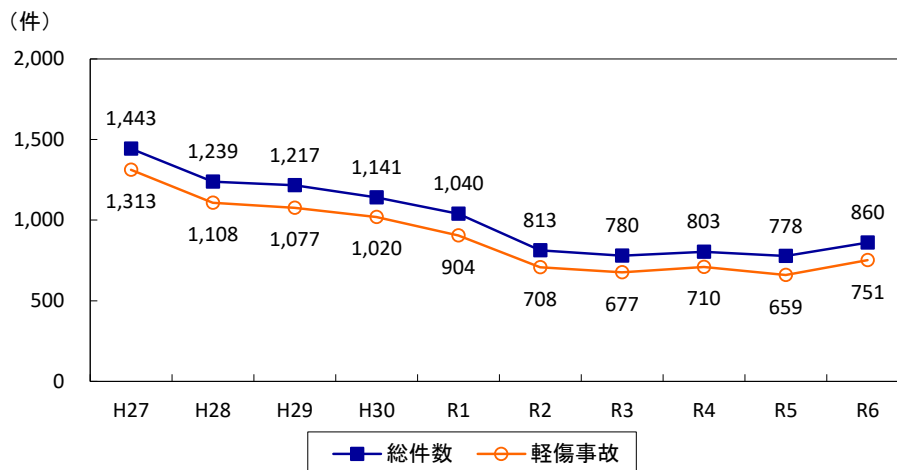
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2-1. 乗合バスの交通事故

(1) 乗合バスの交通事故件数、交通死傷事故件数の推移

乗合バスによる交通事故件数は近年横ばいとなっており、令和6年は前年と比べて総件数、軽傷事故件数は増加、重傷事故件数は減少した。また、交通死亡事故件数は前年と比べて4件増加している。

〔図 26〕 乗合バスの事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 30〕 乗合バスの事故件数の推移（件）

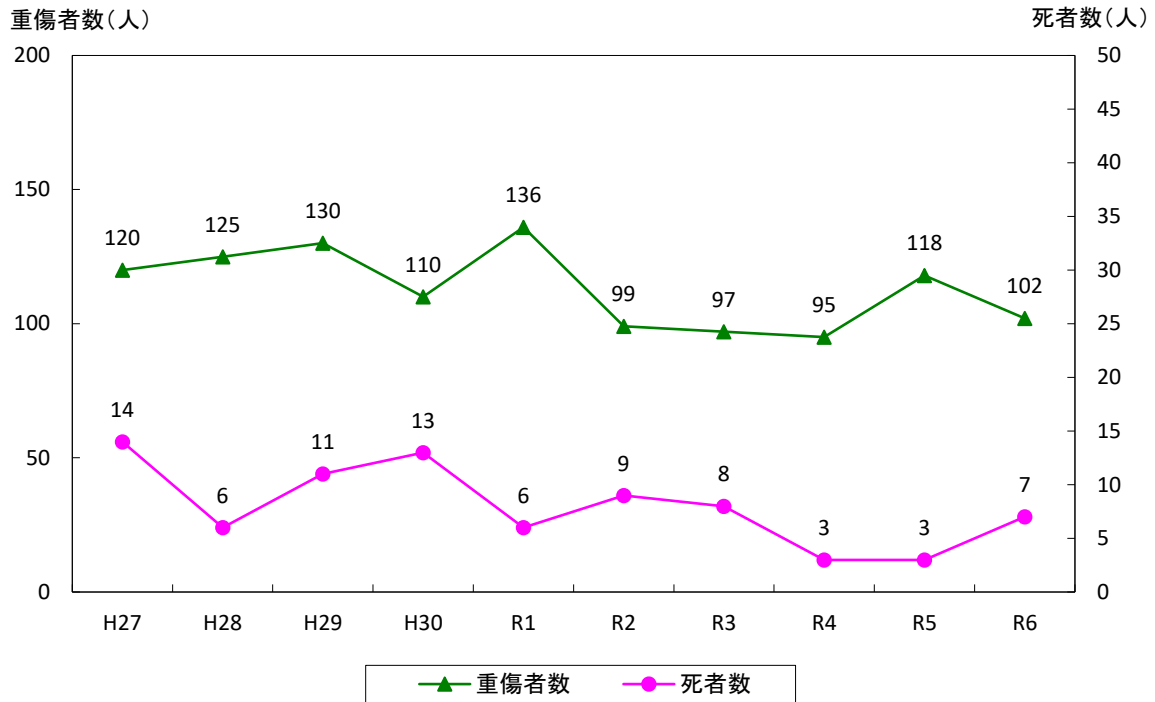
年	区分	総件数	軽傷事故	重傷事故	死亡事故
H27		1,443	1,313	116	14
H28		1,239	1,108	125	6
H29		1,217	1,077	129	11
H30		1,141	1,020	108	13
R1		1,040	904	131	5
R2		813	708	96	9
R3		780	677	95	8
R4		803	710	91	2
R5		778	659	116	3
R6		860	751	102	7

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 乗合バス事故の死傷者数の推移

乗合バスによる交通事故の重傷者数は、令和6年は前年と比べて16人減少した。死者数は、令和6年は前年と比べて4人増加し、7人となっている。

〔図 27〕 乗合バス事故の死傷者数の推移



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 31〕 乗合バス事故の死傷者数の推移 (人)

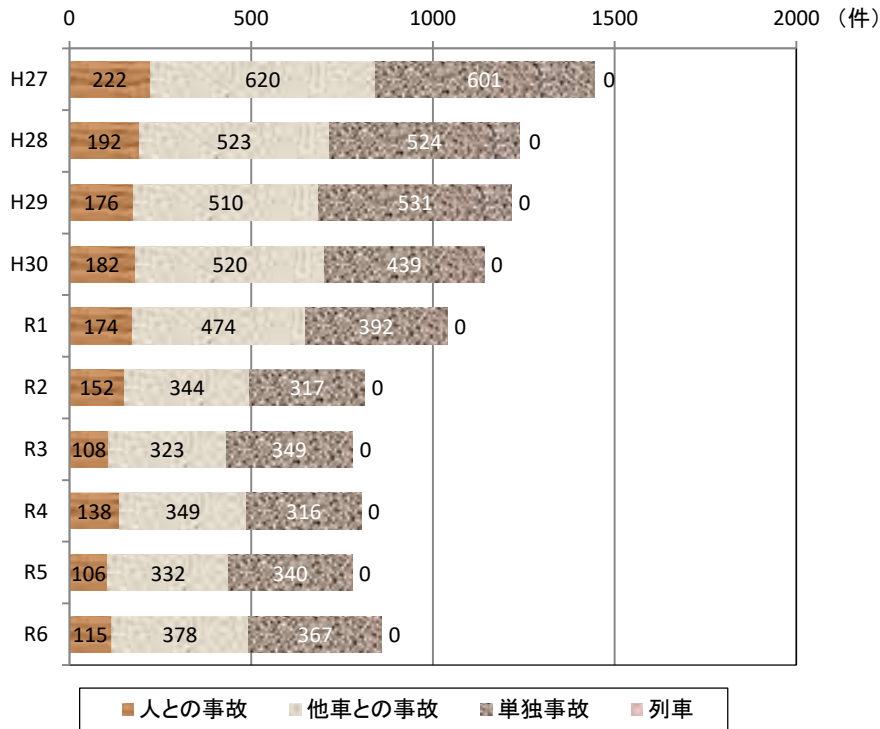
区分 年	死傷者合計	軽傷者数	重傷者数	死者数
H27	1,739	1,605	120	14
H28	1,482	1,351	125	6
H29	1,452	1,311	130	11
H30	1,429	1,306	110	13
R1	1,276	1,134	136	6
R2	933	825	99	9
R3	907	802	97	8
R4	958	860	95	3
R5	937	816	118	3
R6	1,019	910	102	7

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 乗合バスの事故類型別交通事故件数の推移

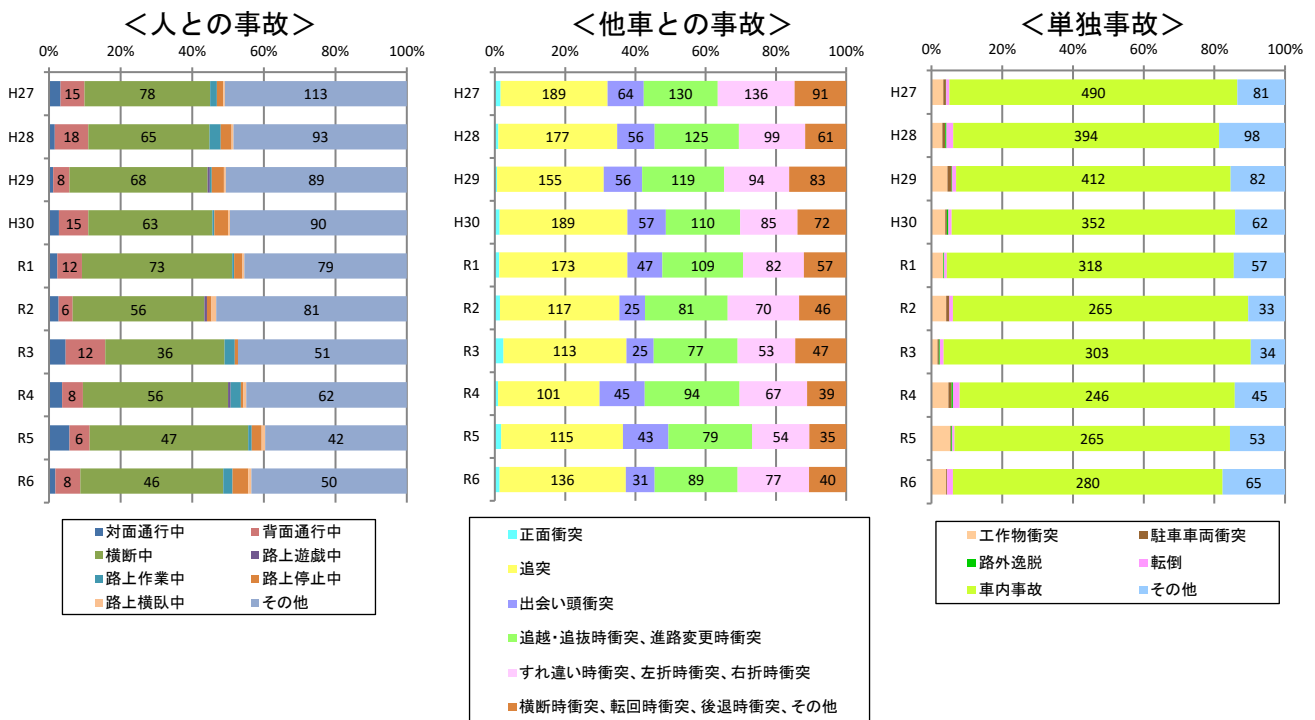
乗合バスの交通事故を事故の種類で類型化すると、他車との事故と単独事故が多く、合計で約87%を占めている。また、単独事故のうち約76%が車内事故である。

〔図 28〕 乗合バスの事故類型別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 29〕 乗合バスの事故類型別交通事故件数の内訳の推移

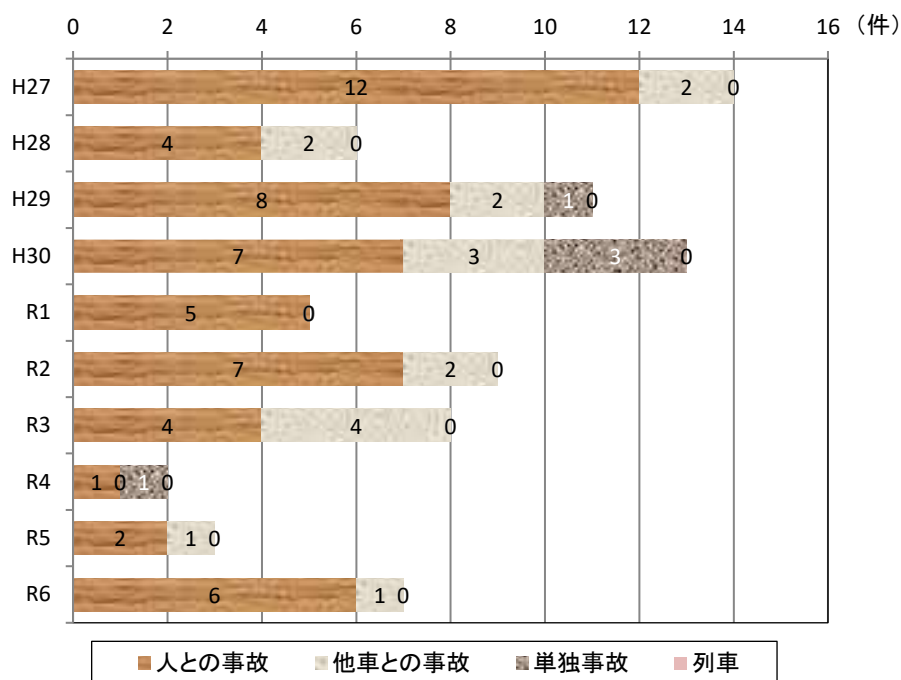


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) 乗合バスの事故類型別交通死亡事故件数の推移

乗合バスの交通死亡事故を事故の種類で類型化すると、人との事故が多い。令和6年は人との事故が6件、他車との事故が1件であり、単独事故と列車との交通死亡事故は発生しなかった。

〔図 30〕 乗合バスの事故類型別交通死亡事故件数の推移

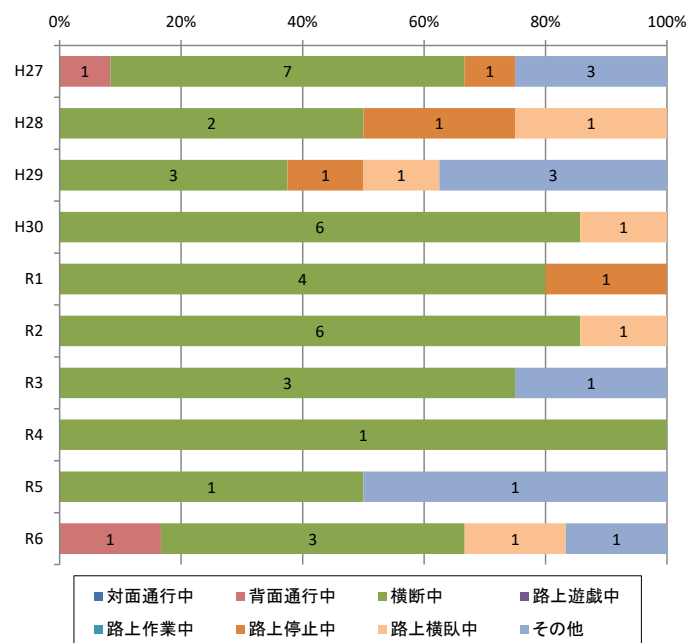


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) 乗合バスの事故類型別交通死亡事故件数の内訳（人との事故）

人との交通死亡事故は、歩行者が横断中に発生する事故が最も多い。

〔図 31〕 乗合バスの事故類型別交通死亡事故件数の内訳（人との事故）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 乗合バスの事故類型別交通死亡事故件数の内訳（他車との事故）

乗合バスの交通死亡事故のうち他車との事故について、目立った特徴は見られない。

〔表 32〕 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（件）（他車との事故）

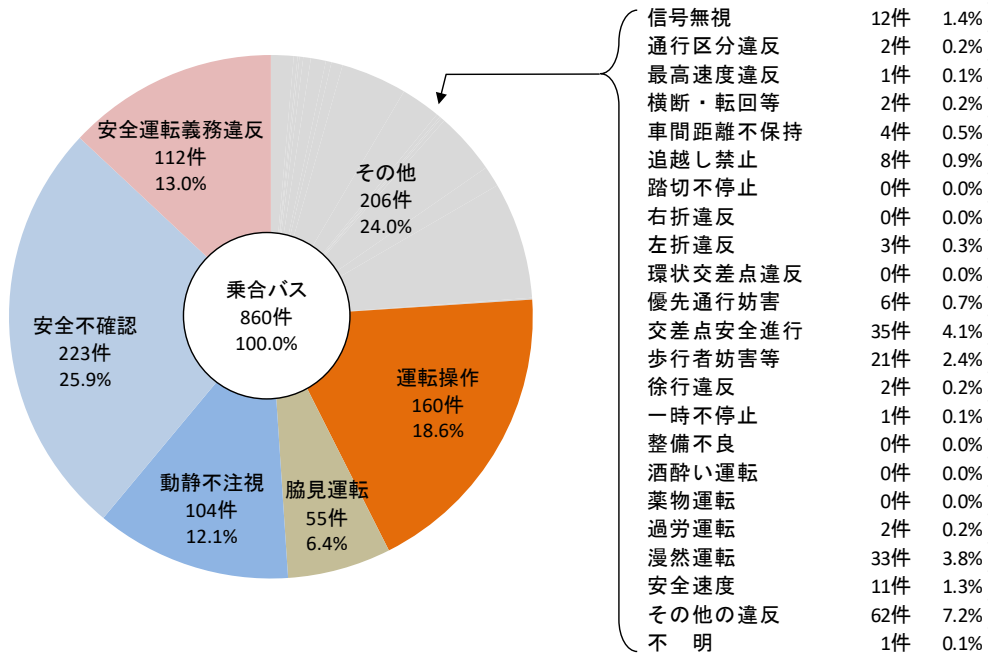
年	正面衝突	追突	出会い頭衝突	追越・追抜時衝突、進路変更時衝突	すれ違い時衝突、左折時衝突、右折時衝突	横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他
H27	0	0	0	0	1	1
H28	0	1	0	0	1	0
H29	0	0	0	1	1	0
H30	0	0	2	0	1	0
R1	0	0	0	0	0	0
R2	0	0	0	0	2	0
R3	0	1	2	0	1	0
R4	0	0	0	0	0	0
R5	0	0	1	0	0	0
R6	0	0	1	0	0	0

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) 乗合バスの法令違反別の交通事故件数の割合

乗合バスの交通事故の法令違反別では、「安全不確認」223件（25.9%）が最も多く、次いで「運転操作」160件（18.6%）、「安全運転義務違反」112件（13.0%）、「動静不注視」104件（12.1%）となっている。「運転操作」は車内事故発生の要因の一つと考えられる。

〔図 32〕 乗合バスの法令違反別の交通事故件数の割合（令和6年）

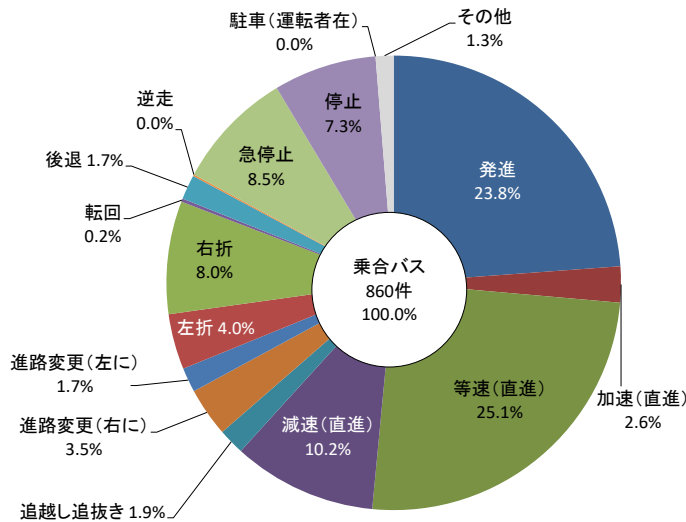


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 乗合バスの行動類型別交通事故件数の割合

乗合バスの交通事故をバスの動きで類型化すると、発進時と等速（直進）時が多く、合計で約半数を占めている。

〔図 33〕 乗合バスの行動類型別事故件数の割合（令和6年）



行動類型	件数	割合
発進	205 件	23.8%
加速(直進)	22 件	2.6%
等速(直進)	216 件	25.1%
減速(直進)	88 件	10.2%
追越し追抜き	16 件	1.9%
進路変更(右に)	30 件	3.5%
進路変更(左に)	15 件	1.7%
左折	34 件	4.0%
右折	69 件	8.0%
転回	2 件	0.2%
後退	15 件	1.7%
横断	1 件	0.1%
蛇行	0 件	0.0%
逆走	0 件	0.0%
急停止	73 件	8.5%
停止	63 件	7.3%
駐車(運転者在)	0 件	0.0%
その他	11 件	1.3%

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 乗合バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数

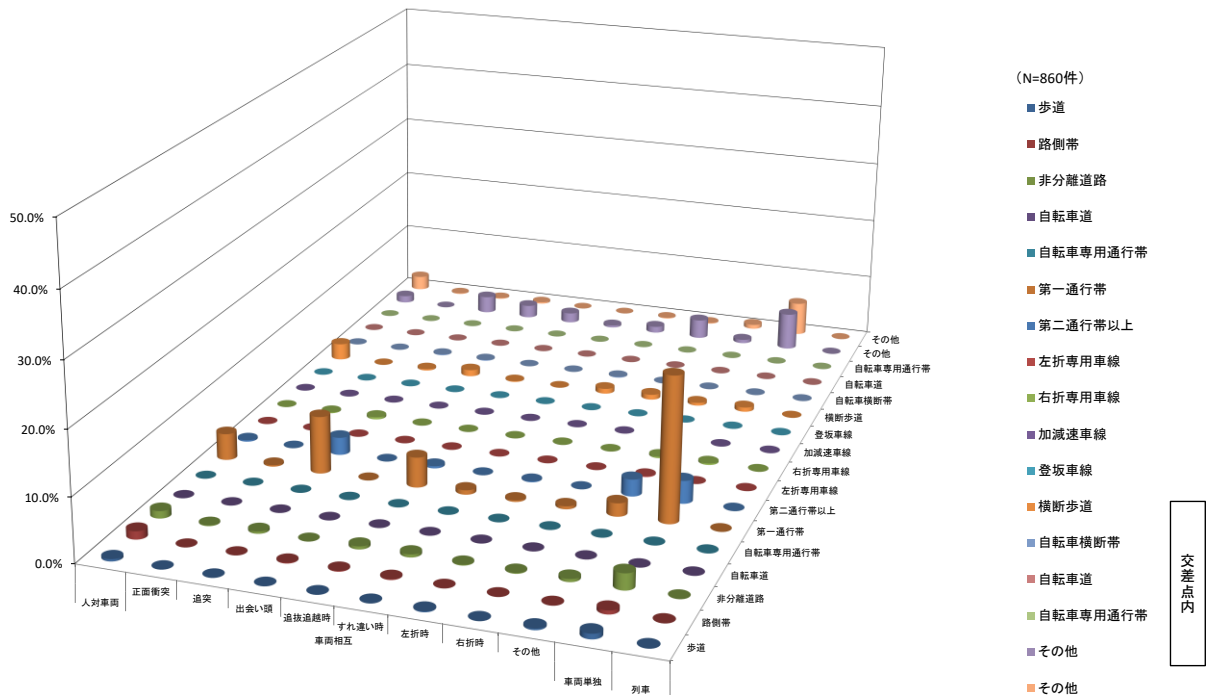
乗合バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数と構成比をそれぞれ表33と図34に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表34と図35に示す。第一通行帯での単独事故が最も多く195件（22.7%）となっている。

〔表 33〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数（件）（令和6年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
単路（交差点付近を含む）	歩道	3	0	0	0	0	1	0	2	7	0	13
	路側帯	11	0	0	1	1	0	0	0	5	0	19
	非分離道路	10	1	3	0	4	4	1	4	22	0	50
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	36	2	78	0	41	6	4	18	195	0	382
	第二通行帯以上	2	0	24	0	3	0	1	23	31	0	84
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	右折専用車線	0	1	3	0	0	0	0	2	2	0	8
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内	横断歩道	23	0	2	9	1	7	7	4	6	0	59
	自転車横断帯	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	3
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	10	0	24	18	14	3	9	5	52	0	162
その他	20	1	1	2	0	0	1	6	47	0	79	
合計	115	5	136	31	64	14	23	65	367	0	860	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 34〕 乗合バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数の構成比（%）（令和6年）



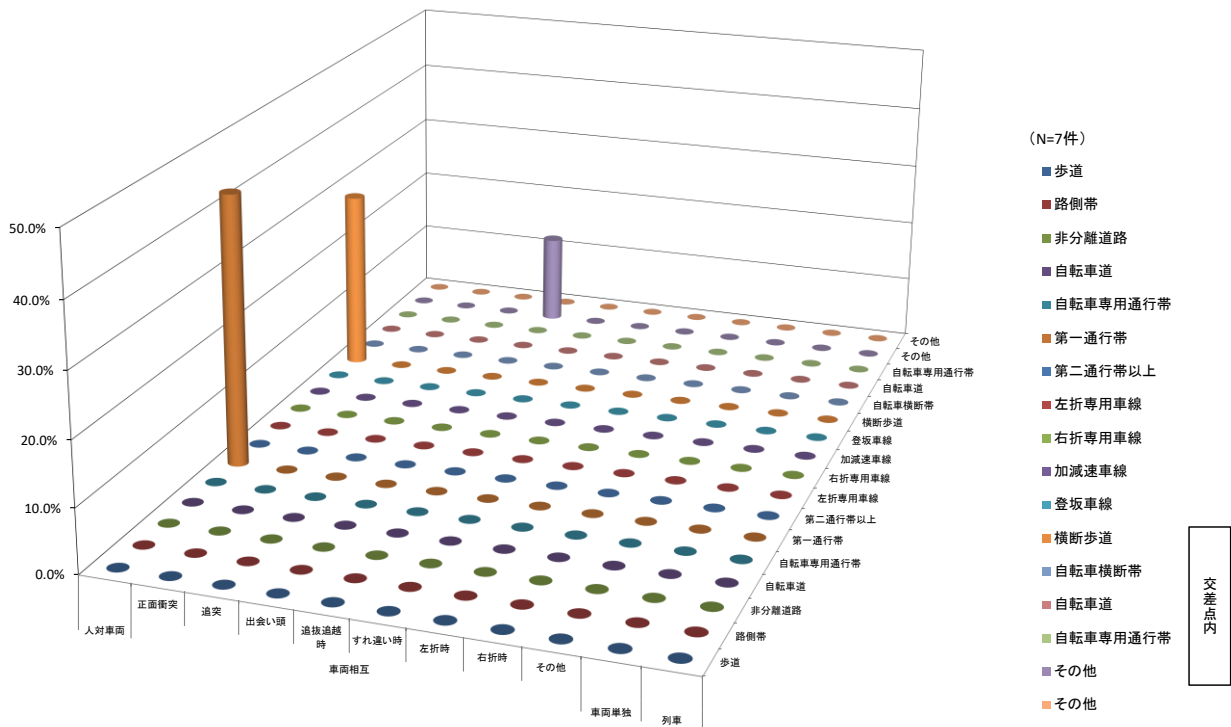
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 34] 乗合バスの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数（件）（令和6年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非分離道路	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	第二通行帯以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内	横断歩道	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	自転車横断帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 35] 乗合バスの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数の構成比（%）（令和6年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 乗合バスの事故類型別、行動類型別交通事故件数

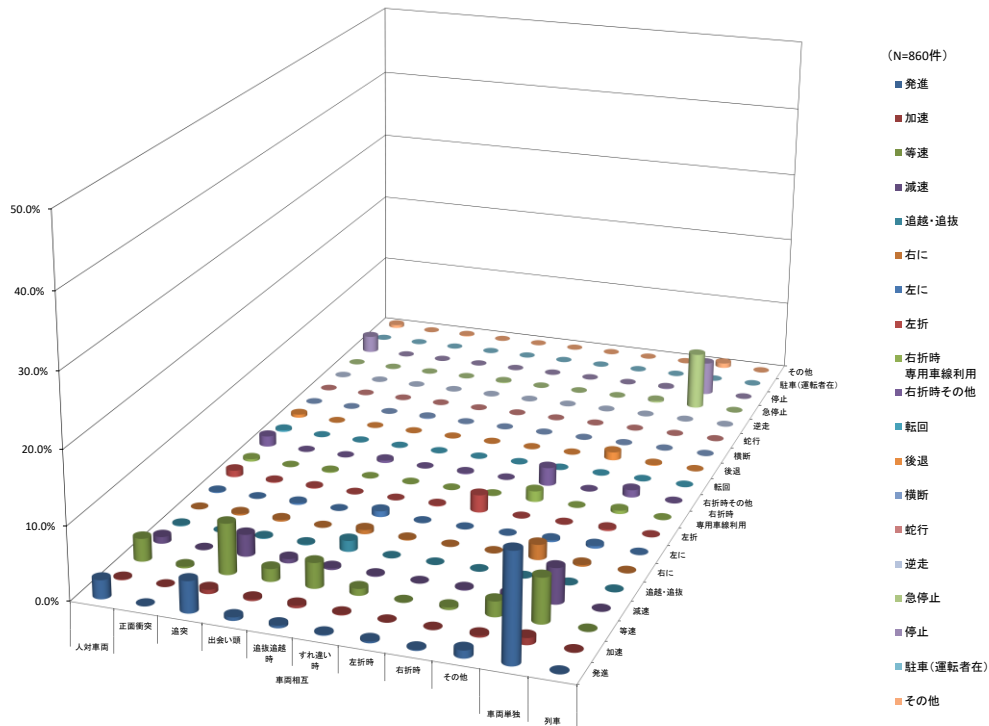
乗合バスの事故類型別、行動類型別交通事故件数と構成比をそれぞれ表35と図36に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表36と図37に示す。発進時の単独事故が最も多く126件（14.7%）となっている。

〔表 35〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別交通事故件数（件）（令和6年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
発進	22	0	37	4	3	1	2	1	9	126	0	205	
直進	加速	1	0	5	2	3	1	0	0	2	8	0	22
	等速	27	2	60	15	30	8	0	3	18	53	0	216
	減速	8	0	26	5	2	1	0	1	3	42	0	88
追越・追抜		1	0	1	1	13	0	0	0	0	0	0	16
進路変更	右に	0	2	2	0	5	1	0	0	18	2	0	30
	左に	1	0	2	0	7	0	0	0	2	3	0	15
左折		8	1	1	0	0	1	21	0	0	2	0	34
右折時	専用車線利用	3	0	1	0	0	0	0	13	0	4	0	21
	その他	13	0	0	3	0	1	0	22	0	9	0	48
転回		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
後退		4	0	0	0	0	0	0	0	10	1	0	15
横断		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
逆走		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	1	0	0	0	2	70	0	73
停止		21	0	0	0	0	0	0	0	1	41	0	63
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		4	0	1	0	0	0	0	0	0	6	0	11
合計		115	5	136	31	64	14	23	40	65	367	0	860

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 36〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別交通事故件数の構成比（%）（令和6年）



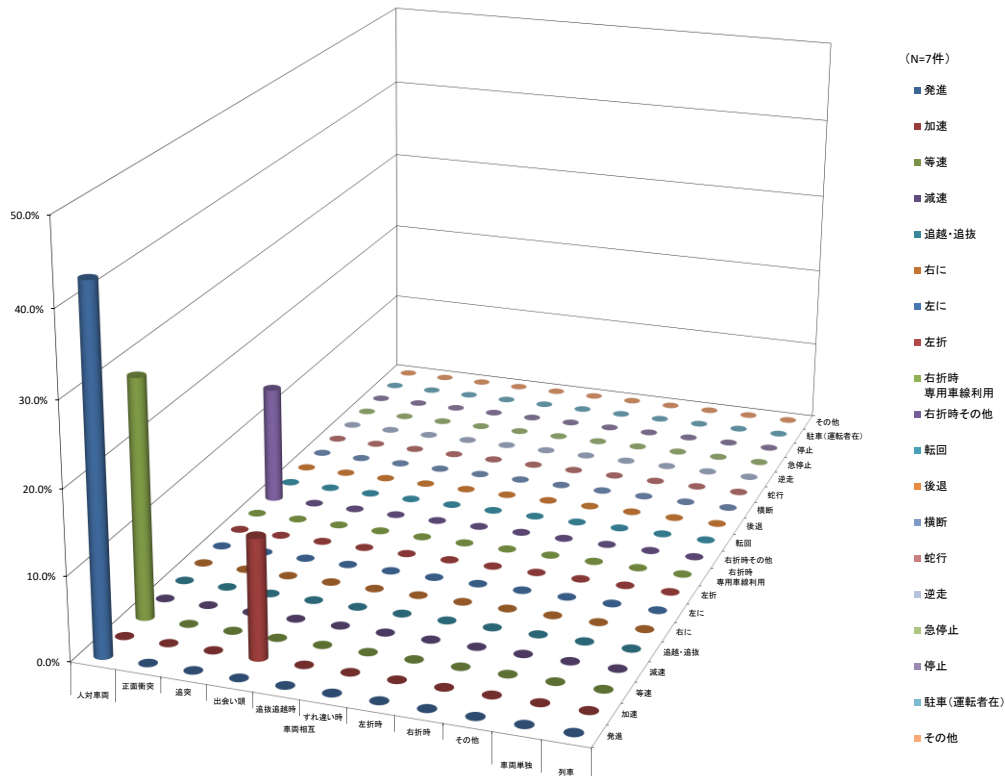
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 36] 乗合バスの事故類型別、行動類型別交通死亡事故件数 (件) (令和6年)

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
発進	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
直進	加速	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	等速	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	追越・追抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	転回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	後退	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	横断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	蛇行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	逆走	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	急停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	駐車(運転者在)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 37] 乗合バスの事故類型別、行動類型別交通死亡事故件数の構成比 (%) (令和6年)



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移

乗合バスの車内事故件数は近年増加傾向となっており、令和6年は280件で前年と比べて15件増加している。

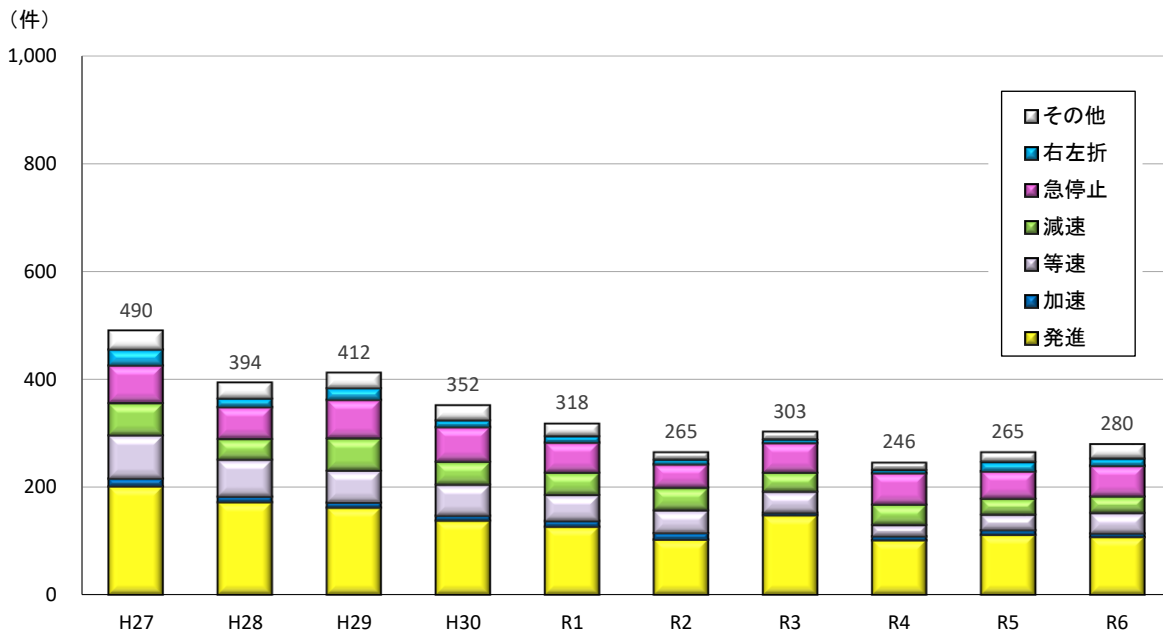
また、発生時のバスの動きで類型化すると、発進時が108件、直進時が75件、急停止が57件となっており、合計で85%を超えている。

〔表 37〕 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移（件）

年		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
区分	発進	201	172	162	138	127	103	148	102	112	108
直進	加速	15	11	10	10	11	13	5	8	9	7
	等速	80	68	59	57	48	42	39	21	29	38
	減速	59	38	59	42	41	41	35	37	29	30
	急停止	69	59	71	64	56	44	55	59	51	57
	右左折	30	16	22	13	12	9	7	6	18	14
	その他	36	30	29	28	23	13	14	13	17	26
	合計	490	394	412	352	318	265	303	246	265	280

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 38〕 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移

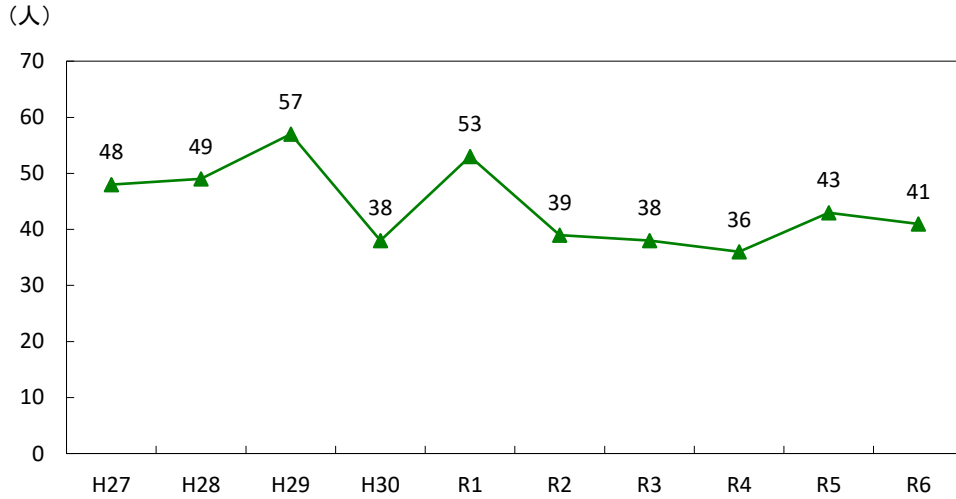


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

乗合バスの車内事故による重傷者数は、令和6年は前年と比べて2人減少している。

〔図 39〕 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

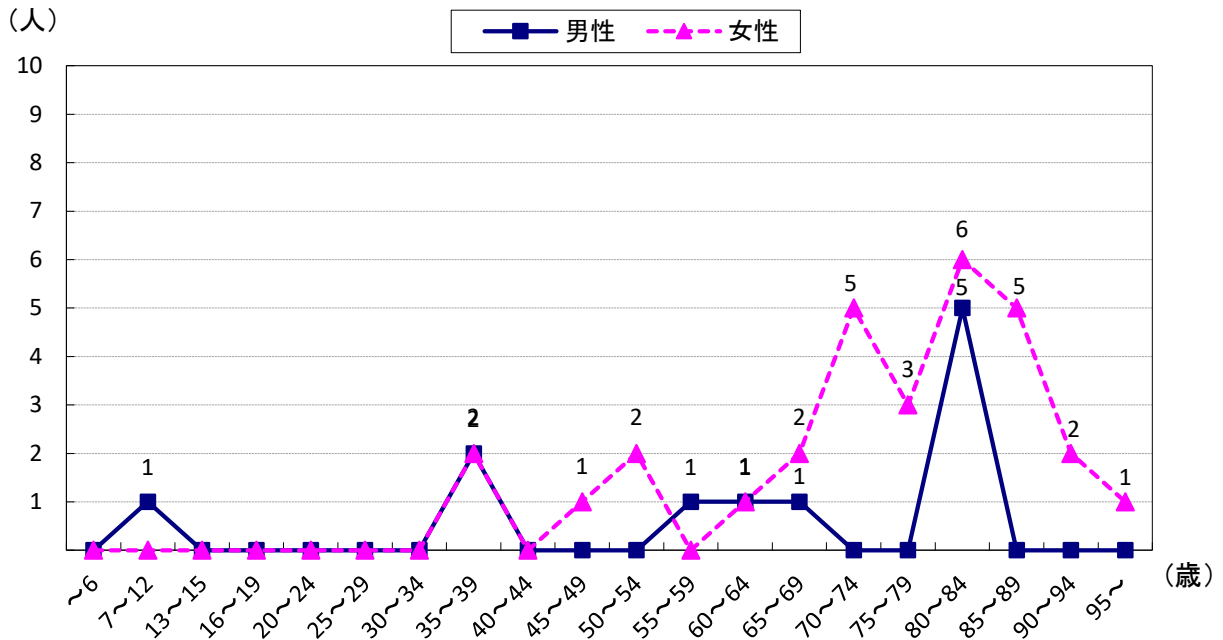


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布

乗合バスの車内事故による重傷者数は、80～84歳が男女ともに最も多くなっている。

〔図 40〕 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布（令和6年）

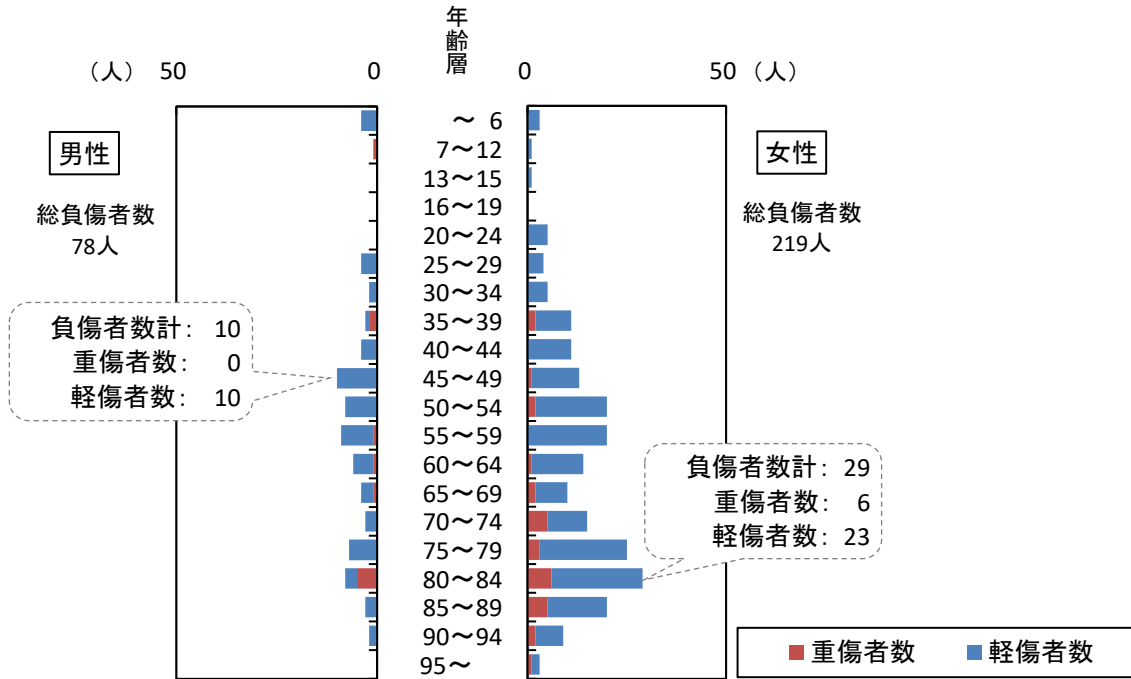


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(14) 乗合バスの車内事故による男女別負傷者数の年齢分布

乗合バスの車内事故による負傷者数は、女性は65歳以上の高齢者で約半数を占めている。また、重傷者数は男女ともに高齢者が多い。なお、男性に比べて女性の総負傷者数が約2.8倍となっている。

〔図 41〕 乗合バスの車内事故による男女別年齢層別負傷者数（令和6年）

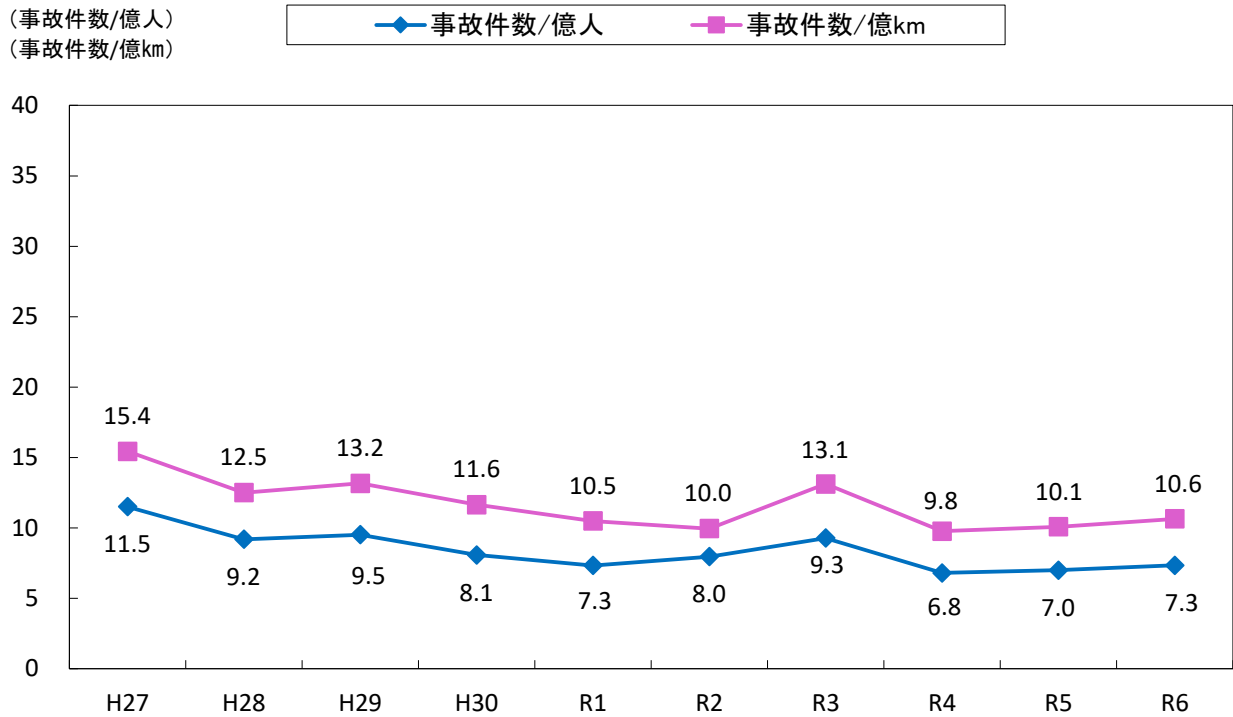


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(15) 乗合バスの輸送人員1億人あたり及び走行距離1億キロあたり車内事故件数の推移

乗合バスの輸送人員あたり及び走行距離あたりの車内事故件数は、令和6年は前年と比べていずれも増加している。

〔図 42〕 乗合バスの輸送人員1億人あたり及び走行距離1億キロあたり車内事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」

〔表 38〕 乗合バスの車内事故件数、輸送人員及び走行距離の推移

	事故件数(件)	輸送人員(億人)	走行距離(億km)
H27	490	42.6	31.8
H28	394	42.8	31.5
H29	412	43.3	31.3
H30	352	43.6	30.2
R1	318	43.4	30.3
R2	265	33.3	26.6
R3	303	32.6	23.1
R4	246	36.2	25.2
R5	265	37.9	26.3
R6	280	38.2	26.3

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」

(16) 乗合バスの車内事故件数の事故種類別時間帯分布

乗合バスの車内事故件数を時間帯別にみると、10時～19時台の時間帯に多く発生しており、全体の8割を占めている。

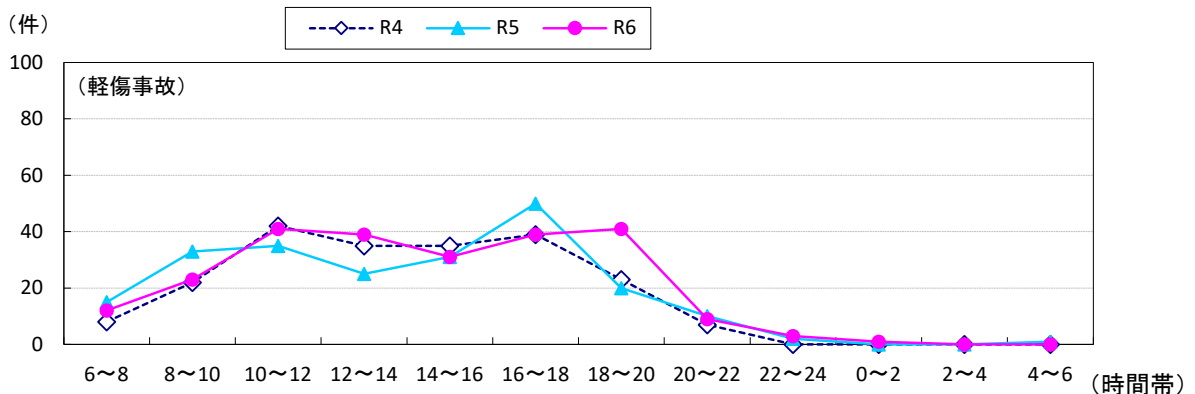
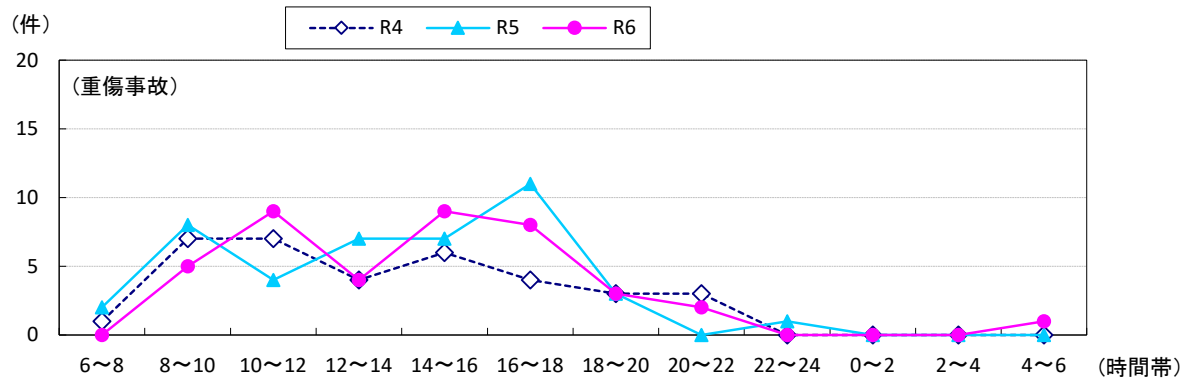
〔表 39〕 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布（令和6年）

時間帯	重傷事故	軽傷事故	負傷事故計
6～8	0	12	12
8～10	5	23	28
10～12	9	41	50
12～14	4	39	43
14～16	9	31	40
16～18	8	39	47
18～20	3	41	44
20～22	2	9	11
22～24	0	3	3
0～2	0	1	1
2～4	0	0	0
4～6	1	0	1
合計	41	239	280

※運転者が負傷した事故を含む。

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 43〕 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(17) 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布

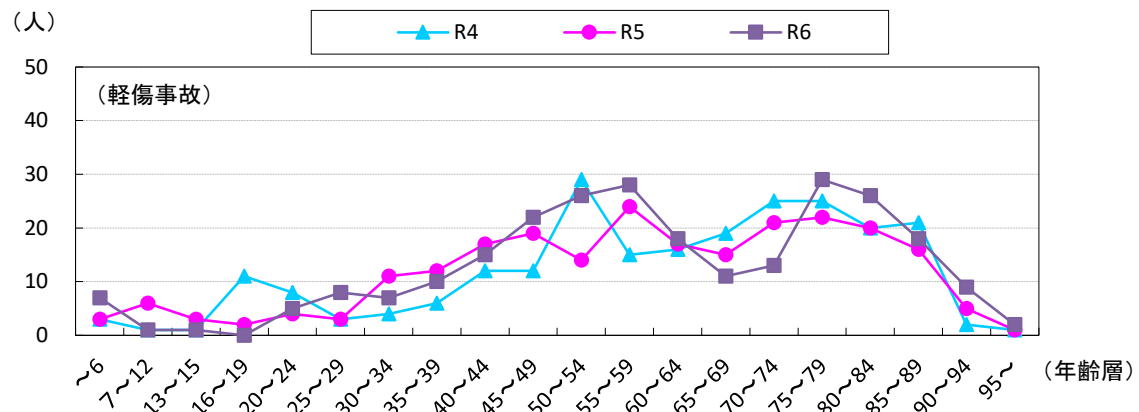
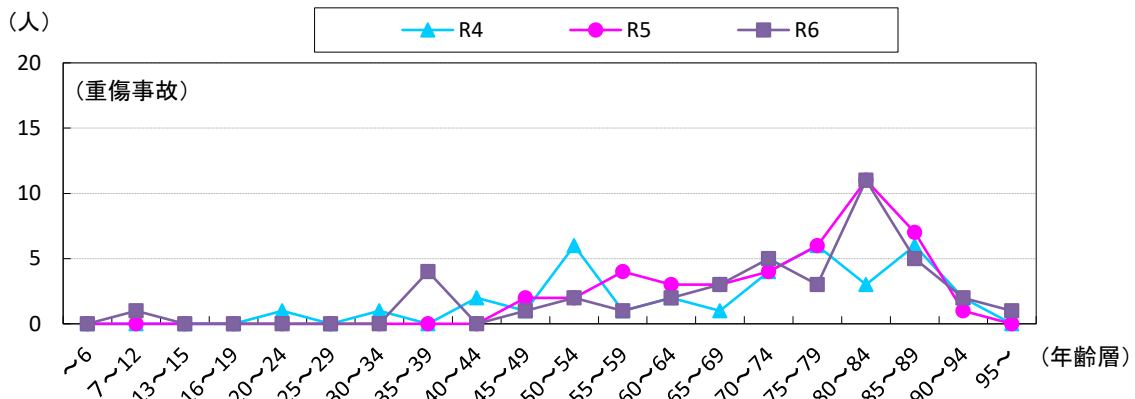
乗合バスの車内事故による負傷者数は65歳以上の高齢者が半数近くを占めている。また、重傷者のうち65歳以上の高齢者は30人で約73%となっており、高齢者の比率の高さが顕著となっている。

〔表 40〕 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布（人）（令和6年）

年齢層	重傷者数	軽傷者数	負傷者計
～ 6	0	7	7
7～12	1	1	2
13～15	0	1	1
16～19	0	0	0
20～24	0	5	5
25～29	0	8	8
30～34	0	7	7
35～39	4	10	14
40～44	0	15	15
45～49	1	22	23
50～54	2	26	28
55～59	1	28	29
60～64	2	18	20
65～69	3	11	14
70～74	5	13	18
75～79	3	29	32
80～84	11	26	37
85～89	5	18	23
90～94	2	9	11
95～	1	2	3
合計	41	256	297

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 44〕 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布



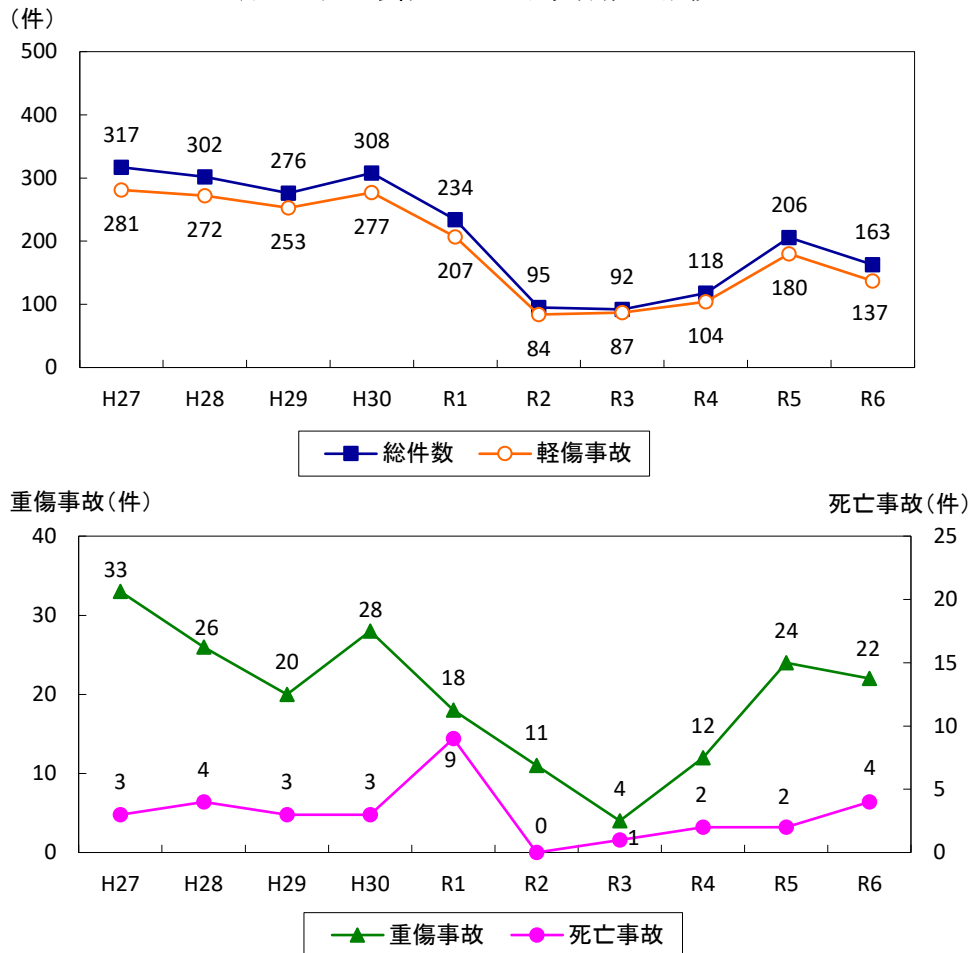
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2-2. 貸切バスの交通事故

(1) 貸切バスの交通事故件数、交通死傷事故件数の推移

貸切バスの交通事故件数について、令和6年は前年と比べて総件数、軽傷事故件数、重傷事故件数が減少した。また、交通死亡事故件数は前年と比べて2件増加し、4件となっている。

〔図 45〕 貸切バスの事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 41〕 貸切バスの事故件数の推移（件）

年	区分	総件数	軽傷事故	重傷事故	死亡事故
H27		317	281	33	3
H28		302	272	26	4
H29		276	253	20	3
H30		308	277	28	3
R1		234	207	18	9
R2		95	84	11	0
R3		92	87	4	1
R4		118	104	12	2
R5		206	180	24	2
R6		163	137	22	4

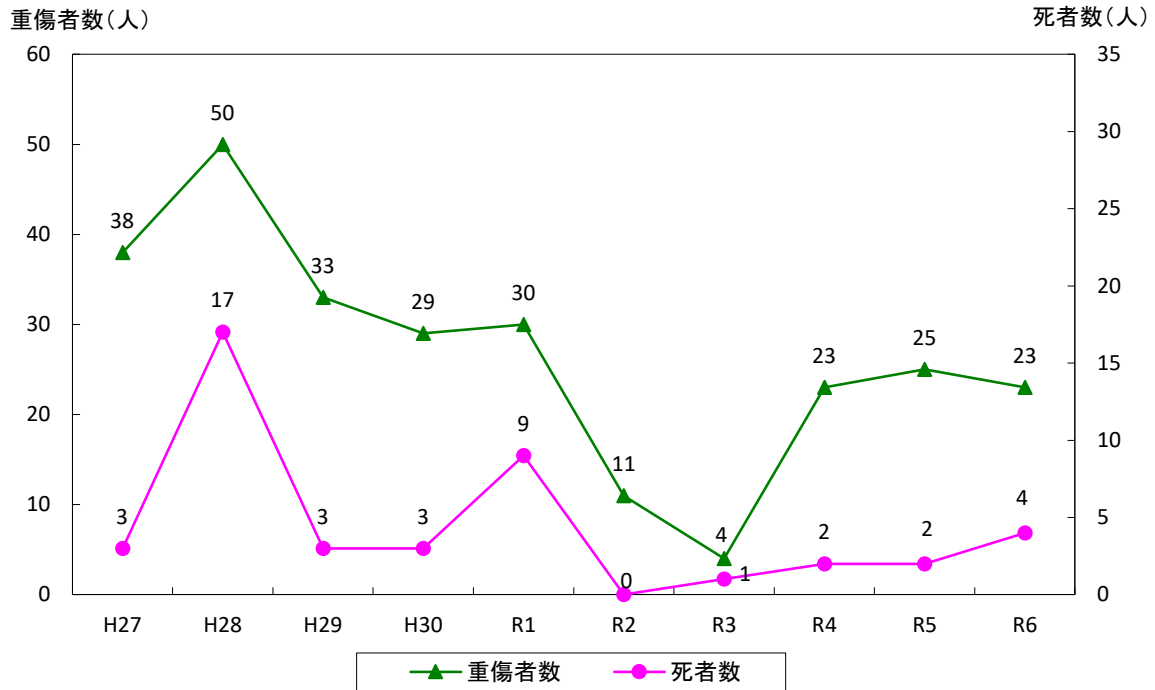
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 貸切バス事故の死傷者数の推移

貸切バスによる交通事故の死傷者数は、令和6年は前年と比べて軽傷者数、重傷者数ともに減少した。死者数は、前年と比べて2人増加し、4人となっている。

※平成28年は軽井沢スキーバス事故の影響により増加

〔図 46〕 貸切バス事故の死傷者数の推移



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 42〕 貸切バス事故の死傷者数の推移 (人)

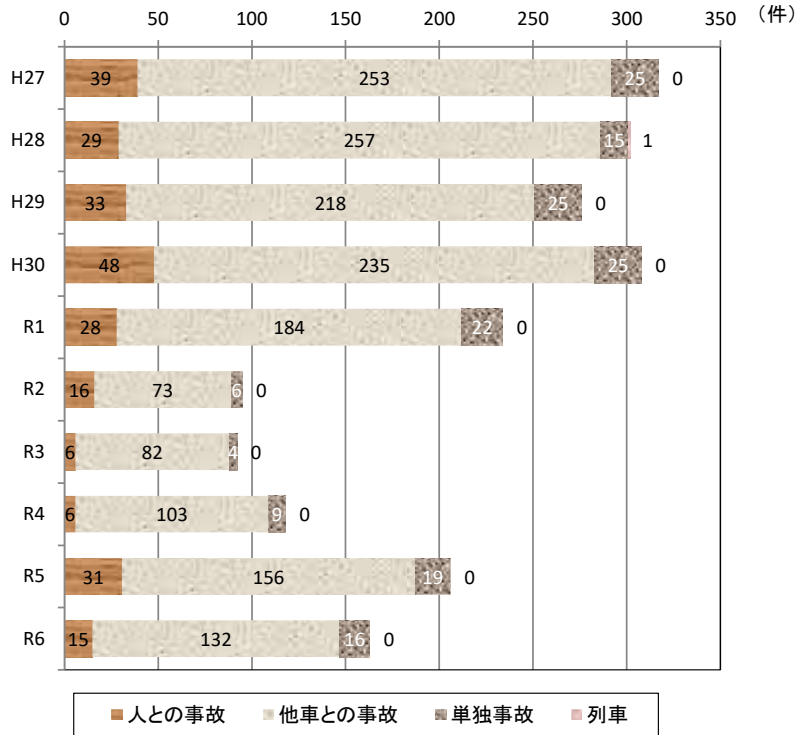
年 \ 区分	死傷者合計	軽傷者数	重傷者数	死者数
H27	565	524	38	3
H28	625	558	50	17
H29	468	432	33	3
H30	431	399	29	3
R1	382	343	30	9
R2	133	122	11	0
R3	120	115	4	1
R4	193	168	23	2
R5	284	257	25	2
R6	228	201	23	4

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 貸切バスの事故類型別交通事故件数の推移

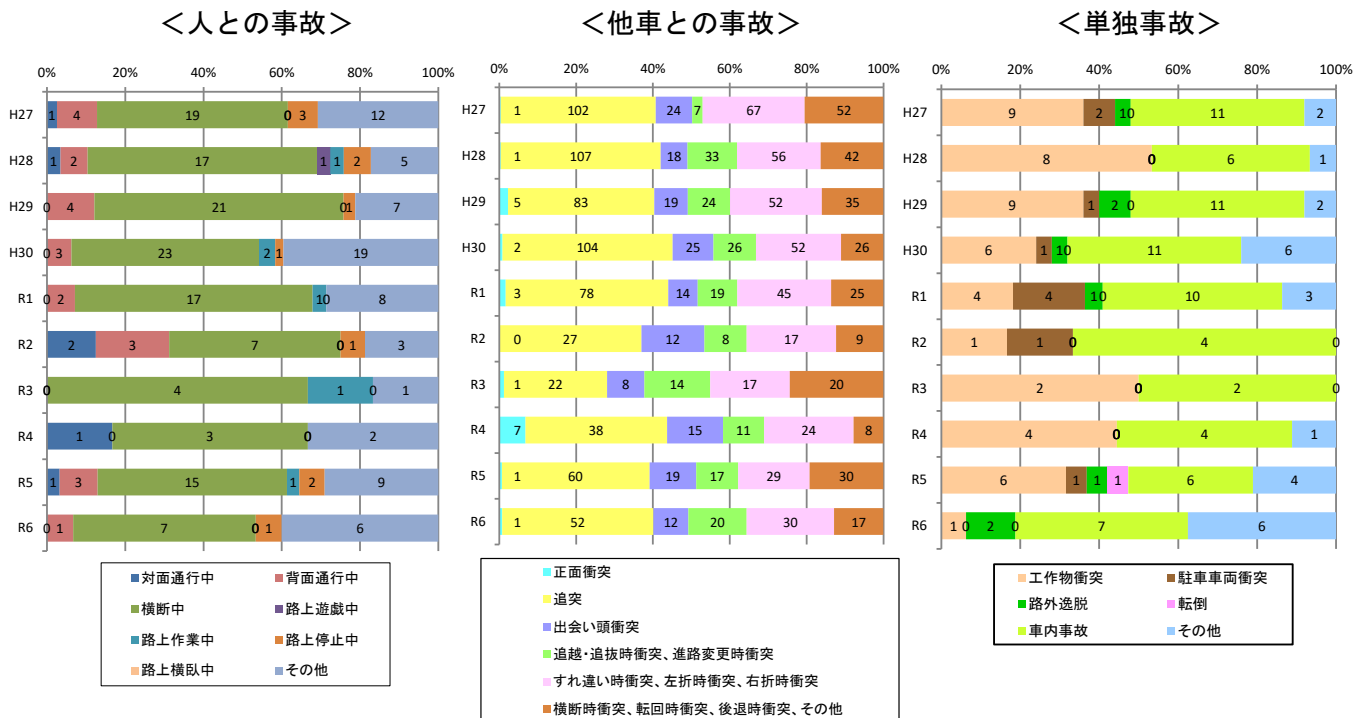
貸切バスの交通事故を事故の種類で類型化すると、他車との事故が多く、約81%を占めている。他車との事故のうち、約39%が追突事故である。

〔図 47〕 貸切バスの事故類型別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 48〕 貸切バスの事故類型別交通事故件数の内訳（件）

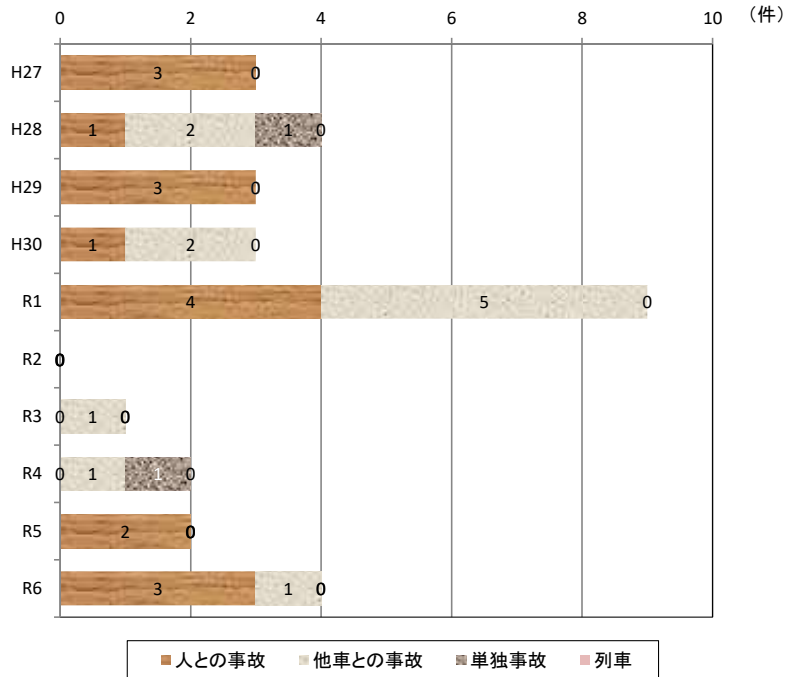


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) 貸切バスの事故類型別交通死亡事故件数の推移

貸切バスの交通死亡事故件数は令和5年は2件であったが、令和6年は前年と比べて2件増加し、4件であった。またそのうち3件は人との事故であった。

〔図 49〕 貸切バスの事故類型別交通死亡事故件数の推移



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) 貸切バスの事故類型別交通死亡事故件数の内訳（他車との事故）

貸切バスの交通死亡事故のうち他車との事故について、目立った特徴は見られない。

〔表 43〕 貸切バスの事故類型別交通死亡事故件数の内訳の推移（件）（他車との事故）

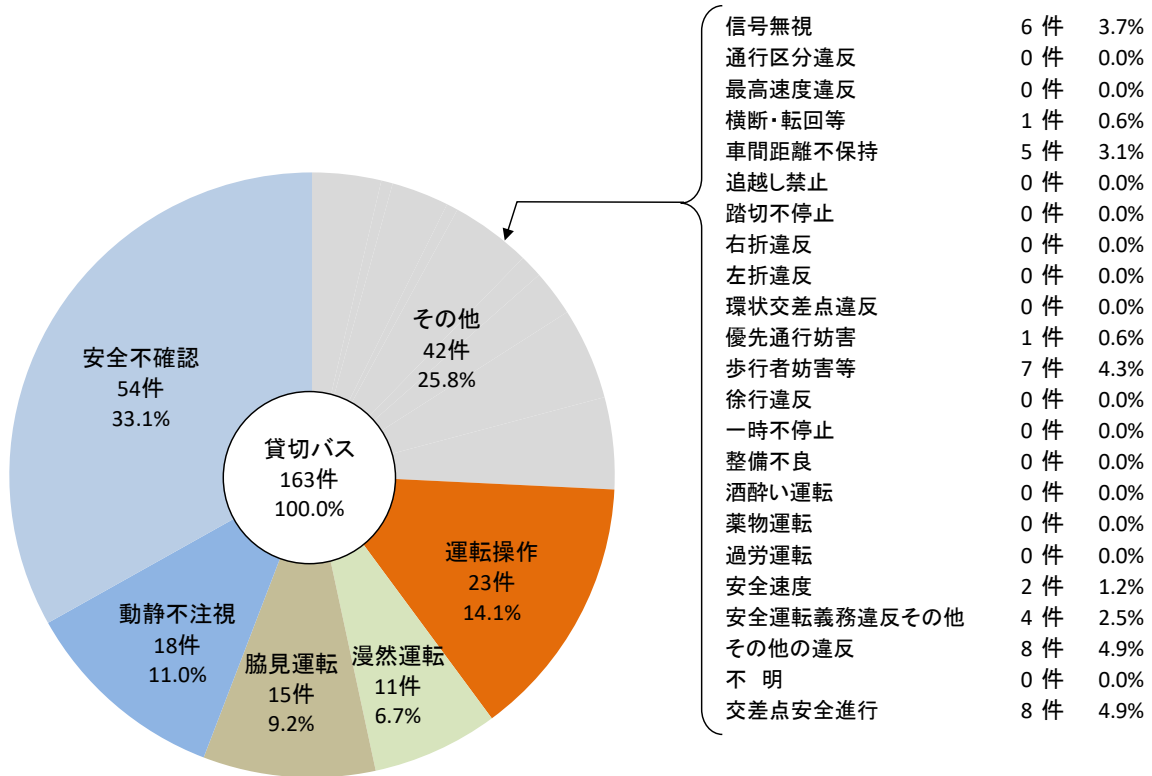
区分 年	正面衝突	追突	出会い頭衝突	追越・追抜時衝突	すれ違い時衝突、左折時衝突、右折時衝突	その他
H27	0	0	0	0	0	0
H28	0	0	0	0	1	1
H29	0	0	0	0	0	0
H30	0	0	1	1	0	0
R1	0	2	1	1	0	1
R2	0	0	0	0	0	0
R3	0	0	0	0	1	0
R4	0	0	1	0	0	0
R5	0	0	0	0	0	0
R6	0	0	0	0	1	0

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 貸切バスの事故の法令違反別の交通事故件数の割合

貸切バスの交通事故の法令違反別では、「安全不確認」54件（33.1%）が最も多く、次いで「運転操作」23件（14.1%）、「動静不注視」18件（11.0%）、「脇見運転」15件（9.2%）となっている。

〔図 50〕 貸切バスの法令違反別の交通事故件数の割合（令和6年）

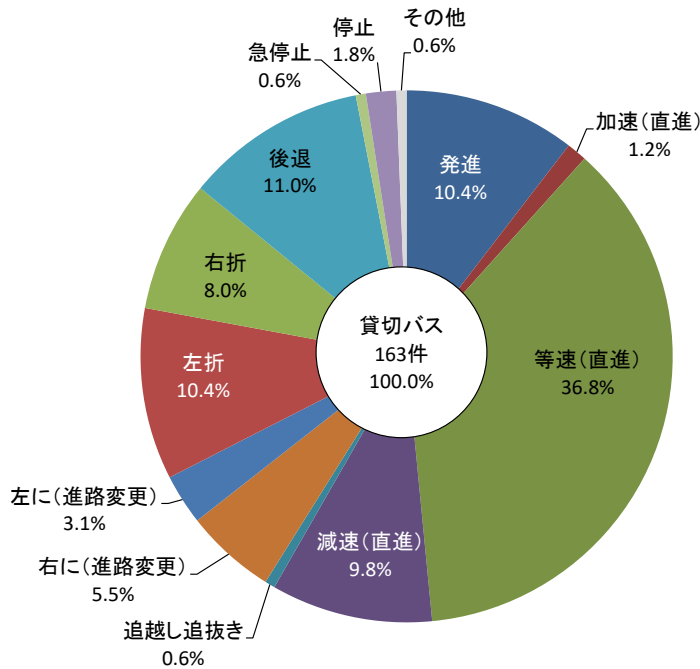


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) 貸切バスの行動類型別交通事故件数の割合

貸切バスの交通事故をバスの動きで類型化すると、等速（直進）時が最も多く36.8%（60件）となっている。

〔図 51〕 貸切バスの行動類型別交通事故件数の割合（令和6年）



行動類型	件数	割合
発進	17件	10.4%
加速(直進)	2件	1.2%
等速(直進)	60件	36.8%
減速(直進)	16件	9.8%
追越し追抜き	1件	0.6%
右に(進路変更)	9件	5.5%
左に(進路変更)	5件	3.1%
左折	17件	10.4%
右折	13件	8.0%
転回	0件	0.0%
後退	18件	11.0%
横断	0件	0.0%
蛇行	0件	0.0%
逆走	0件	0.0%
急停止	1件	0.6%
停止	3件	1.8%
駐車(運転者在)	0件	0.0%
その他	1件	0.6%

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 貸切バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数

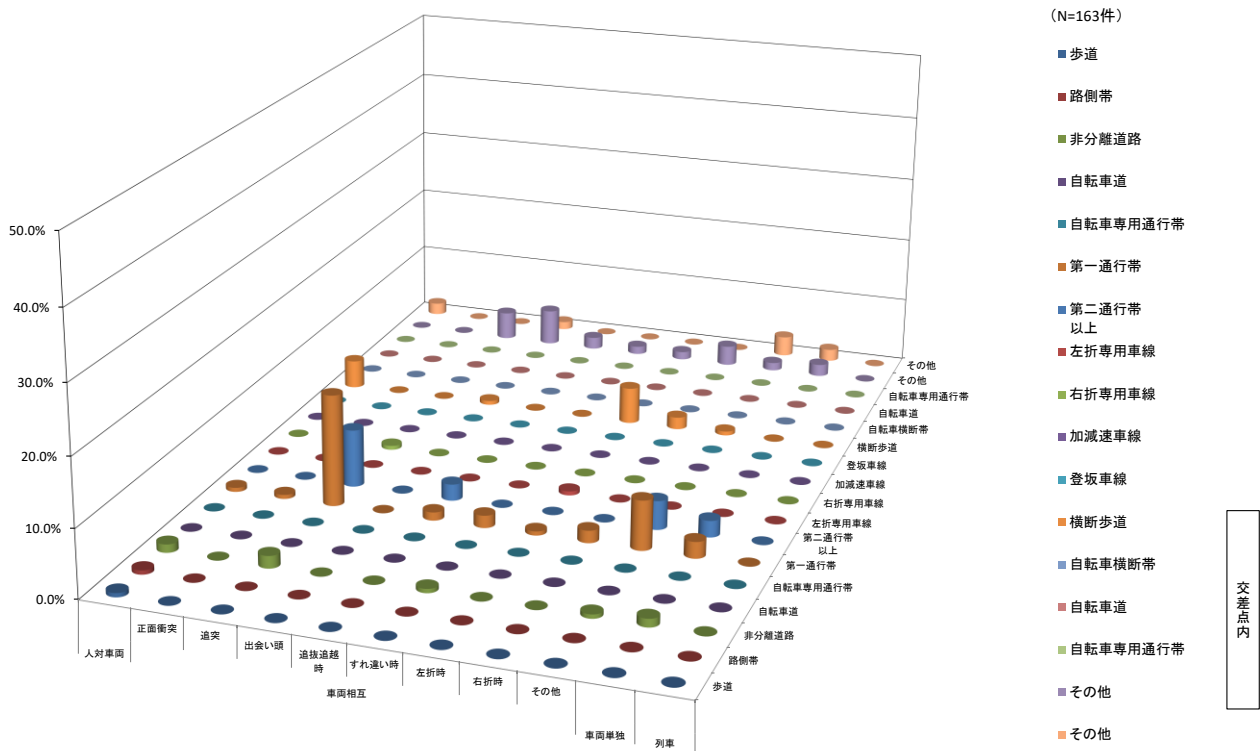
貸切バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数と構成比をそれぞれ表44と図52に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表45と図53に示す。第一通行帯での追突事故が最も多く27件（16.6%）となっている。

〔表 44〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数（件）（令和6年）

	人対車両	車両相互									車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
単路 (交差点付近を含む)	歩道	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	路側帯	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	非分離道路	2	0	3	0	0	1	0	0	1	2	0	9	
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	第一通行帯	1	1	27	0	2	3	1	3	12	4	0	54	
	第二通行帯以上	0	0	14	0	4	0	0	0	7	4	0	29	
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	右折専用車線	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	交差点内	横断歩道	7	0	0	1	0	0	9	3	1	0	0	21
		自転車横断帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内その他		0	0	7	9	3	2	2	5	2	3	0	33	
その他	3	0	0	2	0	0	0	0	5	3	0	13		
合計	15	1	52	12	9	6	13	11	28	16	0	163		

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 52〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別交通事故件数の構成比（%）（令和6年）



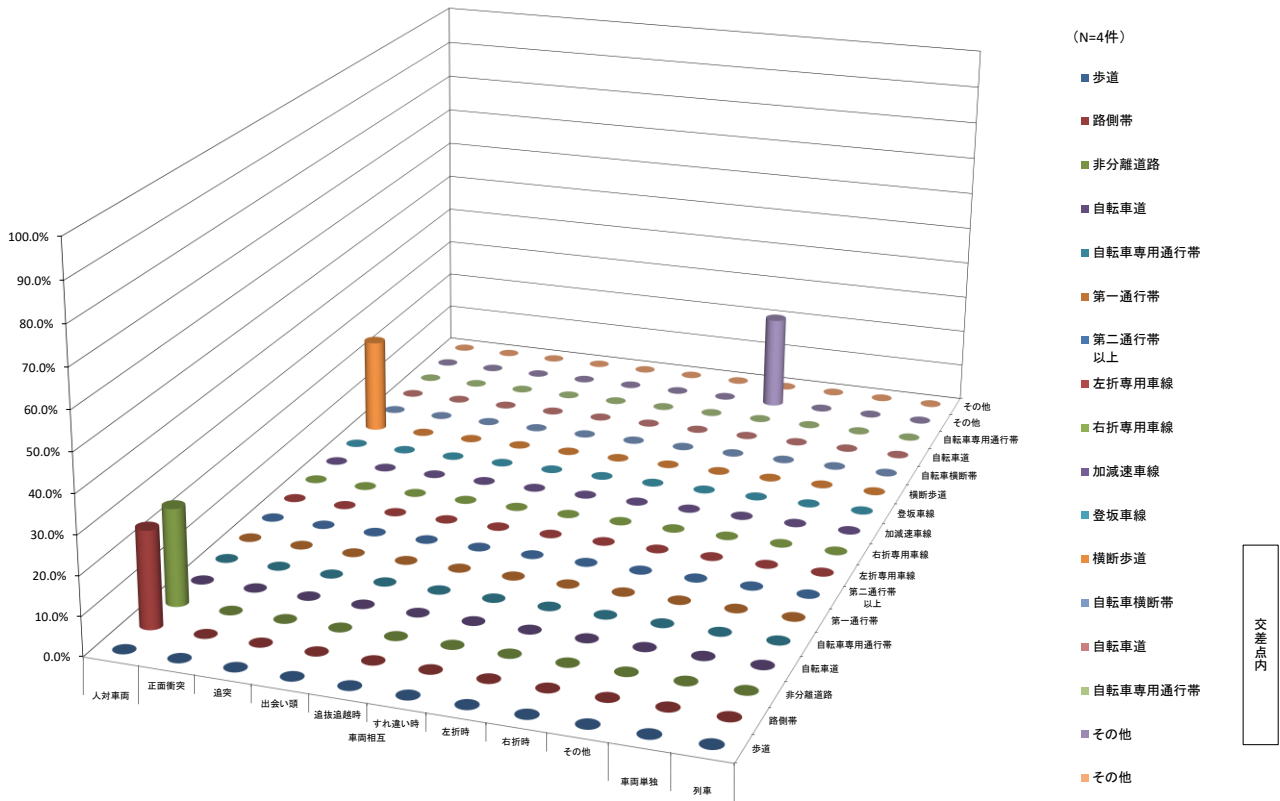
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 45] 貸切バスの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数 (件) (令和6年)

	人対車両	車両相互									車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路 (交差点付近を含む)	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	非分離道路	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第二通行帯以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	横断歩道	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
交差点内	自転車横断帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 53] 貸切バスの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数の構成比 (%) (令和6年)



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 貸切バスの事故類型別、行動類型別交通事故件数

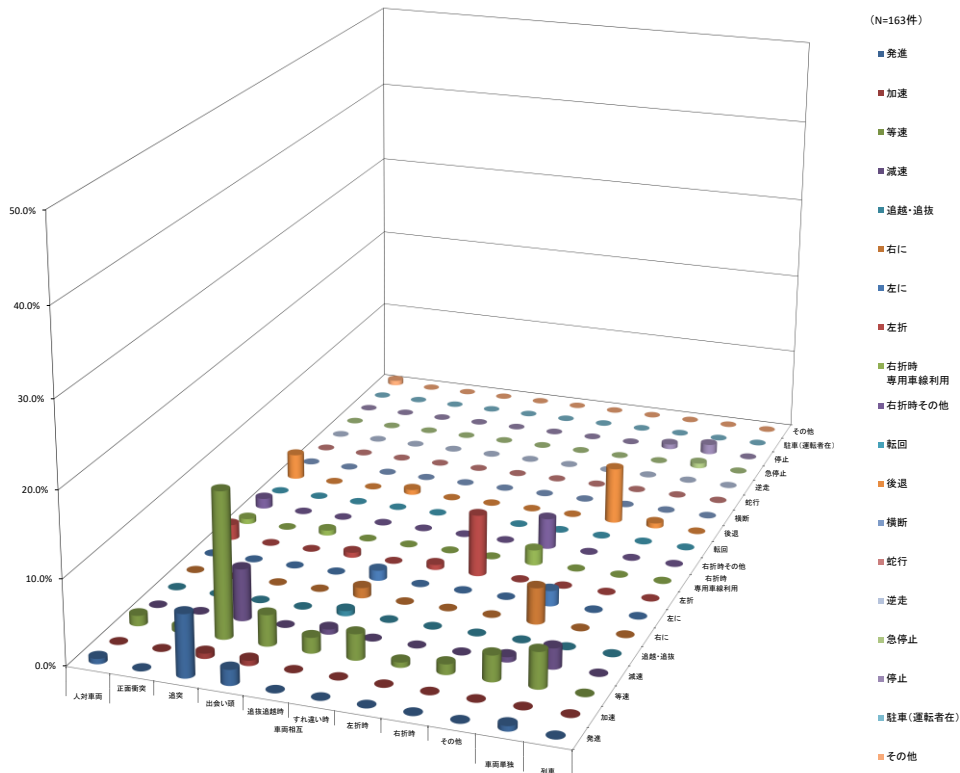
貸切バスの事故類型別、行動類型別交通事故件数と構成比をそれぞれ表46と図54に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表47と図55に示す。等速直進時の追突事故が最も多く28件（17.2%）となっている。

〔表 46〕 貸切バスの事故類型別、行動類型事故件数（件）（令和6年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
発進	1	0	12	3	0	0	0	0	0	1	0	17
直進	加速	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	等速	2	1	28	6	3	5	1	2	5	7	60
	減速	0	0	10	0	1	0	0	0	1	4	16
追越・追抜	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
進路変更	右に	0	0	0	0	2	0	0	0	7	0	9
	左に	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	5
左折	3	0	0	1	0	1	12	0	0	0	0	17
右折時	専用車線利用	1	0	1	0	0	0	0	3	0	0	5
	その他	2	0	0	0	0	0	0	6	0	0	8
転回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退	5	0	0	1	0	0	0	0	0	11	1	18
横断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
逆走	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
停止	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3
駐車(運転者在)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	15	1	52	12	9	6	13	11	28	16	0	163

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 54〕 貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比（%）（令和6年）



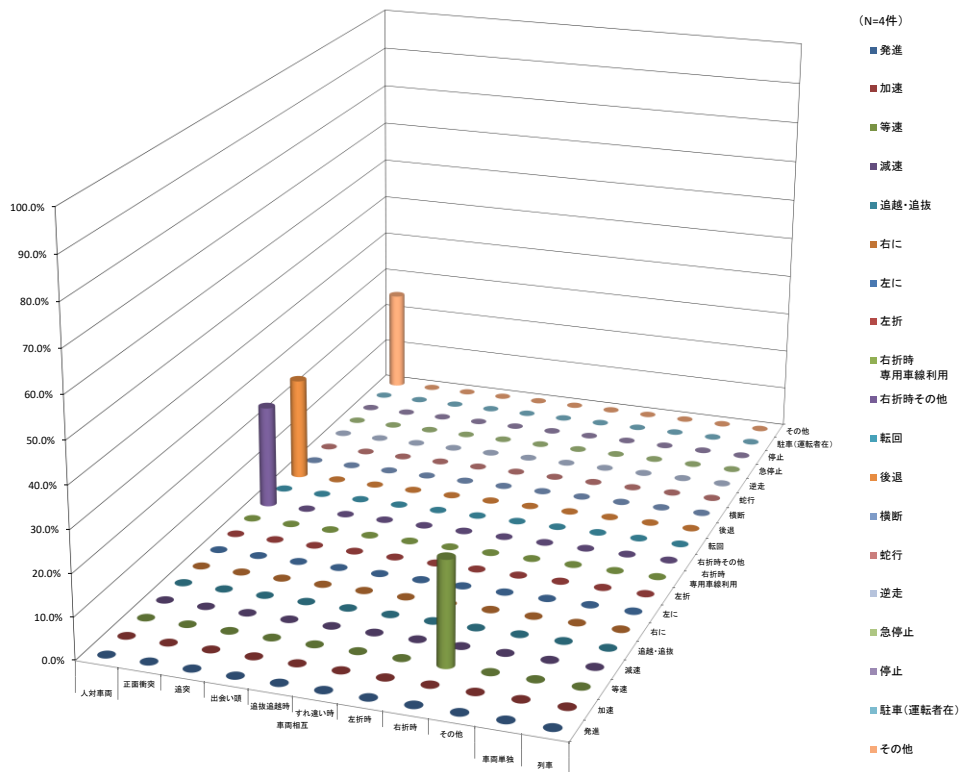
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 47〕 貸切バスの事故類型別、行動類型死亡事故件数（件）（令和 6 年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
発進	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直進	加速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	等速	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	減速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
追越・追抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
転回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
横断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
逆走	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 55〕 貸切バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（%）（令和 6 年）

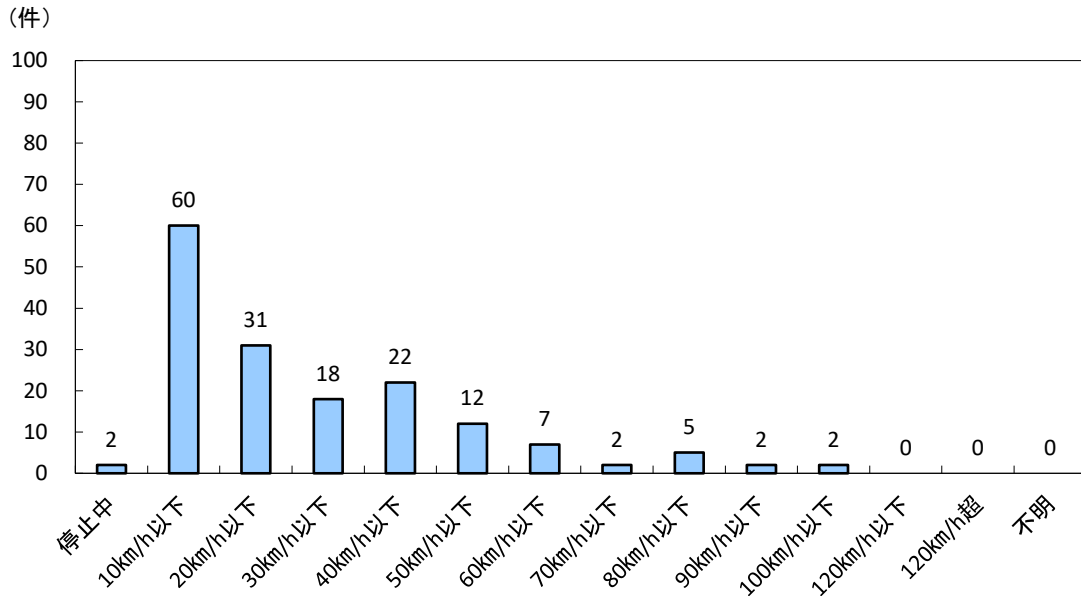


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 貸切バスの危険認知速度別の交通事故件数

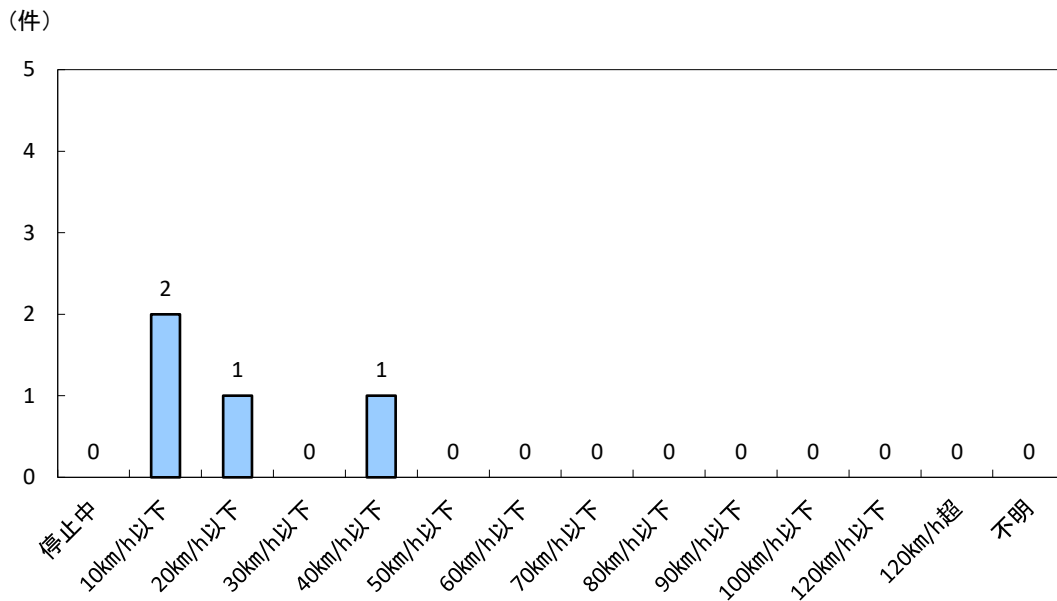
貸切バスの危険認知速度別の交通事故件数は、10km/h以下で60件と最も多く発生しており、次いで10km/h超～20km/h以下で31件発生している。また、交通死亡事故の4件は、10km/h以下で2件、10km/h超～20km/h以下で1件、30km/h超～40km/h以下で1件発生している。

〔図 56〕 貸切バスの危険認知速度別の交通事故件数（令和6年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 57〕 貸切バスの危険認知速度別の交通死亡事故件数（令和6年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) 貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

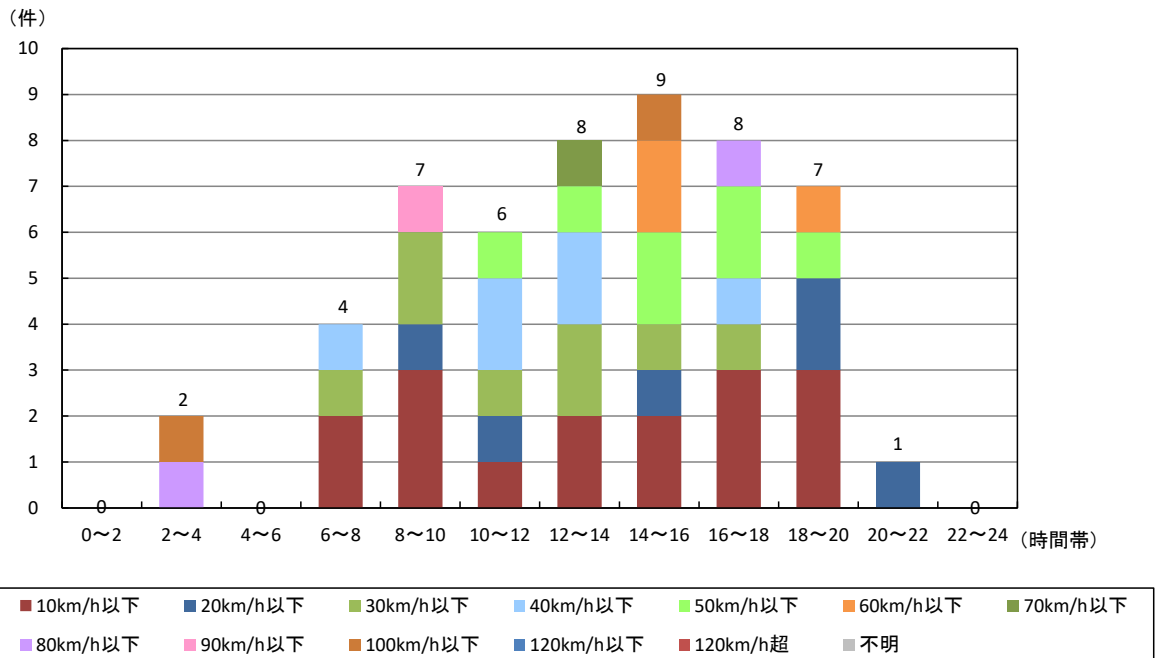
貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布をみると、危険認知速度は10km/h以下で最も多く16件発生しており、発生時間帯では14時～15時台の時間帯が最も多く9件発生している。

〔表 48〕 貸切バスの追突事故件数危険認知速度別発生時間帯分布 (件) (令和6年)

	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	0	0	0	2	3	1	2	2	3	3	0	0	16
20km/h以下	0	0	0	0	1	1	0	1	0	2	1	0	6
30km/h以下	0	0	0	1	2	1	2	1	1	0	0	0	8
40km/h以下	0	0	0	1	0	2	2	0	1	0	0	0	6
50km/h以下	0	0	0	0	0	1	1	2	2	1	0	0	7
60km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
70km/h以下	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
80km/h以下	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
90km/h以下	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
100km/h以下	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	2	0	4	7	6	8	9	8	7	1	0	52

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 58〕 貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (件) (令和6年)



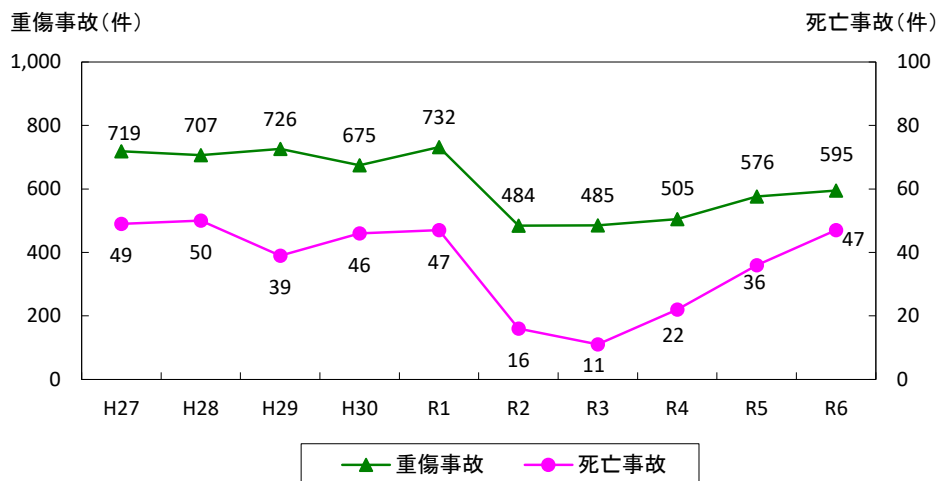
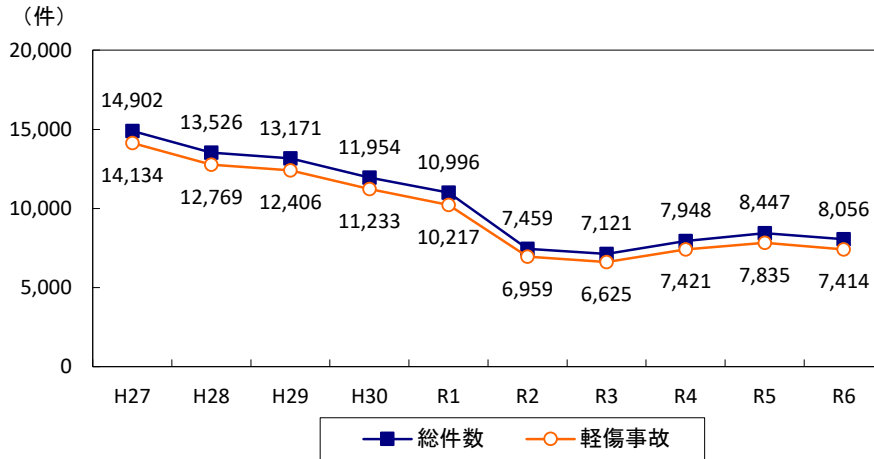
出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

3. タクシーの交通事故

(1) タクシーの交通事故件数、交通死傷事故件数の推移

タクシーの交通事故件数については、近年横ばいとなっており、令和6年は前年と比べて総件数、軽傷事故件数は減少し、重傷事故件数、死亡事故件数は増加した。

〔図 59〕 タクシーの交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 49〕 タクシーの交通事故件数の推移（件）

年	区分	総件数	軽傷事故	重傷事故	死亡事故
H27		14,902	14,134	719	49
H28		13,526	12,769	707	50
H29		13,171	12,406	726	39
H30		11,954	11,233	675	46
R1		10,996	10,217	732	47
R2		7,459	6,959	484	16
R3		7,121	6,625	485	11
R4		7,948	7,421	505	22
R5		8,447	7,835	576	36
R6		8,056	7,414	595	47

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) タクシー事故のうち、同乗者の死傷事故件数

運転者が第1当事者となったタクシー事故の業態別の同乗者の死傷事故件数は、以下の通りであった。

〔表 50〕 タクシー事故のうち、同乗者の死傷事故件数（件）（令和6年）

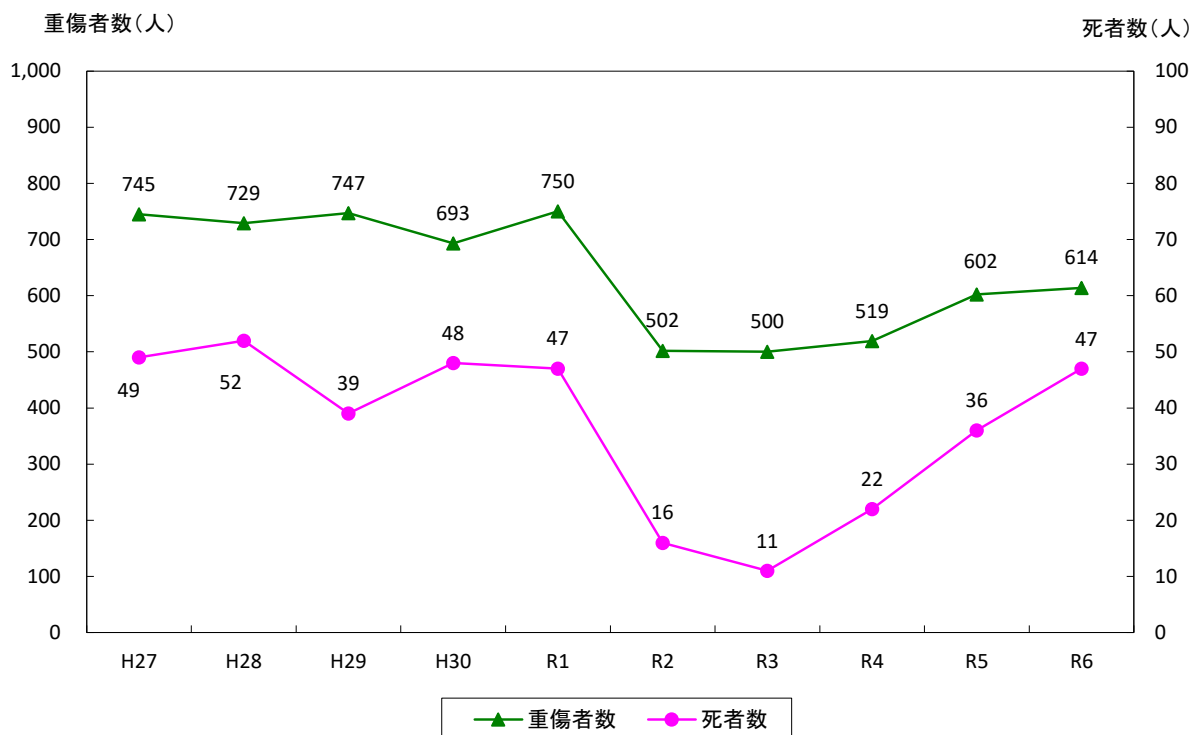
	死亡	重傷	軽傷	合計
法人	2	47	856	905
個人	1	5	33	39
その他乗用	0	0	3	3
計	3	52	892	947

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) タクシー事故の死傷者数の推移

タクシー事故による重傷者数、死者数は近年は増加傾向となっており、令和6年は前年と比べて重傷者数は12人、死者数は11人増加した。

〔図 60〕 タクシー事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 51〕 タクシーの事故の死傷者数の推移（人）

年	区分	死傷者合計	軽傷者数	重傷者数	死者数
H27		17,416	16,622	745	49
H28		15,893	15,112	729	52
H29		15,379	14,593	747	39
H30		14,031	13,290	693	48
R1		12,813	12,016	750	47
R2		8,586	8,068	502	16
R3		8,167	7,656	500	11
R4		9,124	8,583	519	22
R5		9,770	9,132	602	36
R6		9,285	8,624	614	47

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) タクシー事故のうち、同乗者の死傷者数

運転者が第1当事者となったタクシー事故の業態別の同乗者の死傷者数は、以下の通りであった。

[表 52] タクシー事故のうち、同乗者の死傷者数（人）（令和6年）

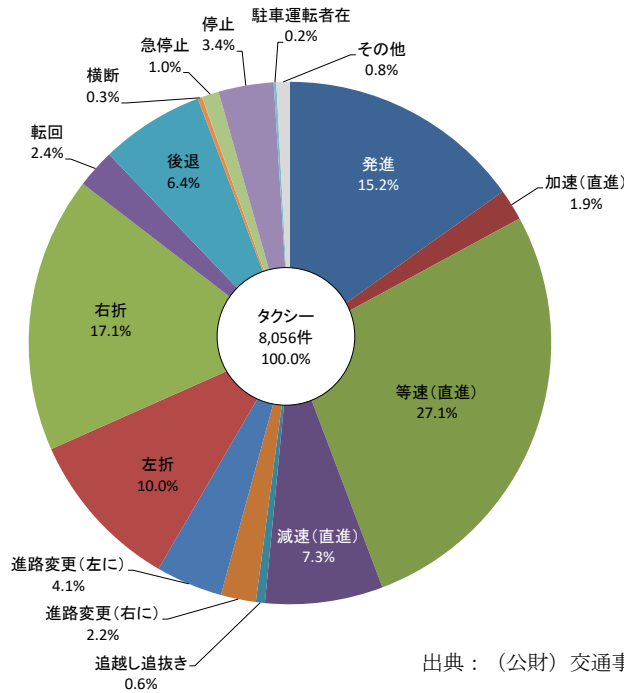
	死亡	重傷	軽傷	合計
法人	2	53	1,063	1,118
個人	1	5	38	44
その他乗用	0	0	3	3
計	3	58	1,104	1,165

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) タクシーの行動類型別交通事故件数の割合

タクシーの交通事故をタクシーの動きで類型化すると、等速（直進）時、右折時と発進時が多く、合計で約59%を占めている。

〔図 61〕 タクシーの行動類型別交通事故件数の割合（令和6年）



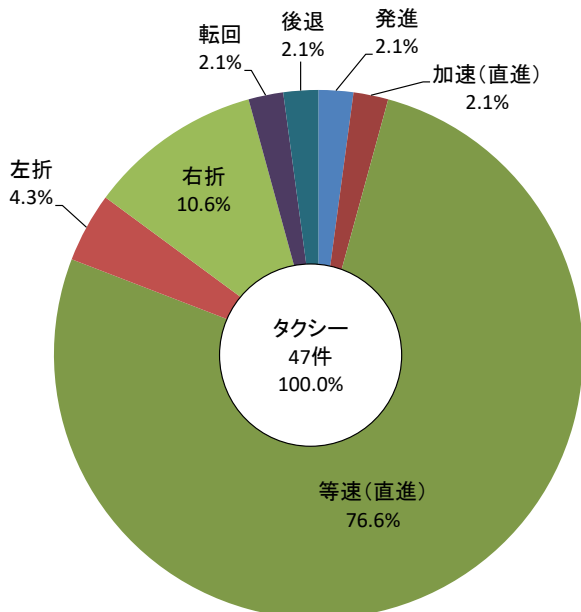
行動類型	件数	割合
発進	1,221 件	15.2%
加速(直進)	156 件	1.9%
等速(直進)	2,187 件	27.1%
減速(直進)	587 件	7.3%
追越し追抜き	45 件	0.6%
進路変更(右に)	175 件	2.2%
進路変更(左に)	333 件	4.1%
左折	802 件	10.0%
右折	1,377 件	17.1%
転回	193 件	2.4%
後退	518 件	6.4%
横断	21 件	0.3%
蛇行	1 件	0.0%
逆走	1 件	0.0%
急停止	84 件	1.0%
停止	275 件	3.4%
駐車運転者在	13 件	0.2%
その他	67 件	0.8%

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) タクシーの行動類型別交通死亡事故件数の割合

タクシーの交通死亡事故をタクシーの動きで類型化すると、等速（直進）時が多く、約77%を占めている。

〔図 62〕 タクシーの行動類型別交通死亡事故件数の割合（令和6年）



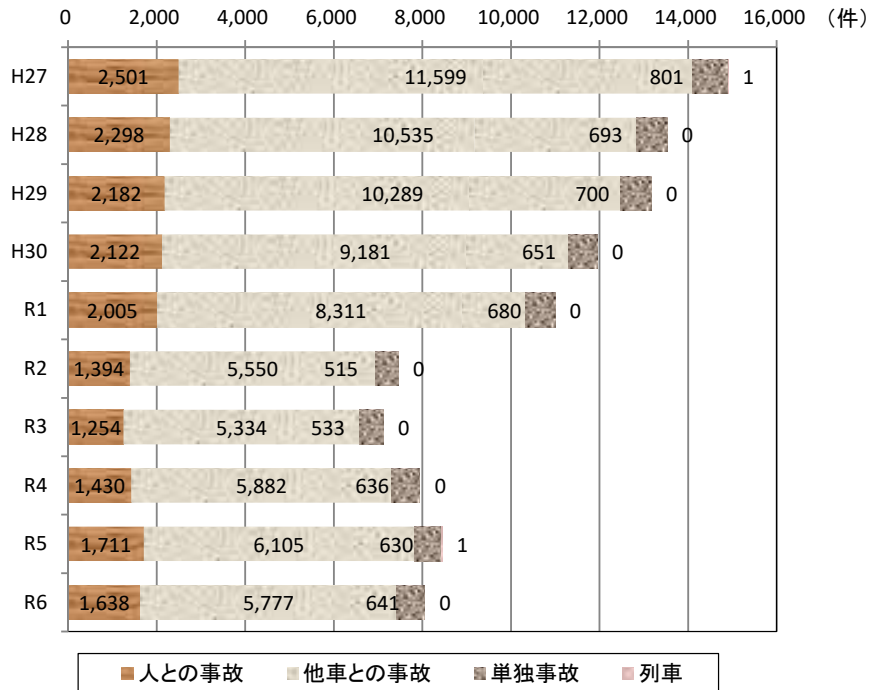
行動類型	件数	割合
発進	1 件	2.1%
加速(直進)	1 件	2.1%
等速(直進)	36 件	76.6%
減速(直進)	0 件	0.0%
追越し追抜き	0 件	0.0%
進路変更(右に)	0 件	0.0%
進路変更(左に)	0 件	0.0%
左折	2 件	4.3%
右折	5 件	10.6%
転回	1 件	2.1%
後退	1 件	2.1%
横断	0 件	0.0%
蛇行	0 件	0.0%
逆走	0 件	0.0%
急停止	0 件	0.0%
停止	0 件	0.0%
駐車運転者在	0 件	0.0%
その他	0 件	0.0%

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) タクシーの事故類型別交通事故件数の推移

タクシーの交通事故を事故の種類で類型化すると、他車との事故が最も多く5,777件となっており、約72%を占めている。他車との事故のうち、追突事故が最も多く、次いで出会い頭衝突となっている。

〔図 63〕 タクシーの事故類型別交通事故件数の推移



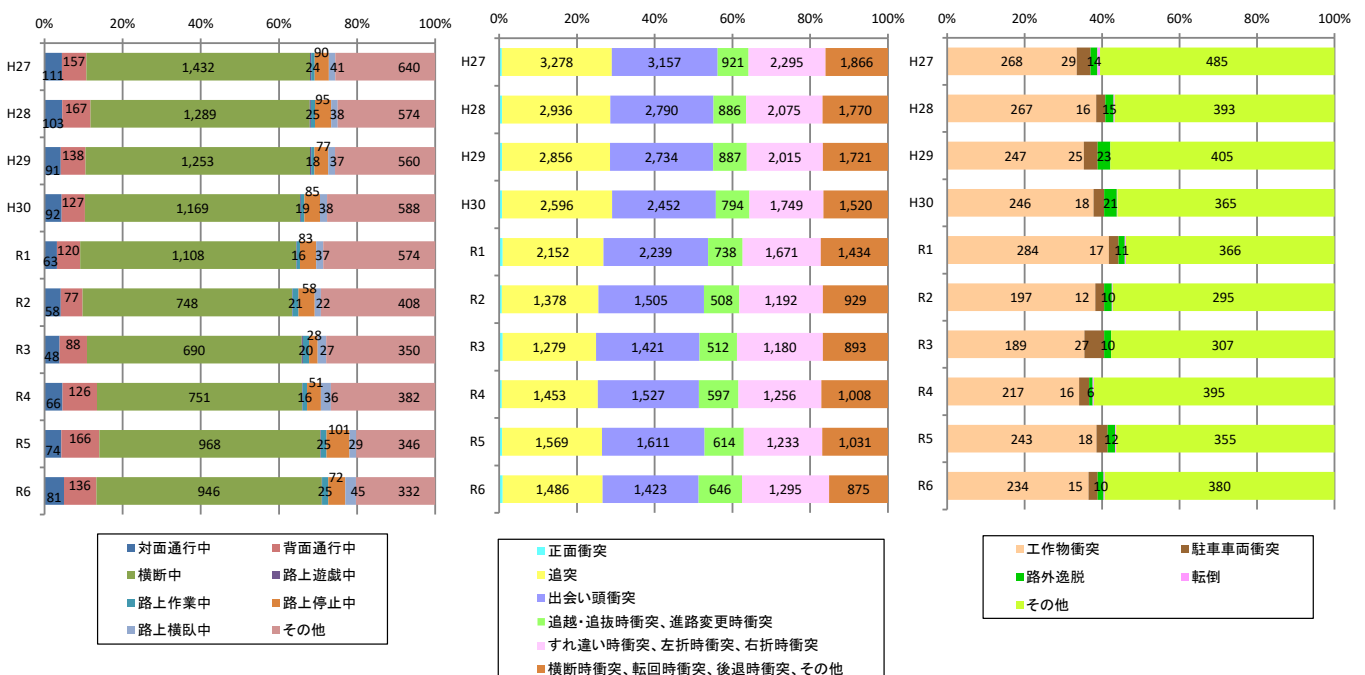
出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 64〕 タクシーの事故類型別交通事故件数の内訳の推移

<人の事故>

<他車との事故>

<単独事故>

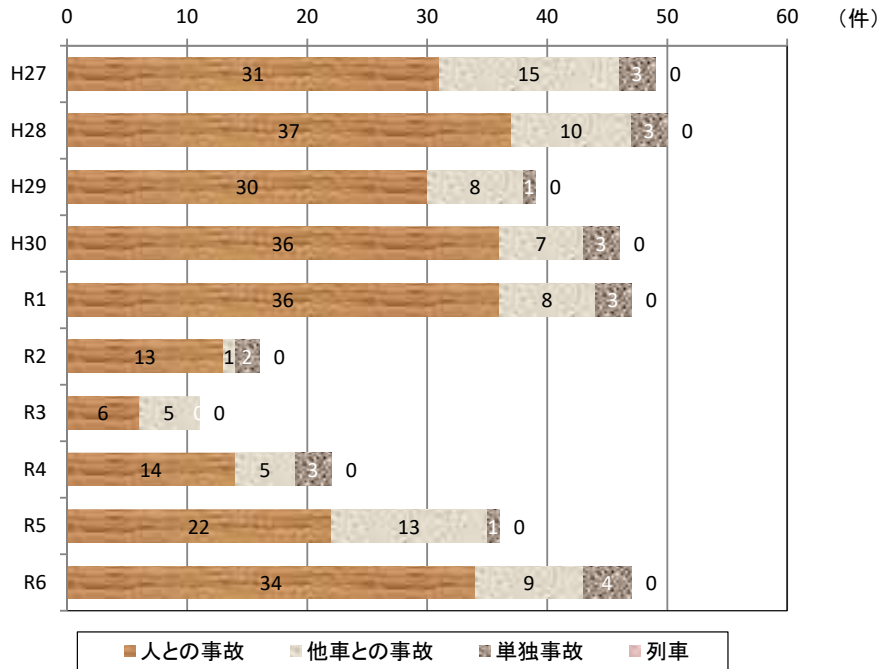


出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) タクシーの事故類型別交通死亡事故件数の推移

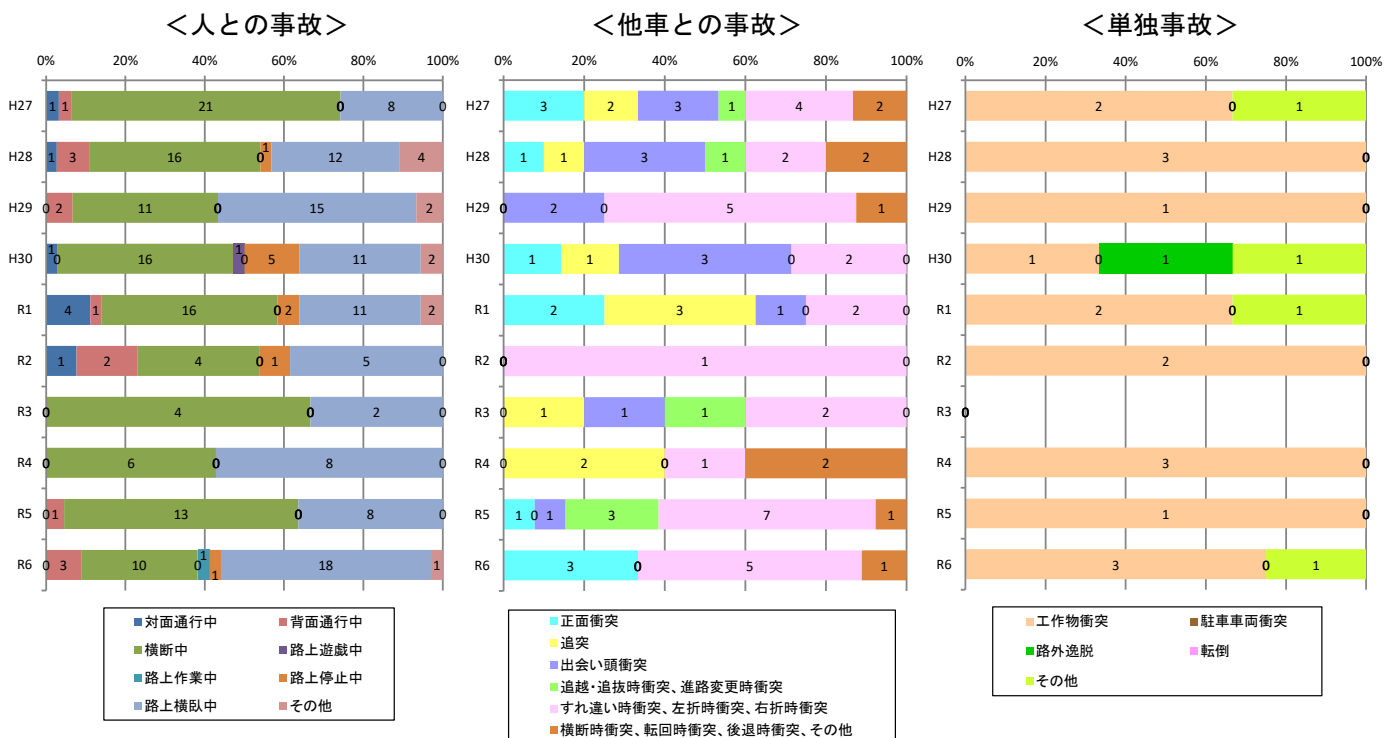
タクシーの交通死亡事故を事故の種類で類型化すると、人との事故が34件、他車との事故が9件となっている。人との事故のうち、路上横臥中の事故が18件で最も多い。

〔図 65〕 タクシーの事故類型別交通死亡事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 66〕 タクシーの事故類型別交通死亡事故件数の内訳の推移

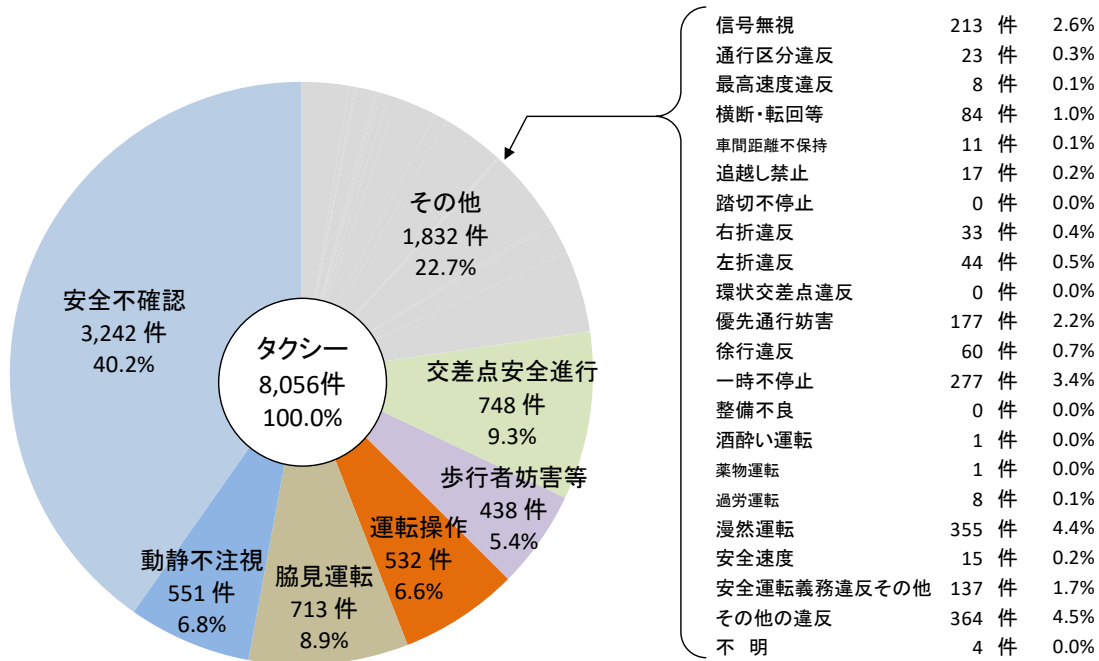


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) タクシーの法令違反別の交通事故件数の割合

タクシーの交通事故の法令違反別では、「安全不確認」3,242件（40.2%）が最も多く、次いで「交差点安全進行」748件（9.3%）、「脇見運転」713件（8.9%）となっている。

〔図 67〕 タクシーの法令違反別事故件数の割合（令和6年）

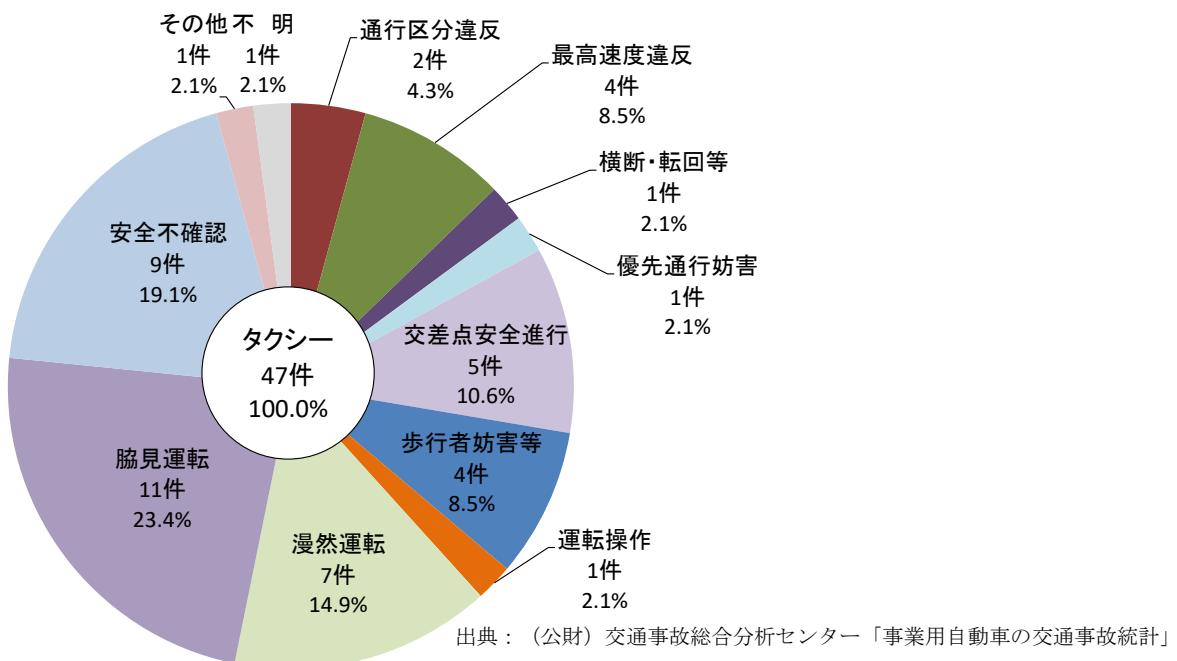


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) タクシーの法令違反別の交通死亡事故件数の割合

タクシーの交通死亡事故の法令違反別では、「脇見運転」11件（23.4%）が最も多く、次いで「安全不確認」9件（19.1%）、「漫然運転」7件（14.9%）となっている。

〔図 68〕 タクシーの法令違反別死亡事故件数の割合（令和6年）

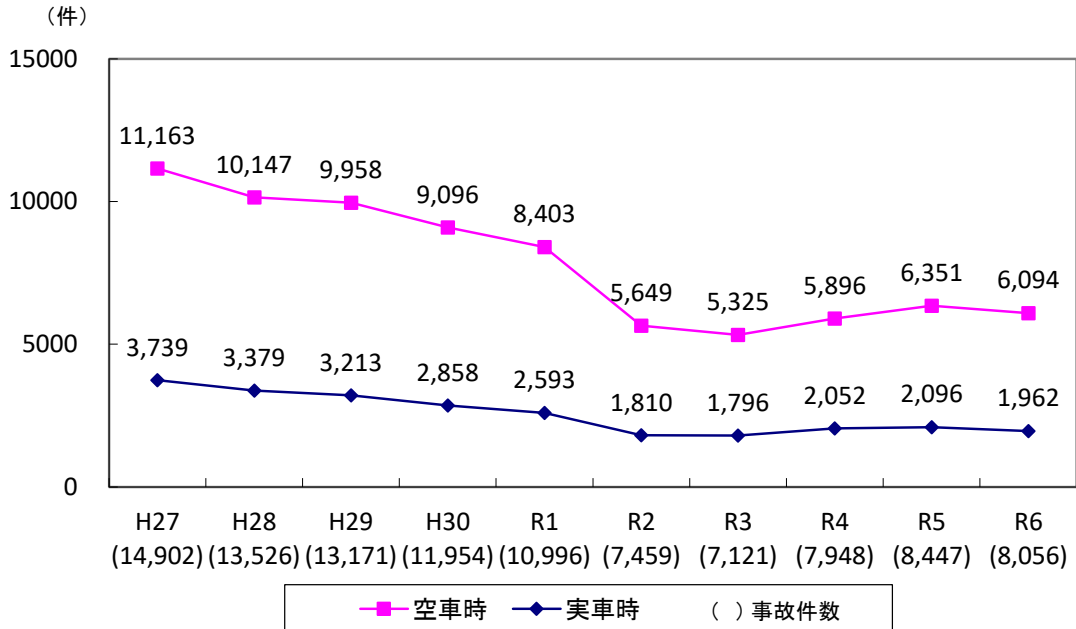


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) タクシーの交通事故件数（空車時、実車時）

タクシーの交通事故件数（空車時、実車時）は、空車時が実車時と比べて多く発生している。令和6年は前年と比べて空車時、実車時ともに減少している。

〔図 69〕 タクシーの事故件数（空車時、実車時）の推移



※ () 内の数字は空車時と実車時を合わせた事故件数, 単位は件

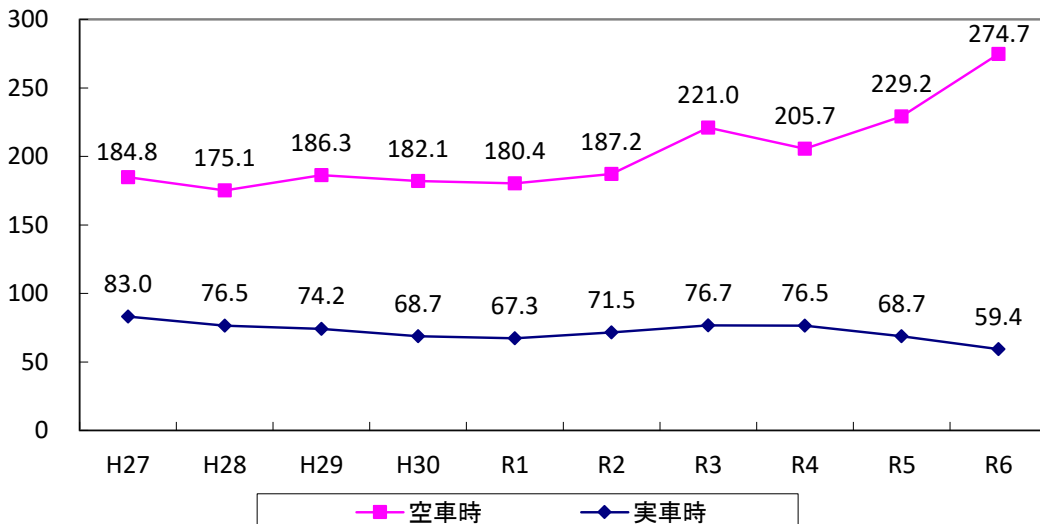
出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) タクシーの走行距離1億キロあたりの交通事故件数（空車時、実車時）

タクシーの走行距離1億キロあたりの交通事故件数（空車時、実車時）は、空車時が実車時と比べて多く発生している。令和6年は前年と比べて空車時は増加したが、実車時は減少している。

〔図 70〕 タクシーの走行距離1億キロあたりの交通事故件数の推移

(空車時事故件数/億km)
(実車時事故件数/億km)



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」

(13) タクシーの事故類型別、衝突地点別交通事故件数

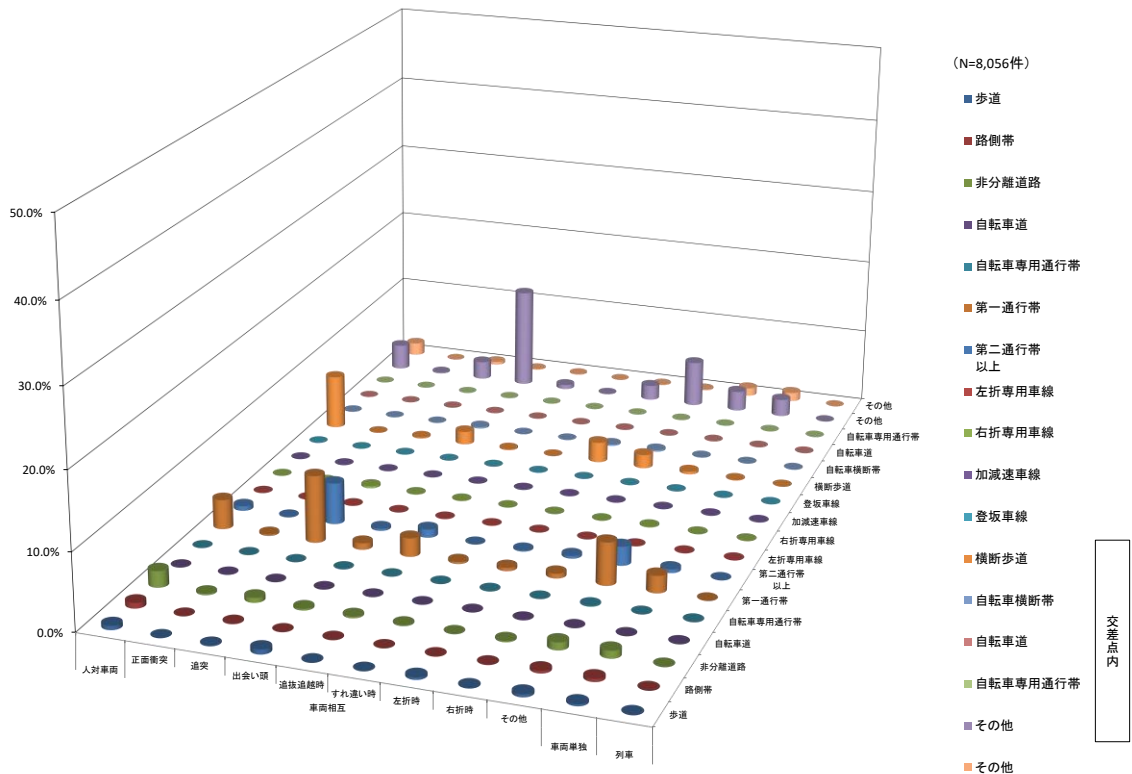
タクシーの事故類型別、衝突地点別交通事故件数と構成比をそれぞれ表53と図71に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表54と図72に示す。交通事故件数については、交差点内（その他）での出会い頭事故が最も多く1,086件（13.5%）、交通死亡事故件数については、第一通行帯での人対車両事故が最も多く13件（27.7%）となっている。

〔表 53〕 タクシーの事故類型別、衝突地点別交通事故件数（件）（令和6年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路（交差点付近を含む）	歩道	44	0	5	50	2	0	24	6	29	19	0	179
	路側帯	58	0	6	0	3	0	1	2	26	31	0	127
	非分離道路	172	15	51	18	17	10	1	12	80	79	0	455
	自転車道	1	0	1	1	2	0	0	0	2	0	0	7
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	1	0	2	0	8	0	0	11
	第一通行帯	313	17	710	69	196	22	35	50	450	181	0	2,043
	第二通行帯以上	50	5	439	24	88	2	12	29	201	39	0	889
	左折専用車線	0	0	4	0	0	0	1	0	1	0	0	6
	右折専用車線	0	1	22	4	3	0	0	0	6	2	0	38
	加減速車線	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	登坂車線	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	3
	交差点内	横断歩道	580	1	13	143	10	0	219	148	29	5	0
自転車横断帯		3	0	0	17	0	0	14	17	3	0	0	54
自転車道		0	0	1	1	0	0	2	1	2	0	0	7
自転車専用通行帯		0	0	0	3	0	0	0	2	0	0	0	5
その他		277	12	199	1,086	47	5	163	497	219	189	0	2,694
その他	140	1	33	7	8	0	6	10	87	96	0	388	
合計	1,638	52	1,486	1,423	377	39	480	776	1,144	641	0	8,056	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 71〕 タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比（%）（令和6年）



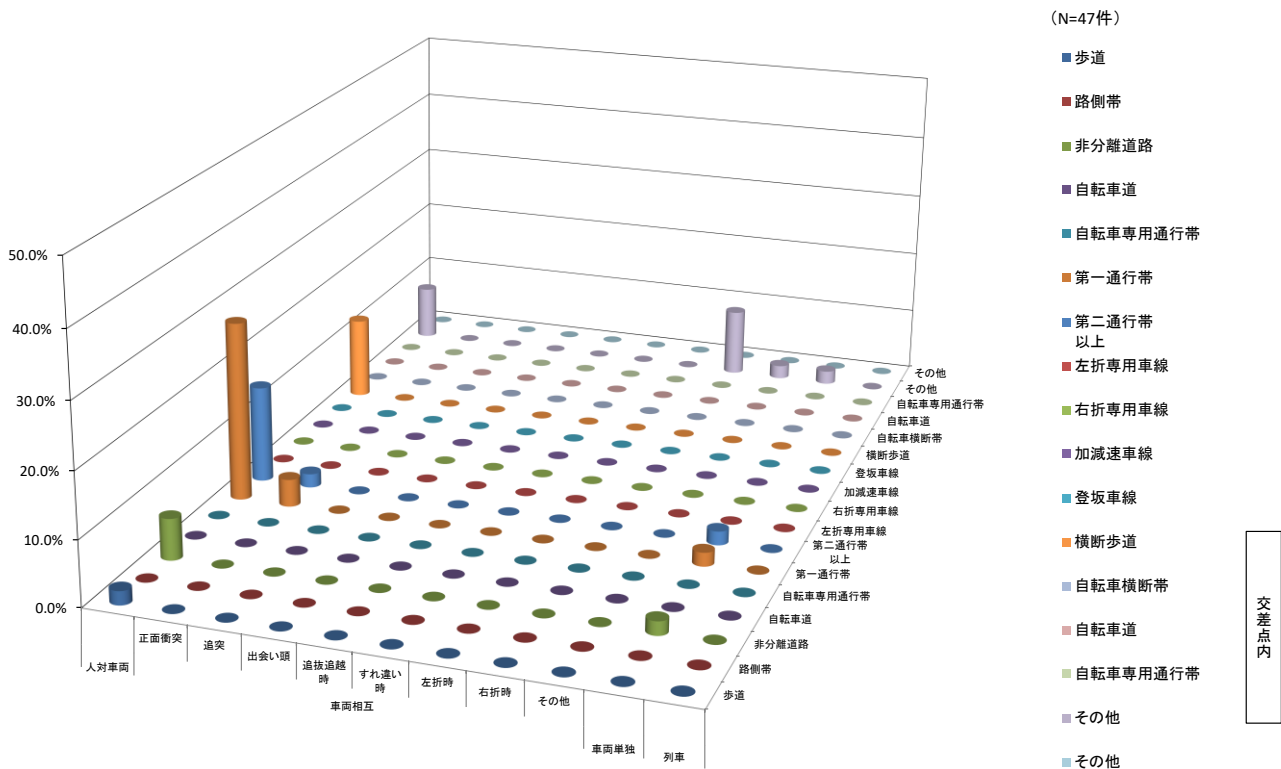
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 54] タクシーの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数（件）（令和6年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路（交差点付近を含む）	歩道	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非分離道路	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	13	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	16
	第二通行帯以上	7	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	9
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交差点内	横断歩道	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車横断帯		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車道		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車専用通行帯		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		4	0	0	0	0	0	0	5	1	1	0	11
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	34	3	0	0	0	0	0	5	1	4	0	47	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 72] タクシーの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数の構成比（%）（令和6年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(14) タクシーの事故類型別、行動類型別交通事故件数

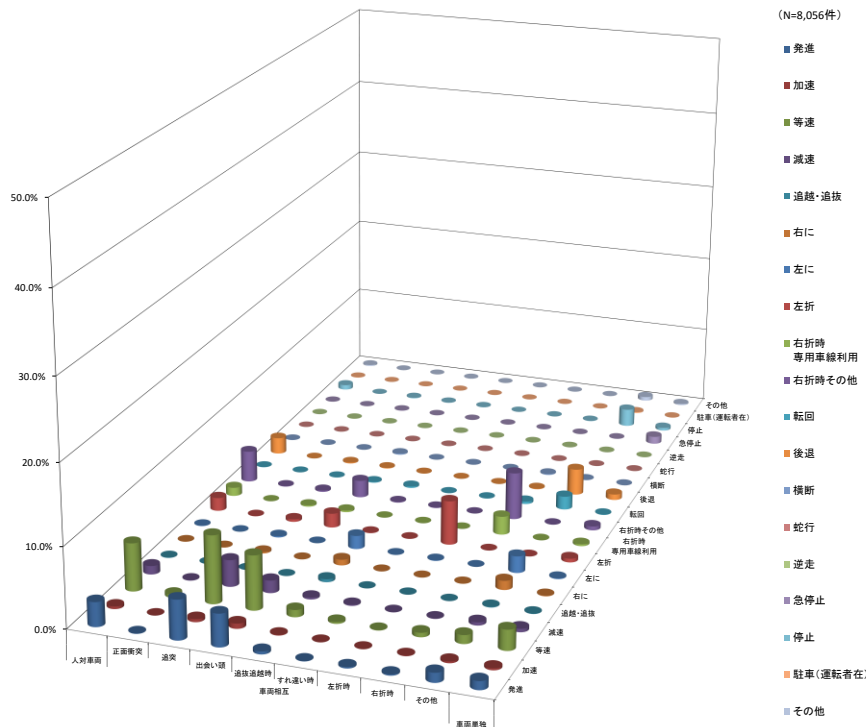
タクシーの事故類型別、行動類型別交通事故件数と構成比をそれぞれ表55と図73に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表56と図74に示す。交通事故件数については、等速直進時の追突事故が最も多く686件（8.5%）、交通死亡事故件数については、等速直進時の人対車両事故が最も多く29件（61.7%）となっている。

〔表 55〕 タクシーの事故類型別、行動類型別交通事故件数（件）（令和6年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
発進	247	3	400	329	29	3	14	12	97	87	0	1,221	
直進	加速	26	0	30	52	6	1	1	4	17	19	0	156
	等速	485	34	686	549	72	18	4	44	88	207	0	2,187
	減速	86	4	270	127	19	10	2	3	32	34	0	587
	追越・追抜	4	1	1	0	30	0	0	0	6	3	0	45
進路変更	右に	1	2	14	1	58	0	0	1	93	5	0	175
	左に	3	0	12	0	136	1	4	0	170	7	0	333
左折	136	2	26	145	3	1	451	0	0	38	0	802	
右折時	専用車線利用	87	0	13	16	0	0	0	187	0	19	0	322
	その他	324	5	14	177	6	4	0	484	0	41	0	1,055
転回	2	0	2	7	15	1	2	25	136	3	0	193	
後退	170	0	9	6	1	0	0	5	269	58	0	518	
横断	1	0	0	10	0	0	1	8	1	0	0	21	
蛇行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
逆走	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
急停止	1	0	3	1	0	0	0	0	2	77	0	84	
停止	51	0	6	2	2	0	0	2	183	29	0	275	
駐車(運転者在)	3	0	0	0	0	0	0	0	9	1	0	13	
その他	11	0	0	1	0	0	1	1	41	12	0	67	
合計	1,638	52	1,486	1,423	377	39	480	776	1,144	641	0	8,056	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 73〕 タクシーの事故類型別、行動類型別交通事故件数の構成比（%）（令和6年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(15) 管轄運輸支局別のタクシーの出会い頭事故件数

〔表 57〕 タクシーの運輸支局別、出会い頭事故件数（件）（令和6年）

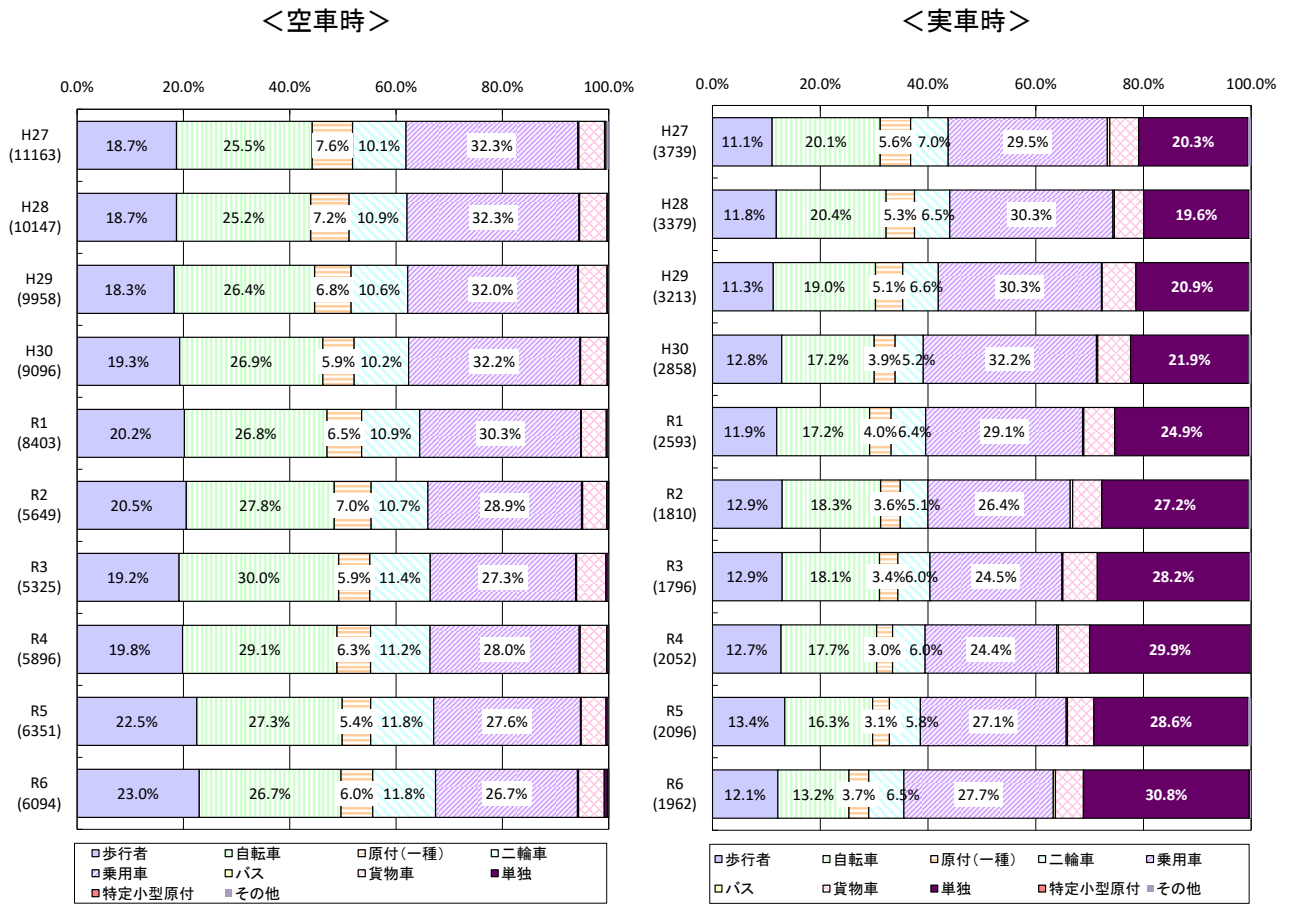
運輸支局等		法人	個人	特定 (その他乗用)	合計
北海道	札幌	69	2	0	71
	函館	6	0	0	6
	室蘭	2	0	0	2
	帯広	2	0	0	2
	釧路	4	0	0	4
	北見	1	0	0	1
	旭川	8	0	0	8
	小計	92	2	0	94
東北	宮城	10	1	0	11
	福島	5	0	0	5
	岩手	3	1	1	5
	青森	11	0	0	11
	山形	2	0	0	2
	秋田	4	0	0	4
	小計	35	2	1	38
北陸信越	新潟	11	1	0	12
	長野	10	0	0	10
	石川	2	0	0	2
	富山	1	0	1	2
	小計	24	1	1	26
関東	東京	330	25	1	356
	神奈川	48	5	0	53
	千葉	43	3	0	46
	埼玉	68	1	1	70
	茨城	7	0	1	8
	群馬	8	0	0	8
	栃木	4	0	1	5
	山梨	4	0	1	5
	小計	512	34	5	551
中部	愛知	74	5	6	85
	静岡	41	2	2	45
	岐阜	2	0	0	2
	三重	6	0	0	6
	福井	1	0	0	1
	小計	124	7	8	139
近畿	大阪	205	19	4	228
	京都	27	2	0	29
	兵庫	57	4	1	62
	滋賀	6	0	1	7
	奈良	4	0	1	5
	和歌山	3	0	0	3
	小計	302	25	7	334
中国	広島	18	2	0	20
	鳥取	0	0	0	0
	島根	2	0	0	2
	岡山	13	1	1	15
	山口	5	0	0	5
	小計	38	3	1	42
四国	香川	9	0	0	9
	徳島	3	0	0	3
	愛媛	11	0	0	11
	高知	2	0	0	2
	小計	25	0	0	25
九州	福岡	96	8	0	104
	佐賀	3	0	0	3
	長崎	9	0	0	9
	熊本	8	2	0	10
	大分	4	0	0	4
	宮崎	6	0	0	6
	小計	136	10	0	146
沖縄	14	2	0	16	
不明	11	0	1	12	
合計	1,313	86	24	1,423	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(16) タクシーの事故の相手方の割合の推移（空車時、実車時）

タクシーの交通事故のうち、実車時に多く見られる単独の事故は、空車時にはほぼ見られない。また、実車時の単独の事故の割合が緩やかに増加傾向となっている。

〔図 75〕 タクシーの事故の相手方の割合の推移



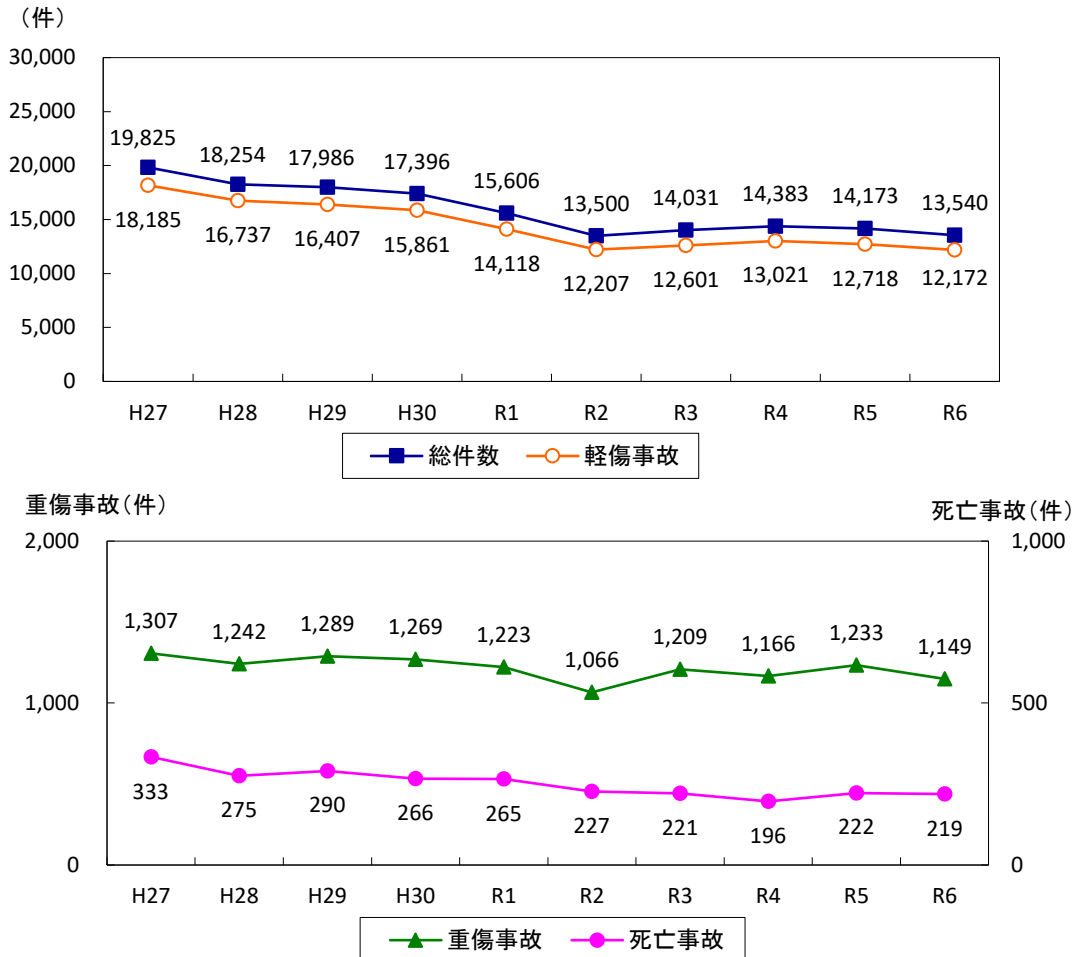
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

4. トラックの交通事故

(1) トラックの交通事故件数、交通死傷事故件数の推移

トラックの交通事故件数について、総件数、軽傷事故件数は近年横ばいとなっており、令和6年は前年に比べて減少した。重傷事故件数と交通死亡事故件数も令和6年は前年と比べて減少した。

〔図 76〕 トラックの交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 58〕 トラックの交通事故件数の推移（件）

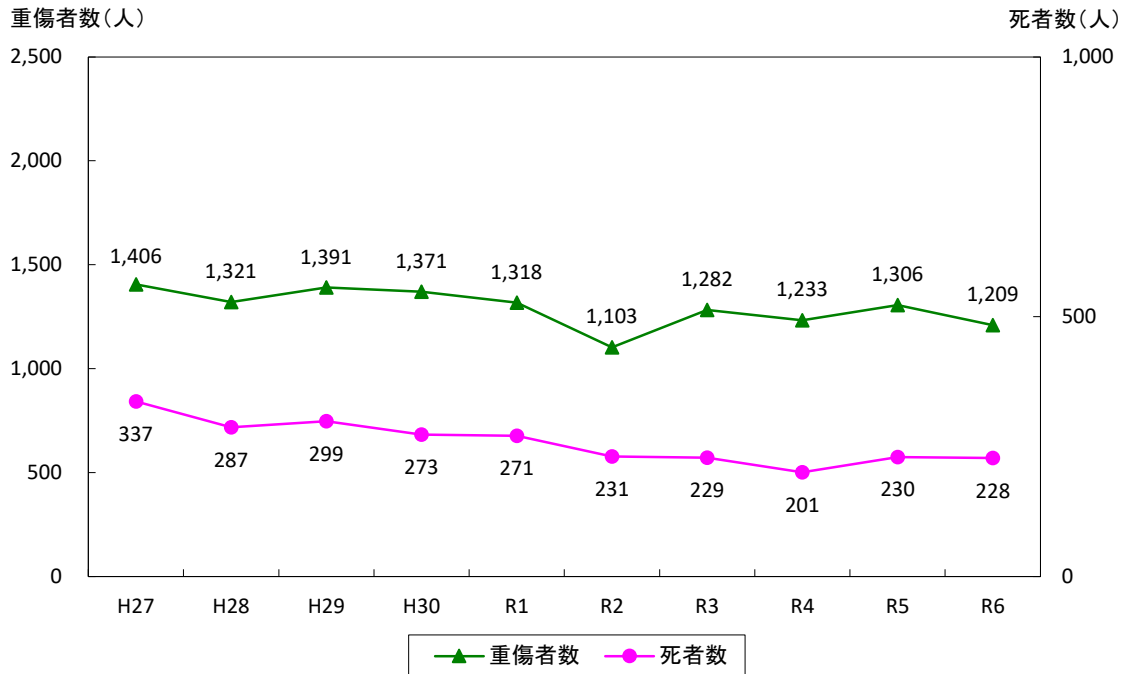
区分 年	総件数	軽傷事故	重傷事故	死亡事故
H27	19,825	18,185	1,307	333
H28	18,254	16,737	1,242	275
H29	17,986	16,407	1,289	290
H30	17,396	15,861	1,269	266
R1	15,606	14,118	1,223	265
R2	13,500	12,207	1,066	227
R3	14,031	12,601	1,209	221
R4	14,383	13,021	1,166	196
R5	14,173	12,718	1,233	222
R6	13,540	12,172	1,149	219

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) トラック事故の死傷者数の推移

トラック事故による重傷者数、死者数は近年横ばいとなっており、令和6年は前年と比べて重傷者数、死者数ともに減少した。

〔図 77〕 トラック事故の死傷者数の推移



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 59〕 トラック事故の死傷者数の推移 (人)

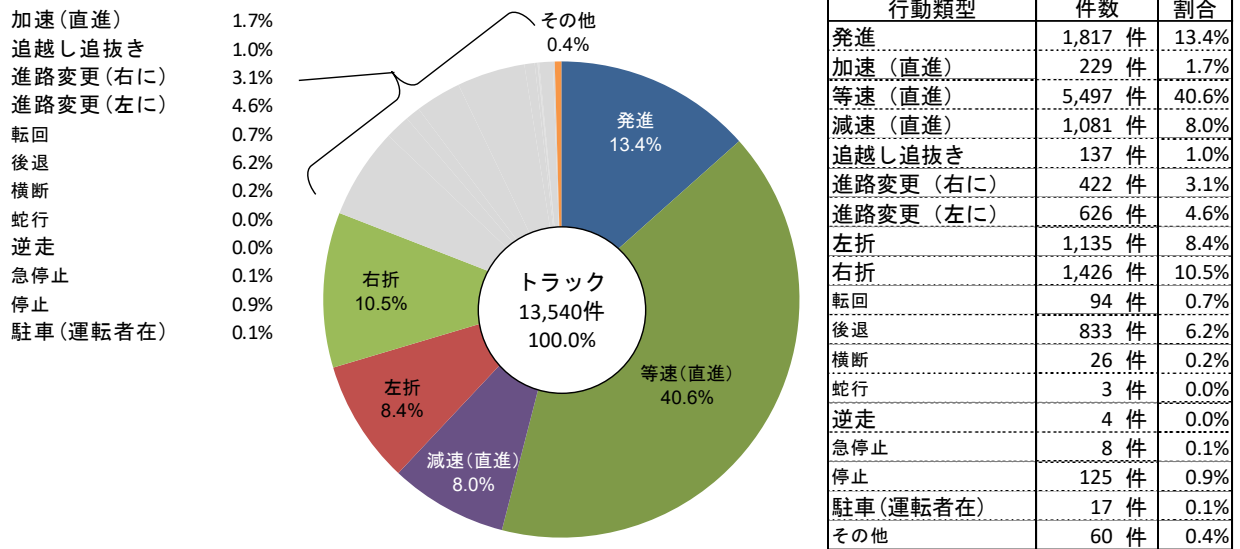
年 \ 区分	死傷者合計	軽傷者数	重傷者数	死者数
H27	25,996	24,253	1,406	337
H28	23,689	22,081	1,321	287
H29	23,218	21,528	1,391	299
H30	22,364	20,720	1,371	273
R1	19,928	18,339	1,318	271
R2	16,765	15,431	1,103	231
R3	17,293	15,782	1,282	229
R4	17,823	16,389	1,233	201
R5	17,713	16,177	1,306	230
R6	16,641	15,204	1,209	228

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) トラックの行動類型別交通事故件数の割合

トラックの交通事故をトラックの動きで類型化すると、等速（直進）時が最も多く5,497件となっており、40%を超えている。

〔図 78〕 トラックの行動類型別交通事故件数の割合（令和6年）

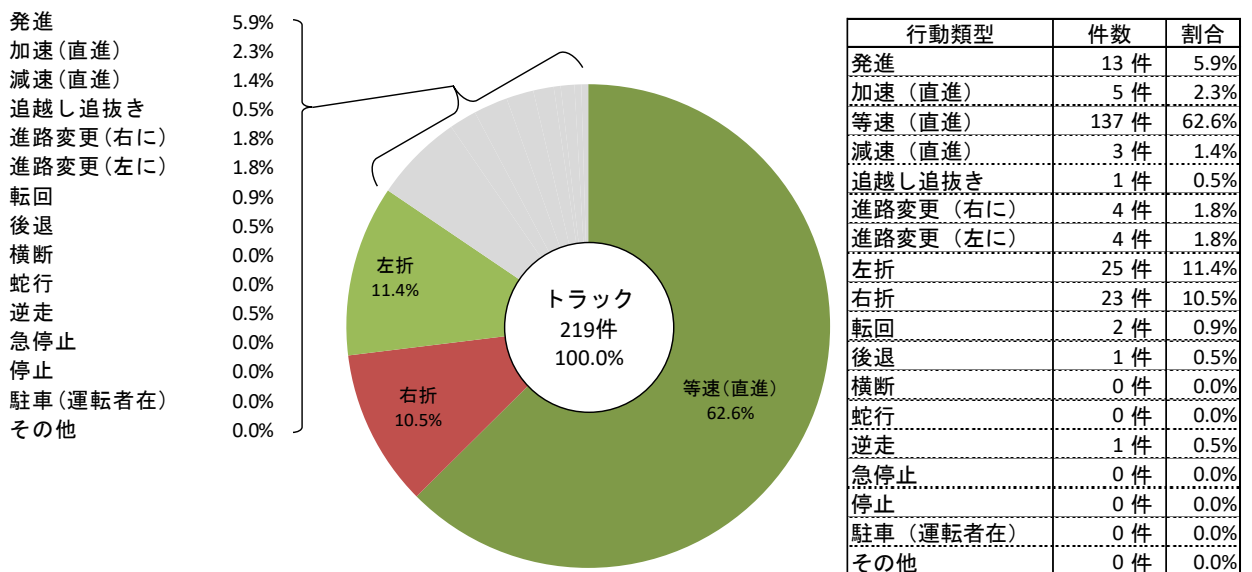


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) トラックの行動類型別交通死亡事故件数の割合

トラックの交通死亡事故をトラックの動きで類型化すると、等速（直進）時が最も多く137件となっており、約63%となっている。

〔図 79〕 トラックの行動類型別交通死亡事故件数の割合（令和6年）

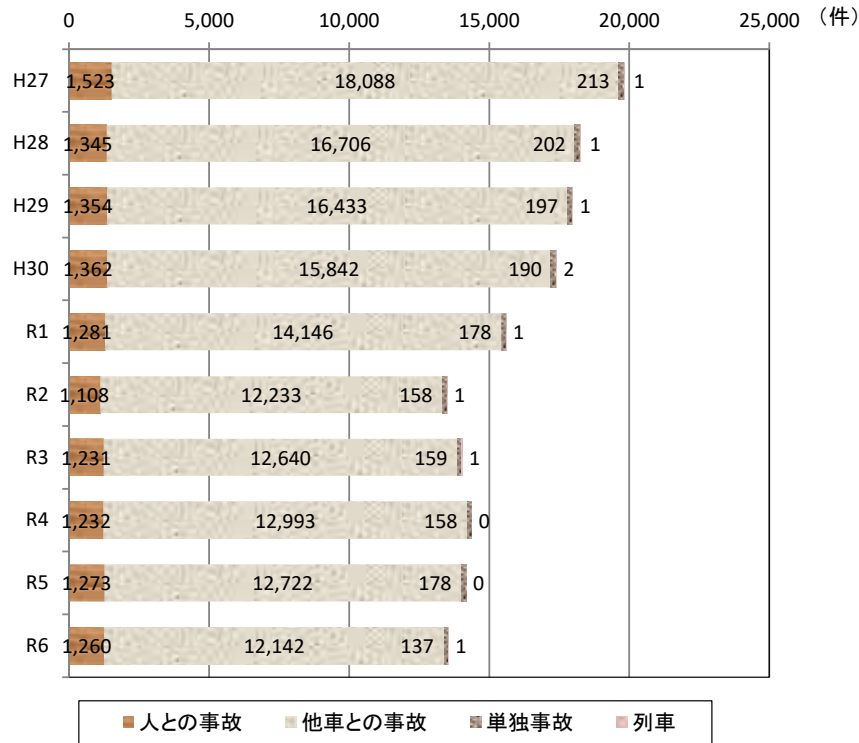


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) トラックの事故類型別交通事故件数の推移

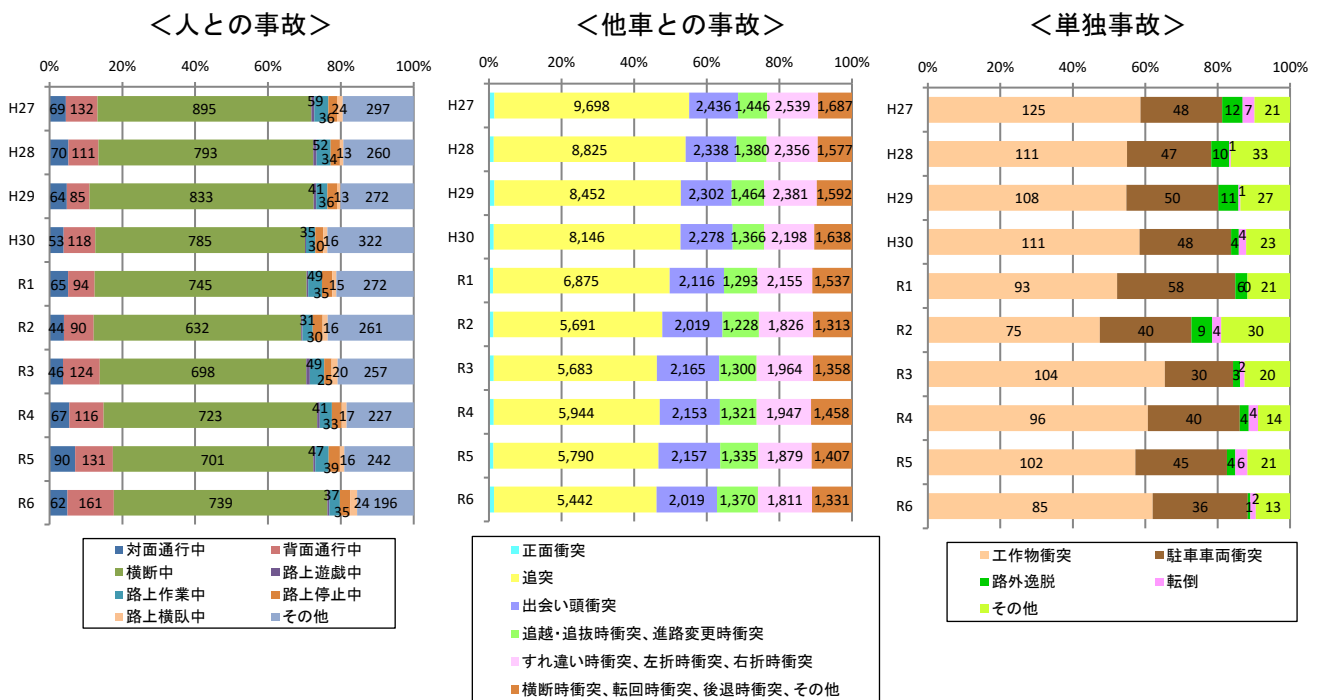
トラックの交通事故を事故の種類で類型化すると、他車との事故が最も多く12,142件となっており、約90%を占めている。また、他車との事故のうち約45%が追突事故となっている。

〔図 80〕 トラックの事故類型別交通事故件数の推移



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 81〕 トラックの事故類型別交通事故件数の内訳の推移

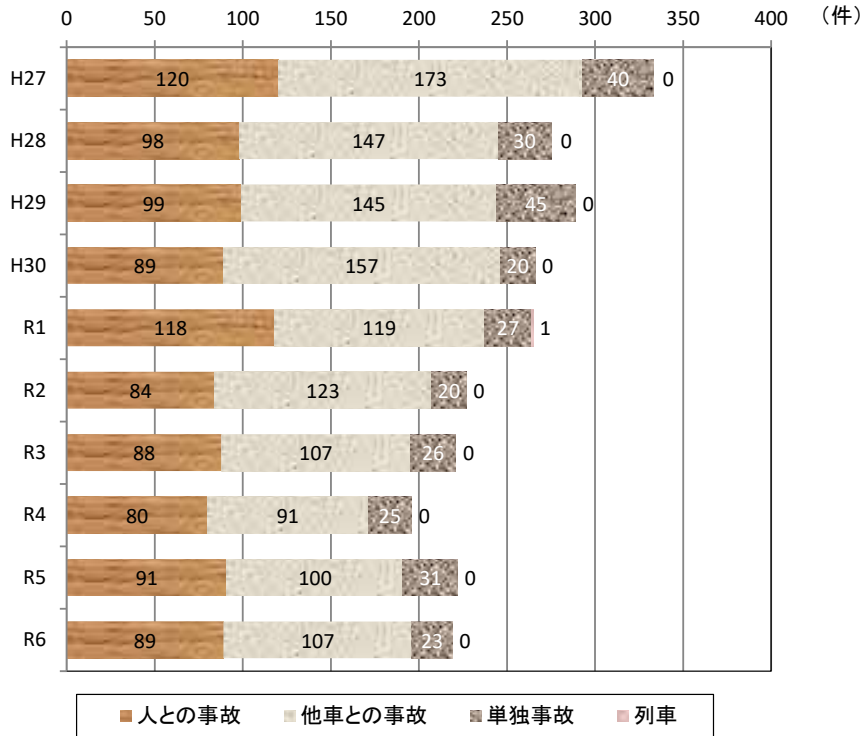


出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) トラックの事故類型別交通死亡事故件数の推移

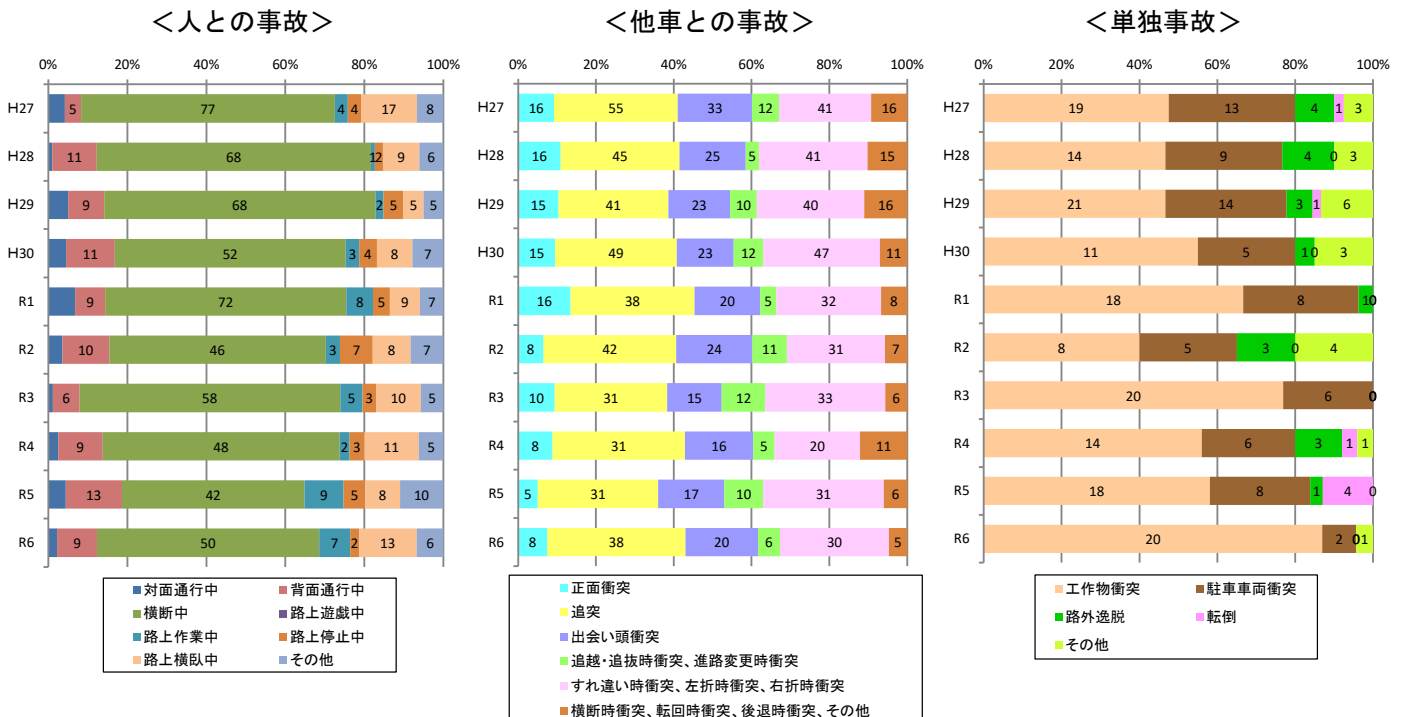
トラックの交通死亡事故を事故の種類で類型化すると、他車との事故が最も多く107件、人との事故が89件となっており、合計で約90%を占めている。また、トラックの交通死亡事故の中では横断中の人との事故が最も多く、50件（22.8%）となっている。

〔図 82〕 トラックの事故類型別交通死亡事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 83〕 トラックの事故類型別交通死亡事故件数の内訳の推移

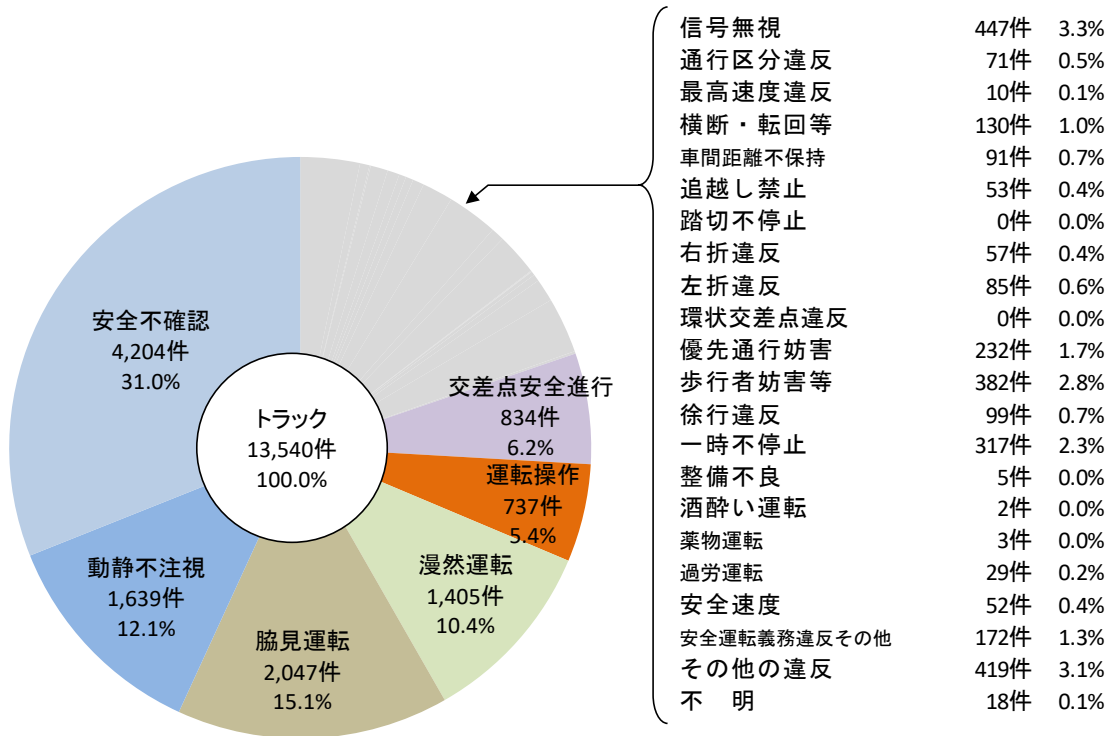


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) トラックの法令違反別の交通事故件数の割合

トラックの交通事故の法令違反別では、「安全不確認」4,204件（31.0%）が最も多く、次いで「脇見運転」2,047件（15.1%）、「動静不注視」1,639件（12.1%）となっており、合計で約58%となっている。

〔図 84〕 トラックの法令違反別の交通事故件数の割合（令和6年）

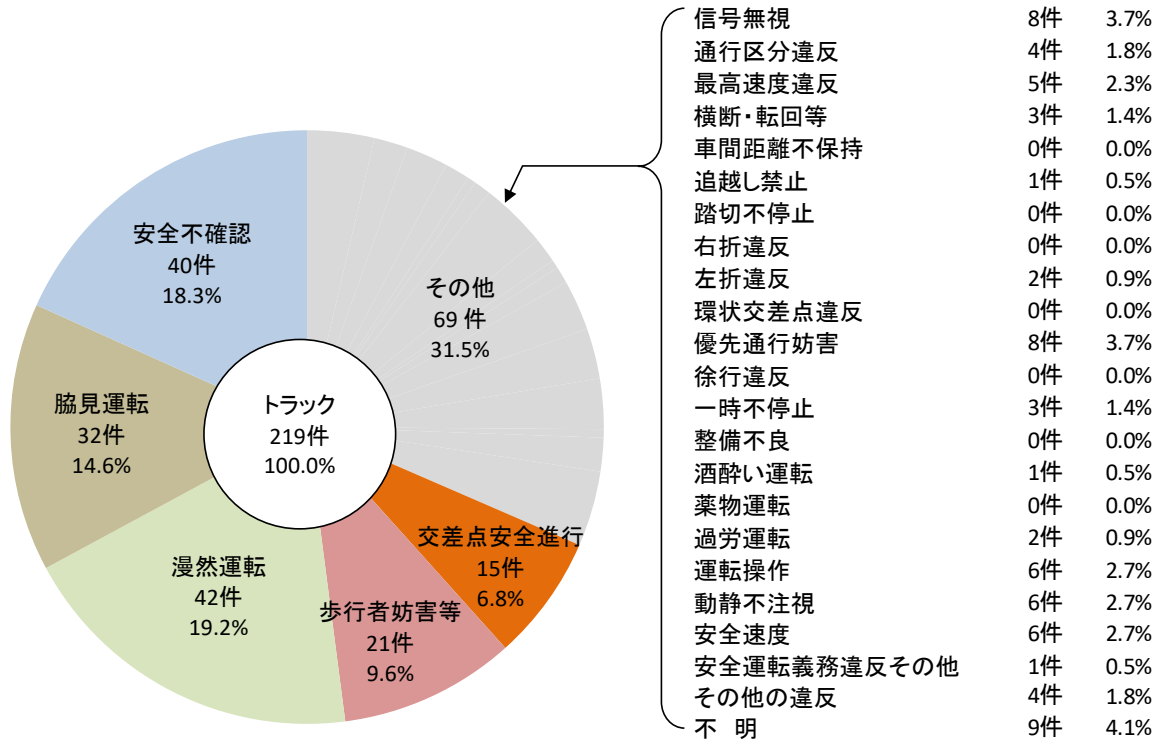


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) トラックの法令違反別の交通死亡事故件数の割合

トラックの交通死亡事故の法令違反別では、「漫然運転」42件（19.2%）が最も多く、次いで「安全不確認」40件（18.3%）、「脇見運転」32件（14.6%）となっており、合計で約半数を超えている。

〔図 85〕 トラックの法令違反別の交通死亡事故件数の割合（令和6年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) トラックの事故類型別、衝突地点別交通事故件数

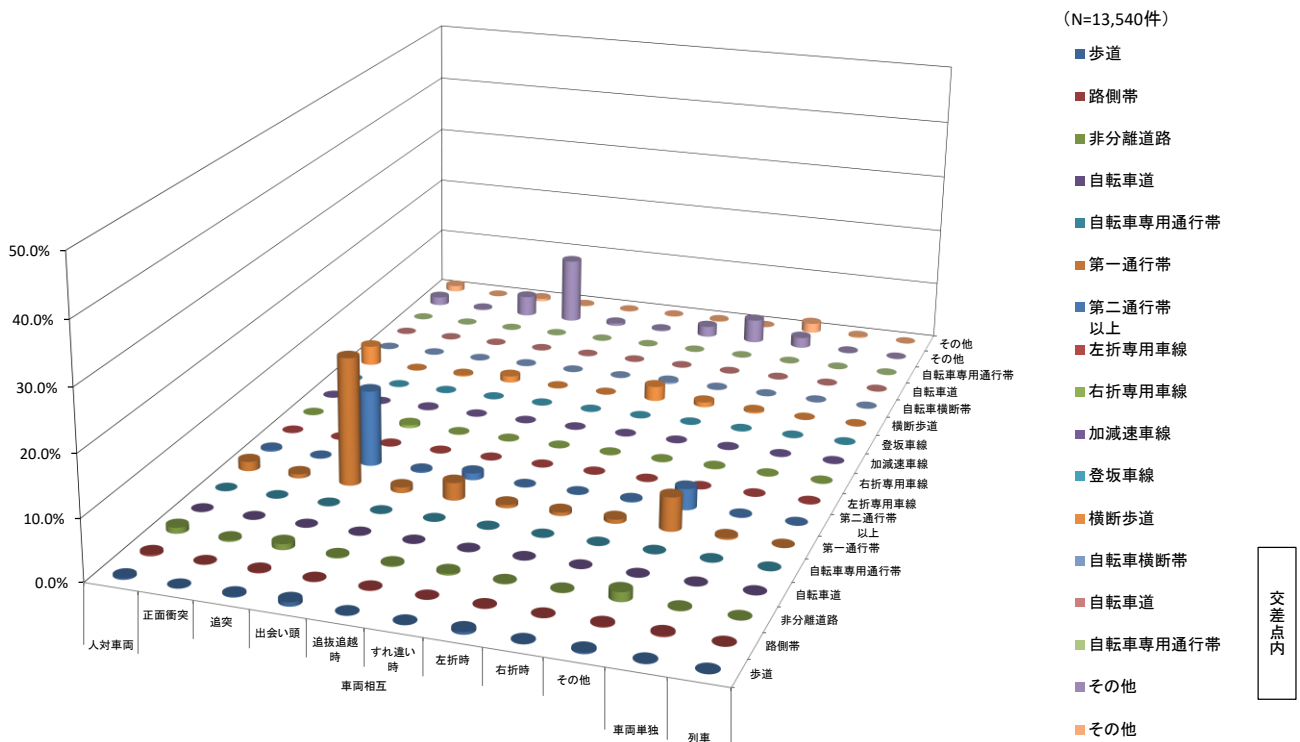
トラックの事故類型別、衝突地点別交通事故件数と構成比をそれぞれ表60と図86に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表61と図87に示す。交通事故件数については、第一通行帯での追突事故が最も多く2,874件(21.2%)、交通死亡事故件数については、第一通行帯での人対車両事故が最も多く37件(16.9%)となっている。

〔表 60〕 トラックの事故類型別、衝突地点別交通事故件数 (件) (令和6年)

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路(交差点付近を含む)	歩道	36	2	24	93	4	2	57	8	31	6	0	263
	路側帯	41	4	22	8	8	1	9	4	21	26	0	144
	非分離道路	132	31	130	21	24	39	8	11	209	11	0	616
	自転車道	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	自転車専用通行帯	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	第一通行帯	213	94	2,874	127	396	73	78	92	755	38	0	4,740
	第二通行帯以上	34	7	1,712	31	152	6	7	23	474	13	0	2,459
	左折専用車線	0	0	8	0	0	0	0	0	1	0	0	9
	右折専用車線	0	0	69	3	4	1	1	4	12	1	0	95
	加減速車線	0	0	19	0	0	1	0	0	7	0	0	27
	登坂車線	0	0	6	0	1	0	0	0	2	0	0	9
交差点内	横断歩道	457	4	27	150	11	1	340	114	36	0	0	1,140
	自転車横断帯	1	0	0	11	0	0	40	11	1	0	0	64
	自転車道	0	0	0	3	0	0	1	1	0	0	0	5
	自転車専用通行帯	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	4
	その他	204	24	483	1,552	64	24	254	558	251	15	0	3,429
その他	142	3	65	18	8	11	23	7	229	27	1	534	
合計	1,260	169	5,442	2,019	672	159	819	833	2,029	137	1	13,540	

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 86〕 トラックの事故類型別、衝突地点別交通事故件数の構成比 (%) (令和6年)



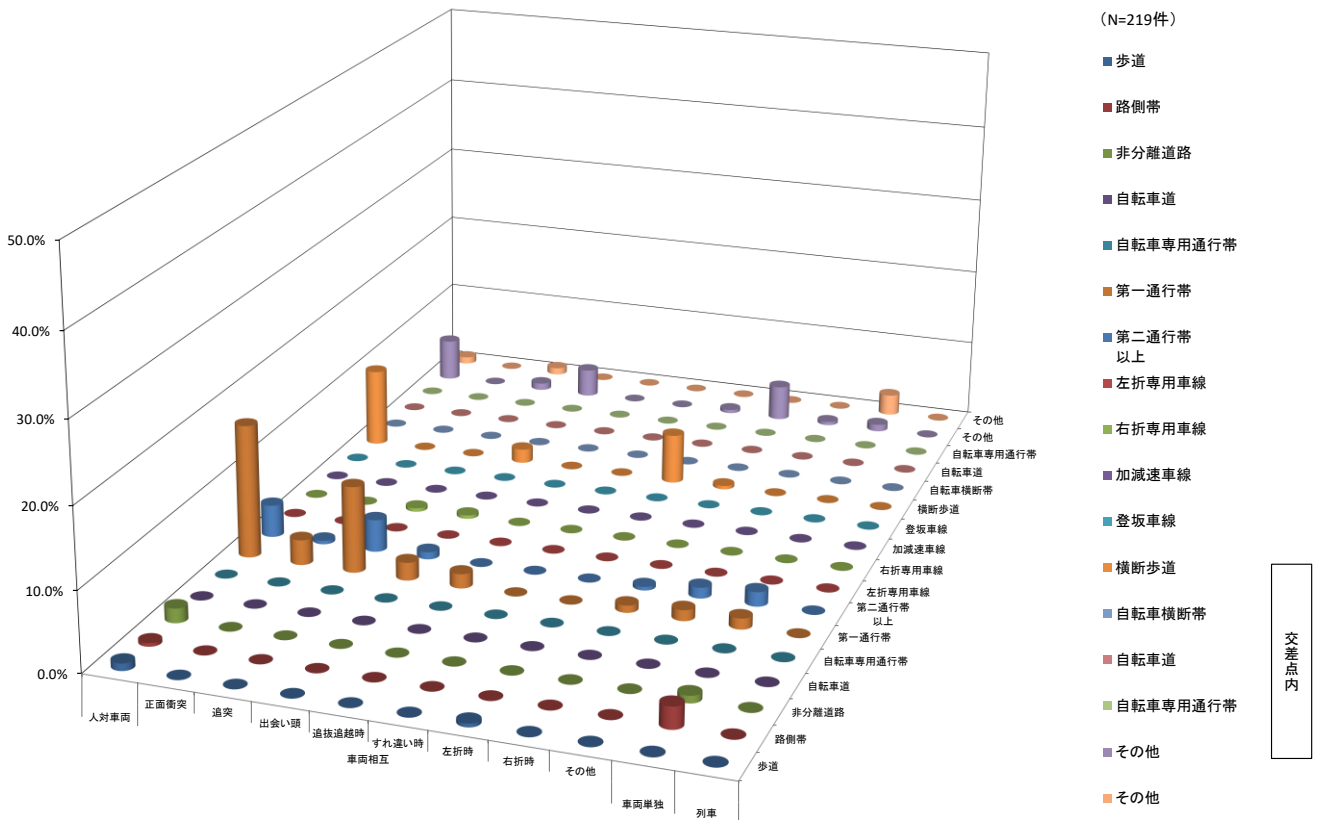
出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 61〕 トラックの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数（件）（令和 6 年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路（交差点付近を含む）	歩道	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	路側帯	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	7
	非分離道路	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	37	7	24	5	4	0	0	2	3	3	0	85
	第二通行帯以上	9	1	9	2	0	0	0	1	3	4	0	29
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交差点内	横断歩道	22	0	0	4	0	0	14	1	0	0	0
自転車横断帯		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車道		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車専用通行帯		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		12	0	2	8	0	0	1	10	1	2	0	36
その他	2	0	2	0	0	0	0	0	0	6	0	10	
合計	89	8	38	20	4	0	16	14	7	23	0	219	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 87〕 トラックの事故類型別、衝突地点別交通死亡事故件数の構成比（％）（令和 6 年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) トラックの事故類型別、行動類型別交通事故件数

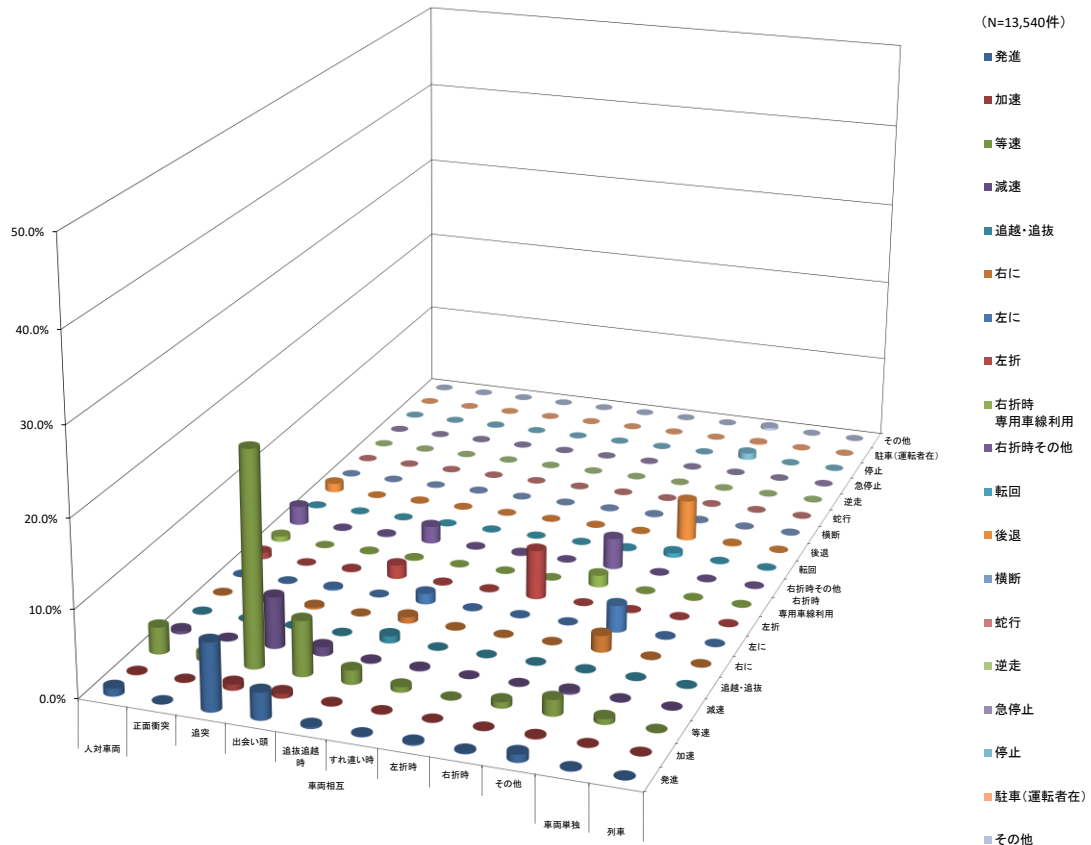
トラックの事故類型別、行動類型別交通事故件数と構成比をそれぞれ表62と図88に、交通死亡事故件数と構成比をそれぞれ表63と図89に示す。交通事故件数は、等速直進時の追突事故が最も多く3,349件（24.7%）、交通死亡事故件数は、等速直進時の人対車両事故が最も多く65件（29.7%）となっている。

〔表 62〕 トラックの事故類型別、行動類型別交通事故件数（件）（令和6年）

	人対車両	車両相互									車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
発進	122	6	1,056	422	29	10	25	16	121	9	1	1,817	
直進	加速	12	8	96	72	11	6	0	3	16	5	0	229
	等速	419	118	3,349	864	221	84	4	98	253	87	0	5,497
	減速	49	10	805	140	14	19	1	2	35	6	0	1,081
	追越・追抜	3	2	6	2	112	1	1	1	8	1	0	137
進路変更	右に	3	13	31	2	100	8	0	1	262	2	0	422
	左に	3	0	23	1	166	2	3	0	421	7	0	626
右折時	左折	105	2	18	218	7	7	778	0	0	0	0	1,135
	専用車線利用	86	0	11	9	1	1	0	188	0	3	0	299
	その他	302	6	15	277	9	18	0	497	0	3	0	1,127
転回	3	0	1	1	1	1	0	14	73	0	0	94	
後退	145	0	12	3	0	0	3	3	653	14	0	833	
横断	0	0	0	7	0	0	2	7	10	0	0	26	
蛇行	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3	
逆走	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	
急停止	0	0	6	1	0	0	0	0	1	0	0	8	
停止	3	0	9	0	0	0	0	0	113	0	0	125	
駐車(運転者在)	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	17	
その他	4	2	4	0	1	0	2	3	44	0	0	60	
合計	1,260	169	5,442	2,019	672	159	819	833	2,029	137	1	13,540	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 88〕 トラックの事故類型別、行動類型別交通事故件数の構成比（%）（令和6年）



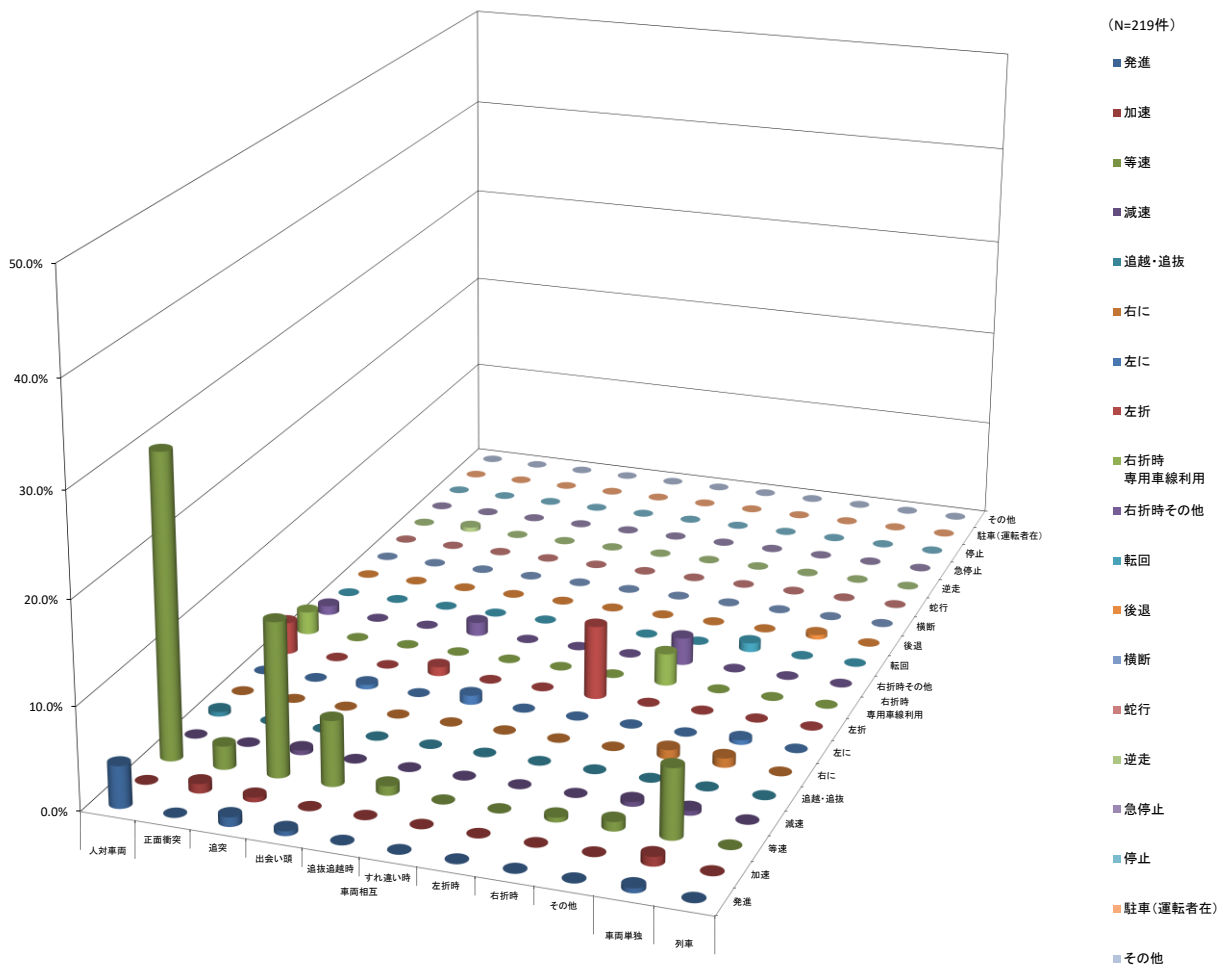
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 63〕 トラックの事故類型別、行動類型別交通死亡事故件数（件）（令和6年）

	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
発進	9	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	13
直進	加速	0	2	1	0	0	0	0	0	2	0	5
	等速	65	5	33	14	2	0	0	1	2	15	137
	減速	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	3
追越・追抜	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	4
	左に	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	4
左折	7	0	0	2	0	0	16	0	0	0	0	25
右折時	専用車線利用	5	0	0	0	0	0	7	0	0	0	12
	その他	2	0	0	3	0	0	6	0	0	0	11
転回	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
後退	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
横断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
逆走	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
急停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車（運転者在）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	89	8	38	20	4	0	16	14	7	23	0	219

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 89〕 トラックの事故類型別、行動類型別交通死亡事故件数の構成比（%）（令和6年）

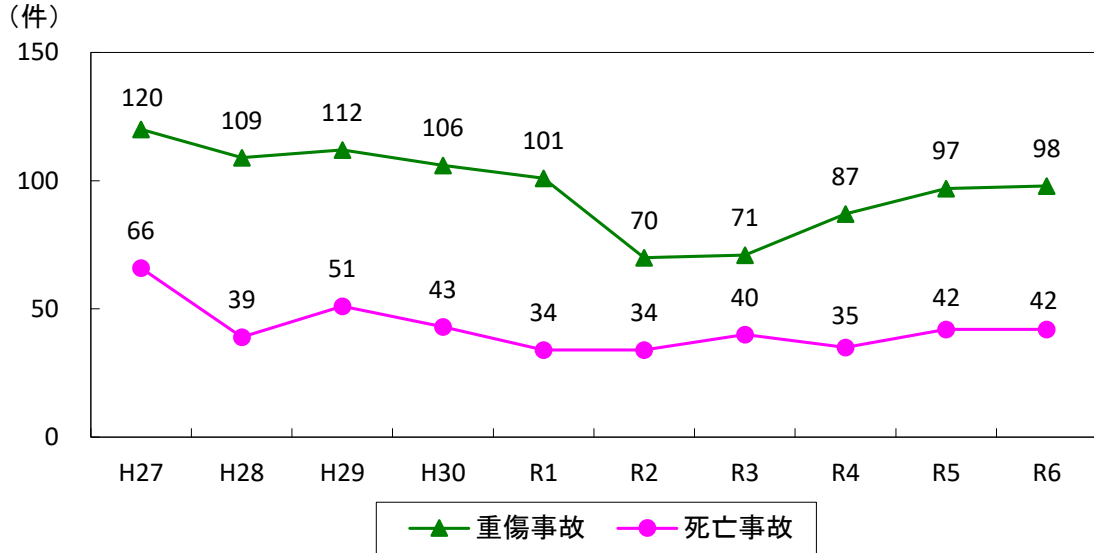


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) トラックの高速道路における交通事故のうち死亡・重傷事故の件数の推移

トラックの高速道路における令和6年の交通死亡事故は42件で前年と同数、重傷事故は98件で前年より1件増加した。

[図 90] トラックの高速道路における交通事故のうち死亡・重傷事故の件数の推移



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) トラックの追突事故件数、追突死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

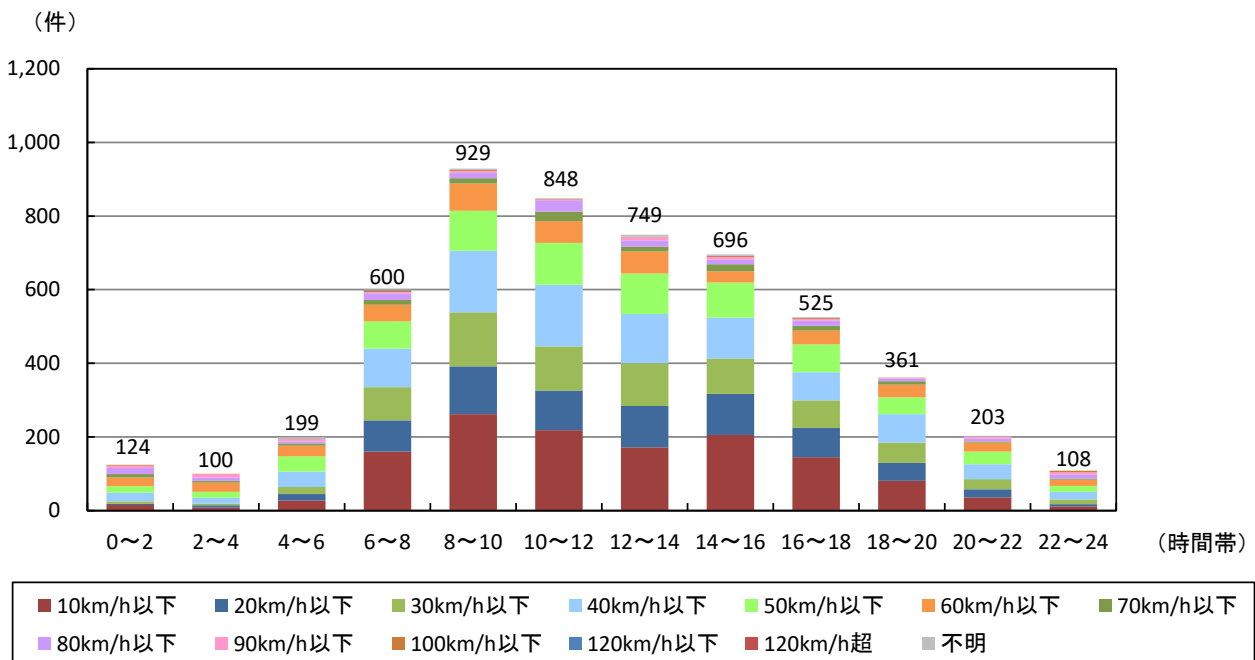
時間帯別危険認知速度別追突事故件数をみると、時間帯は8時～9時台が最も多く929件(17.1%)、次いで10時～11時台が848件(15.6%)となっている。危険認知速度は10km/h以下が最も多く1,340件(24.6%)、次いで30km/h超～40km/h以下が983件(18.1%)となっている。追突死亡事故件数は、時間帯は6時～7時台と8時～9時台が6件(15.8%)と最も多く、速度は70km/h超～80km/h以下が14件(36.8%)と最も多くなっており、追突死亡事故における危険認知速度が高めとなっている。

〔表 64〕 トラックの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (件) (令和6年)

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	15	8	27	160	262	218	172	205	145	81	36	11	1,340
20km/h以下	3	6	18	85	130	108	112	112	79	49	22	6	730
30km/h以下	7	5	19	90	146	120	116	96	75	55	27	13	769
40km/h以下	24	16	42	105	168	167	134	111	77	77	41	21	983
50km/h以下	17	16	41	74	108	114	110	95	75	46	34	16	746
60km/h以下	24	25	29	45	74	59	59	31	38	34	25	17	460
70km/h以下	9	5	6	13	15	26	14	19	13	9	3	3	135
80km/h以下	17	8	6	17	14	29	17	13	14	8	7	11	161
90km/h以下	6	10	6	4	6	4	8	7	5	1	6	6	69
100km/h以下	2	1	1	4	2	1	2	3	2	1	0	4	23
120km/h以下	0	0	1	2	0	1	0	1	1	0	0	0	6
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	3	1	4	1	5	3	1	0	2	0	20
合計	124	100	199	600	929	848	749	696	525	361	203	108	5,442

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 91〕 トラックの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (令和6年)



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

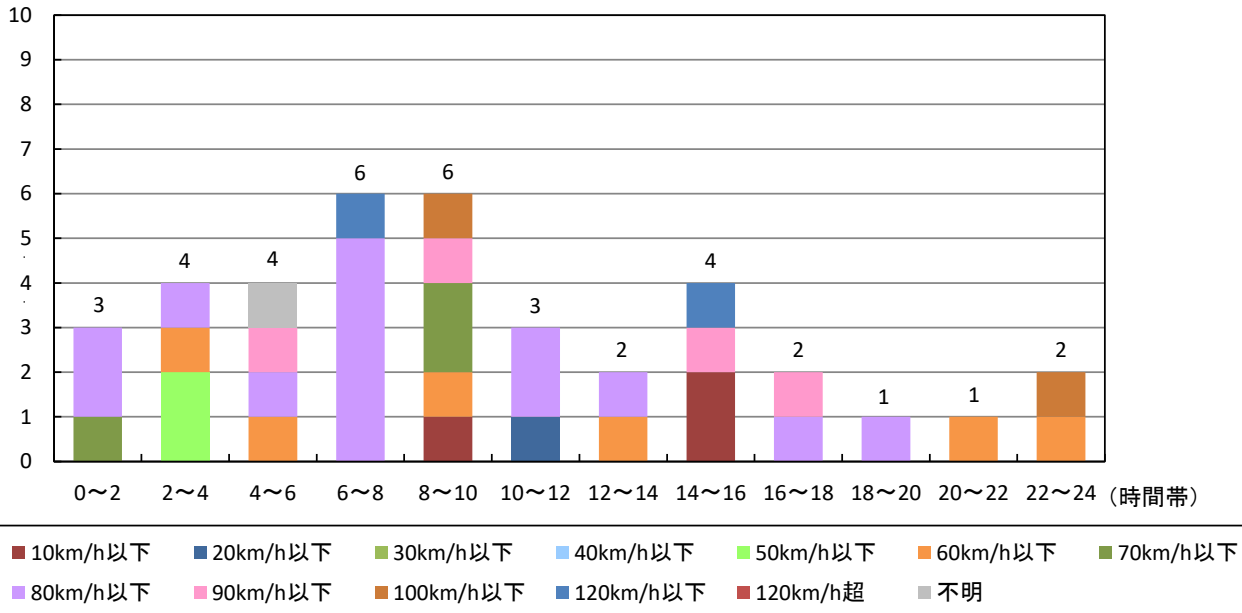
〔表 65〕 トラックの追突死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (件) (令和 6 年)

	時 間 帯												合計
	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	
10km/h以下	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3
20km/h以下	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
30km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50km/h以下	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
60km/h以下	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	1	1	6
70km/h以下	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
80km/h以下	2	1	1	5	0	2	1	0	1	1	0	0	14
90km/h以下	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	4
100km/h以下	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
120km/h以下	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	3	4	4	6	6	3	2	4	2	1	1	2	38

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 92〕 トラックの追突死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (令和 6 年)

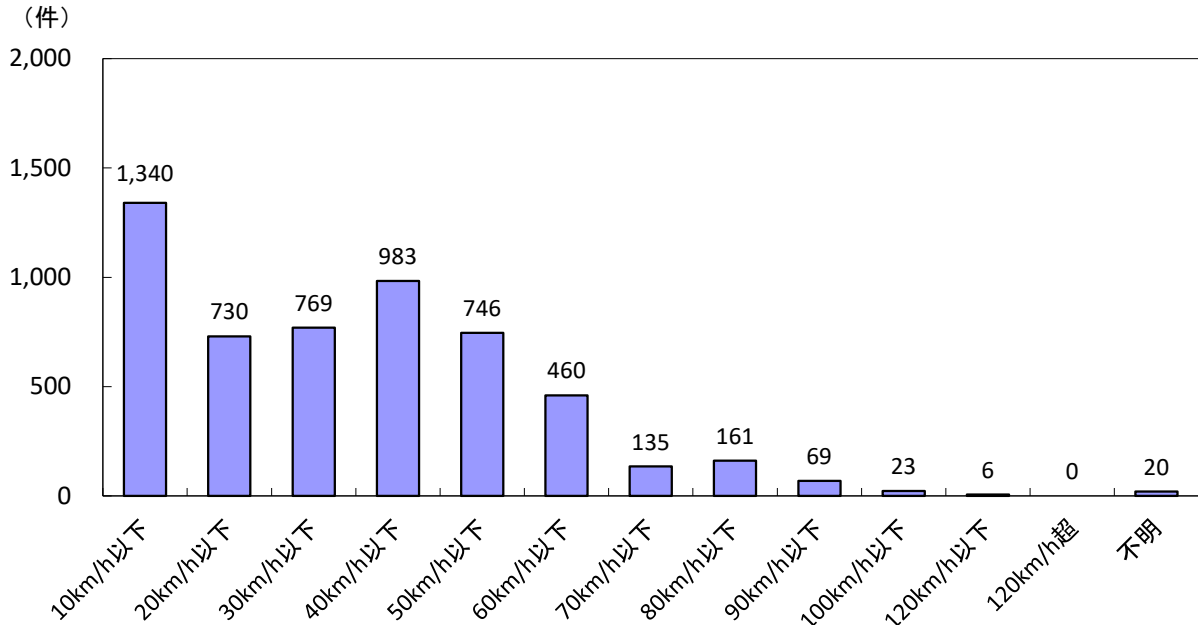
(件)



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

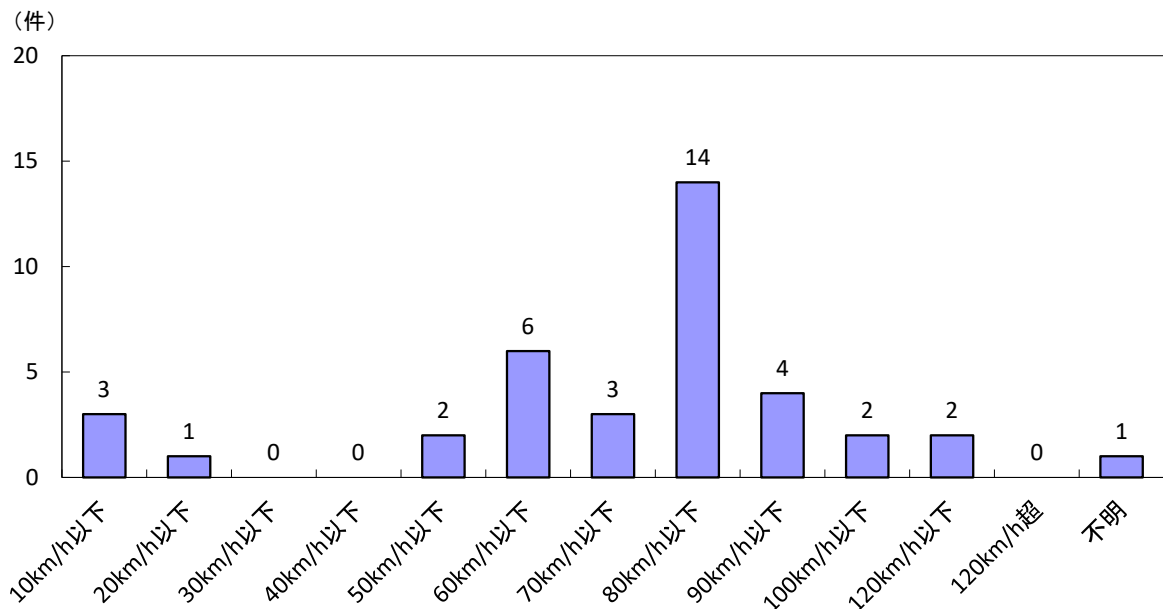
トラックの追突事故において、追突死亡事故は追突事故全体に比べて危険認知速度が高速側に分布している。

〔図 93〕 トラックの危険認知速度別の追突事故件数（令和6年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 94〕 トラックの危険認知速度別の追突死亡事故件数（令和6年）



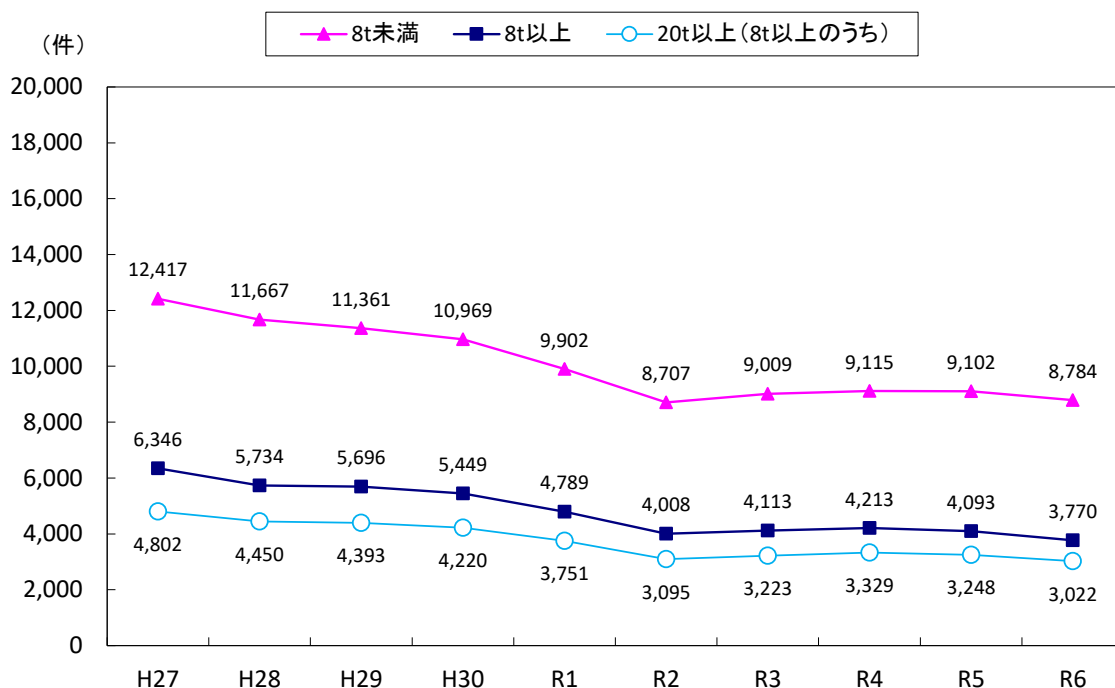
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) トラックの車両総重量別の交通事故件数の推移

① 交通事故件数

トラックの交通事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満、8トン以上ともに横ばいとなっているが、8トン以上は令和4年より10%以上減少している。

〔図 95〕 トラックの車両総重量別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 66〕 車両総重量別交通事故件数の推移（件）

区分 年	交通事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H27	12,417	6,346	4,802	18,763
H28	11,667	5,734	4,450	17,401
H29	11,361	5,696	4,393	17,057
H30	10,969	5,449	4,220	16,418
R1	9,902	4,789	3,751	14,691
R2	8,707	4,008	3,095	12,715
R3	9,009	4,113	3,223	13,122
R4	9,115	4,213	3,329	13,328
R5	9,102	4,093	3,248	13,195
R6	8,784	3,770	3,022	12,554

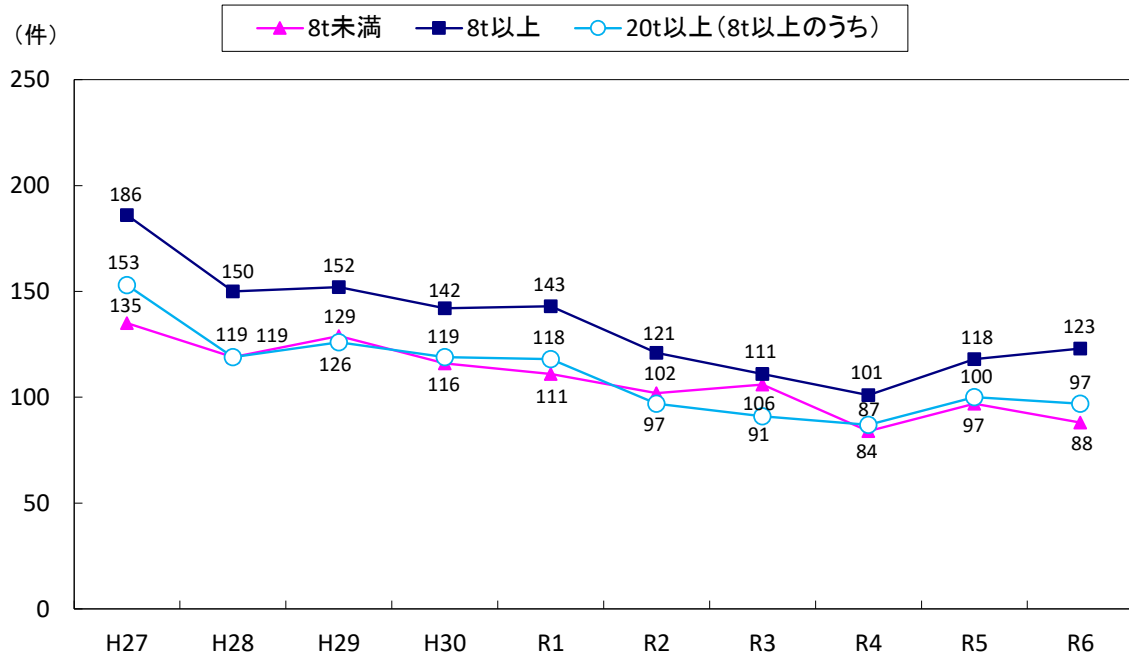
※合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

② 死亡事故件数

トラックの交通死亡事故件数の推移を車両総重量別にみると、令和6年は前年に比べ8トン未満は減少し、8トン以上は増加している。

〔図 96〕 トラックの車両総重量別交通死亡事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 67〕 車両総重量別交通死亡事故件数の推移（件）

区分 年	交通死亡事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H27	135	186	153	321
H28	119	150	119	269
H29	129	152	126	281
H30	116	142	119	258
R1	111	143	118	254
R2	102	121	97	223
R3	106	111	91	217
R4	84	101	87	185
R5	97	118	100	215
R6	88	123	97	211

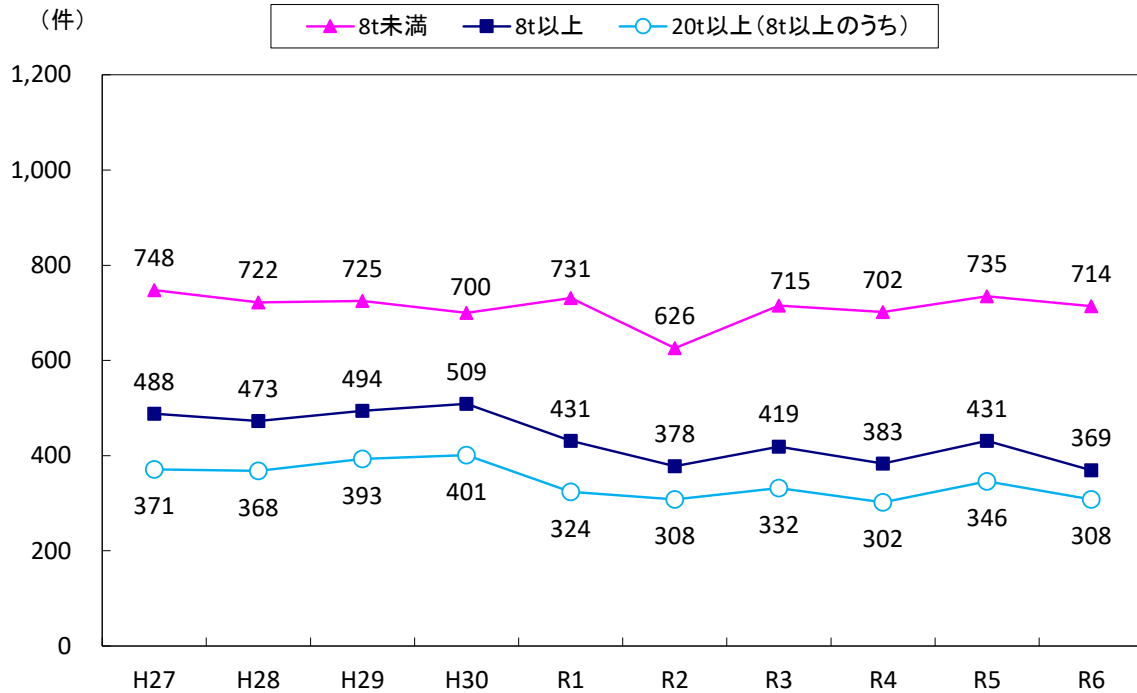
※合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

③ 重傷事故件数

トラックの重傷事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満が多くなっている。令和6年は前年に比べ8トン未満、8トン以上、ともに減少している。

〔図 97〕 トラックの車両総重量別重傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 68〕 車両総重量別重傷事故件数の推移（件）

区分 年	重傷事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H27	748	488	371	1,236
H28	722	473	368	1,195
H29	725	494	393	1,219
H30	700	509	401	1,209
R1	731	431	324	1,162
R2	626	378	308	1,004
R3	715	419	332	1,134
R4	702	383	302	1,085
R5	735	431	346	1,166
R6	714	369	308	1,083

※合計は車両総重量不明を除く

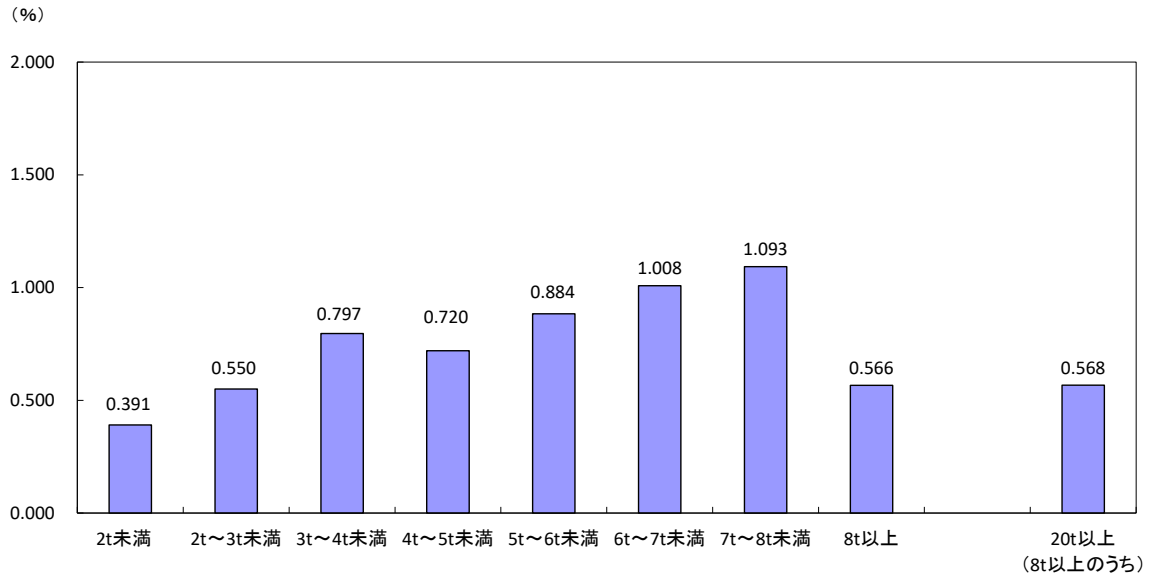
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(14) トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率

① 交通事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率は、7トン～8トン未満が最も高くなっている。

〔図 98〕 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故発生率（令和6年）



※軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

〔表 69〕 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故件数、車両数、発生率（令和6年）

	事故件数(件)	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	36	9,208	0.391%
2t～3t未満	64	11,636	0.550%
3t～4t未満	315	39,547	0.797%
4t～5t未満	744	103,302	0.720%
5t～6t未満	567	64,158	0.884%
6t～7t未満	476	47,207	1.008%
7t～8t未満	2,544	232,842	1.093%
8t以上	3,770	665,664	0.566%
うち20t以上	3,022	532,419	0.568%

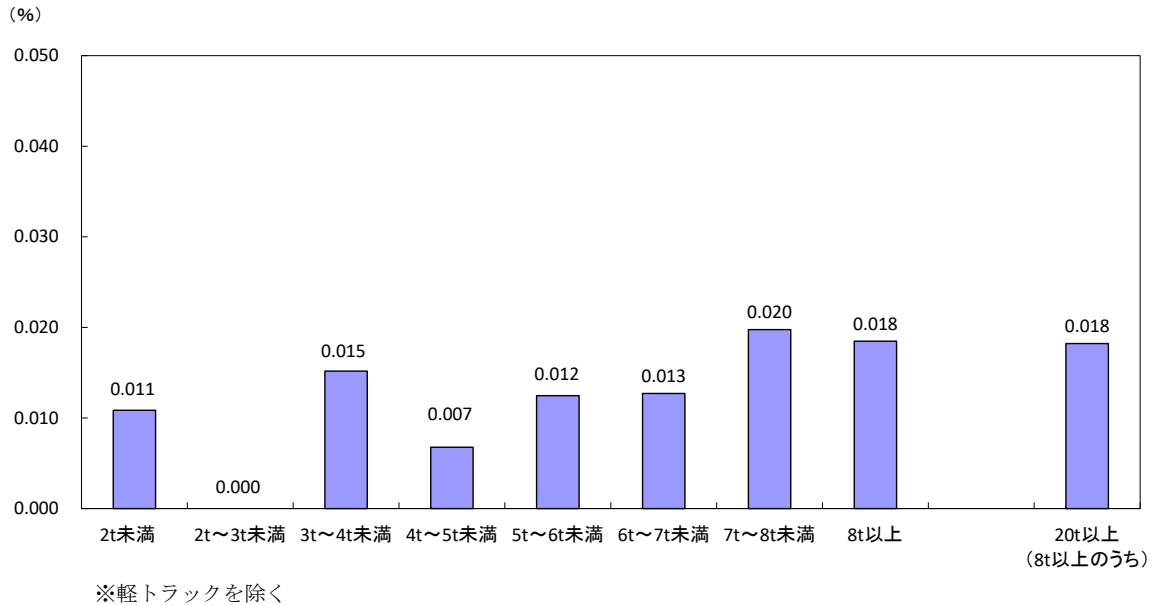
※軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

② 死亡事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの交通死亡事故発生率は、7トン～8トン未満が最も高くなっている。

〔図 99〕 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故発生率（令和6年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

〔表 70〕 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故件数、車両数、発生率（令和6年）

	死亡事故件数	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	1	9,208	0.011%
2t～3t未満	0	11,636	0.000%
3t～4t未満	6	39,547	0.015%
4t～5t未満	7	103,302	0.007%
5t～6t未満	8	64,158	0.012%
6t～7t未満	6	47,207	0.013%
7t～8t未満	46	232,842	0.020%
8t以上	123	665,664	0.018%
うち20t以上	97	532,419	0.018%

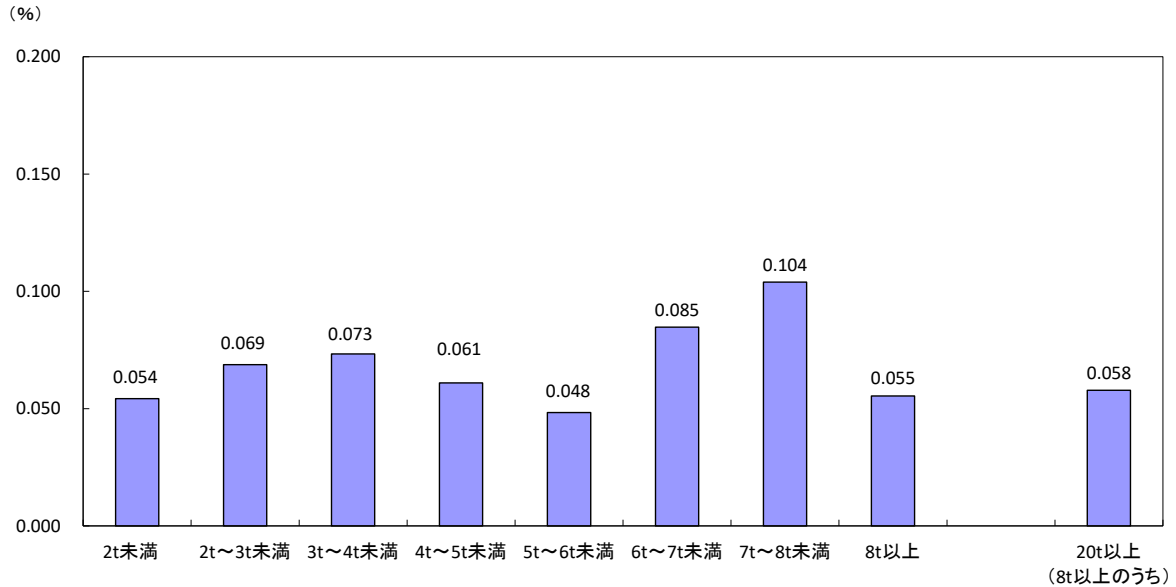
※軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

③ 重傷事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの重傷事故発生率は、7トン～8トン未満が最も高くなっている。

〔図 100〕 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故発生率（令和6年）



※軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

〔表 71〕 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数、車両数、発生率（令和6年）

	重傷事故件数	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	5	9,208	0.054%
2t～3t未満	8	11,636	0.069%
3t～4t未満	29	39,547	0.073%
4t～5t未満	63	103,302	0.061%
5t～6t未満	31	64,158	0.048%
6t～7t未満	40	47,207	0.085%
7t～8t未満	242	232,842	0.104%
8t以上	369	665,664	0.055%
うち20t以上	308	532,419	0.058%

※軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

5. まとめ

令和6年中に全国で発生した事業用自動車の交通事故件数は22,623件で、そのうち交通死亡事故件数は277件、死者数は286人であり、前年と比べて交通事故件数は減少したが、交通死亡事故件数、死者数は増加している。

○乗合バス

乗合バスの交通事故件数は横ばいとなっていたが、令和6年は860件と、前年と比べて82件増加している。

- ・「他車との事故」や「単独事故」が多く、合計で745件と約87%を占めている。また、「単独事故」のうち約76%が「車内事故」である。
- ・乗合バスの交通事故の中で最も多い「車内事故」280件のうち、108件が「発進時」、75件が「直進（加速、等速、減速）時」、57件が「急停止時」に発生している。また、「車内事故」による負傷者は297人で、高齢者（65歳以上）が138人で半数近くを占めている。なお、男性に比べて女性の負傷者数は2.8倍となっている（男性78人、女性219人）。

また、乗合バスの交通死亡事故件数は、令和6年は7件と、前年と比べて4件増加している。内訳は、「人との事故」が6件、「他車との事故」が1件である。

○貸切バス

貸切バスの交通事故件数は令和5年に増加したが、令和6年は163件と、前年と比べて43件減少した。

- ・「他車との事故」が多く、132件で約81%を占めている。このうち、約39%が「追突事故」である。
- ・貸切バスの交通事故の中で最も多い「追突事故」52件のうち、「第一通行帯」での発生が27件、「第二通行帯以上」での発生が14件となっている。

また、貸切バスの交通死亡事故は、令和5年は2件であったが、令和6年は4件で、「人との事故」3件、「他車との事故」1件となっている。

○タクシー

タクシーの交通事故件数は横ばいとなっており、令和6年は8,056件と、前年と比べて391件減少した。

- ・「他車との事故」が多く、5,777件と約72%となっている。このうち、約26%が「追突事故」、約25%が「出会い頭衝突」である。
- ・タクシーの交通事故の中で最も多い「追突事故」1,486件のうち、「第一通行帯」での発生が

710 件となっている。

- ・なお、タクシーの交通事故のうち、6,094 件（75.6%）が空車時に発生している。

また、タクシーの交通死亡事故件数は近年増加傾向となっており、令和 6 年は 47 件と、前年と比べて 11 件増加している。そのうち、「人との事故」が 34 件、「他車との事故」が 9 件となっている。また、「路上横臥中」での発生が 18 件となっている。

○トラック

トラックの交通事故は横ばいとなっており、令和 6 年は 13,540 件と、前年と比べて 633 件減少している。

- ・「他車との事故」が多く、12,142 件と約 90%を占めている。このうち、約 45%が「追突事故」である。
- ・トラックの交通事故の中で最も多い「追突事故」を発生時間帯で分類すると、6 時～17 時台が 4,347 件と約 80%を占めており、このうち 8 時～9 時台が 929 件と最多になっている。また、危険認知速度で分類すると、10km/h 以下の低速が 1,340 件と約 25%、30km/h 超～40km/h 以下の中速が 983 件と約 18%を占めている。発生地点で分類すると、「第一通行帯」での発生が 2,874 件と約 53%を占めている。

また、トラックの交通死亡事故は近年横ばいとなっている。

- ・「人との事故」や「他車との事故」が多く、合計で 196 件と約 90%を占めている。
- ・「他車との事故」のうち、「追突」が 38 件、「すれ違い時衝突、左折時衝突、右折時衝突」が 30 件、「出会い頭衝突」が 20 件、となっている。
- ・「人との事故」を発生地点で分類すると、「第一通行帯」での発生が 37 件、「交差点内」での発生が 34 件となっている。

また、飲酒運転による事業用自動車の交通事故は、令和 5 年に増加したが、令和 6 年は 37 件と、前年と比べて 11 件減少した。なお、令和 6 年はトラックが 35 件、タクシーが 2 件であり、バスは 0 件となっている。